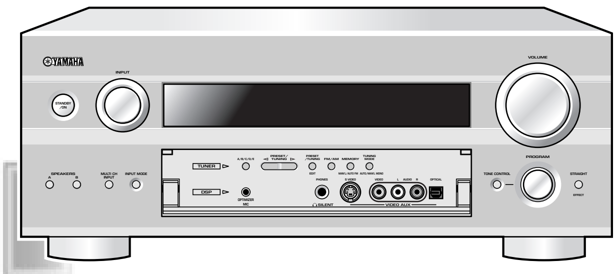
YAMAHA

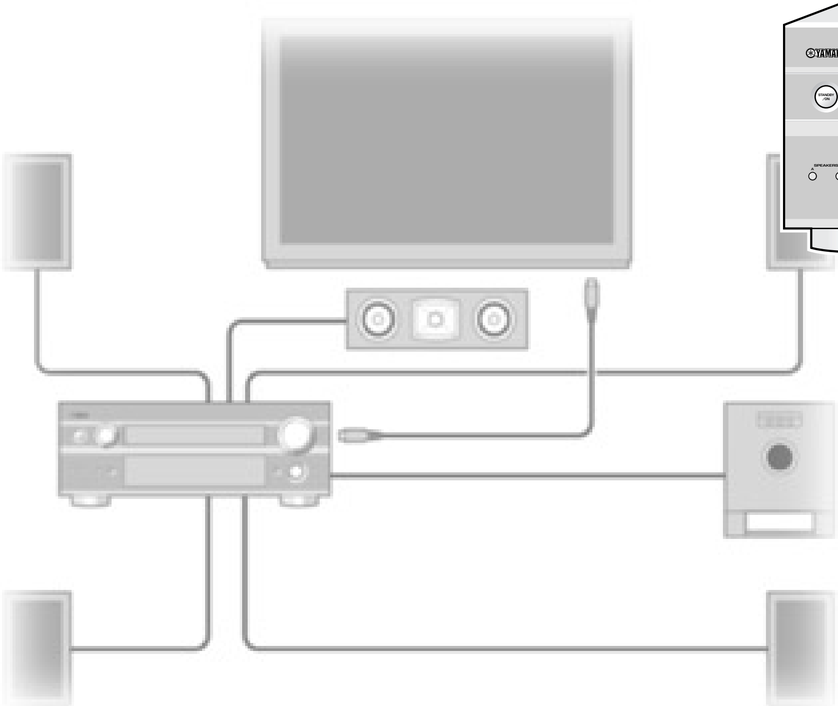
DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX1400

取扱説明書





準備・接続編

本機を使用するにあたって必要な準備（設置・接続・調整）について説明しています。

ヤマハDSP AVアンプDSP-AX1400をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

- △ 気をつけなければならない内容を表しています。たとえば⚠は「感電注意」を示しています。
- ⊘ してはいけない行為を表しています。たとえば⊘は「分解禁止」を示しています。
- ● 必ずしなければならない行為を表しています。たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

● 異常なにおいや音がする。　● 煙が出る。
● 内部に水や異物が混入した。
　そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。

● 重いものを上に載せない。　● ステープルで止めない。　● 加工をしない。
● 熱器具には近づけない。　● 無理な力を加えない。
　芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

● 浴室・台所・海岸・水辺　● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ
　水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。

　感電の原因となります。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

　火災や感電の原因となります。
　修理・調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

● 布やテーブルクロスをかけない。　● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
● あおむけや横倒しには設置しない。　● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
　本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

　火災の原因となります。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには、本機(または接続機器)の電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

● 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

● コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。
感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。
それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

必ず付属の専用電源コードを使用する。
専用コード以外の使用は、火災や感電の原因となることがあります。

必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。

禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

必ず行う

重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

けがの原因となることがあります。



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS、DTS-ES Extended SurroundおよびNeo:6はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

AACロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,95	5,583,962	98/03037	08/039,478	5,490,170
5848391	5,274,740	97/02875	08/211,547	5,264,846
5,291,557	5,633,981	97/02874	5,703,999	5,268,685
5,451,954	5 297 236	98/03036	08/557,046	5,375,189
5 400 433	4,914,701	5,227,788	08/894,844	5,581,654
5,222,189	5,235,671	5,285,498	5,299,238	05-183,988
5,357,594	07/640,550	5,481,614	5,299,239	5,548,574
5 752 225	5,579,430	5,592,584	5,299,240	08/506,729
5,394,473	08/678,666	5,781,888	5,197,087	

THXとTHXロゴはTHXの登録商標です。サラウンドEXはTHXとドルビーラボラトリーズの共同開発による技術で、ドルビーラボラトリーズの商標です。不許複製。許可のもとに使用されています。

もくじ

はじめに

スピーカーを接続する

接続の準備

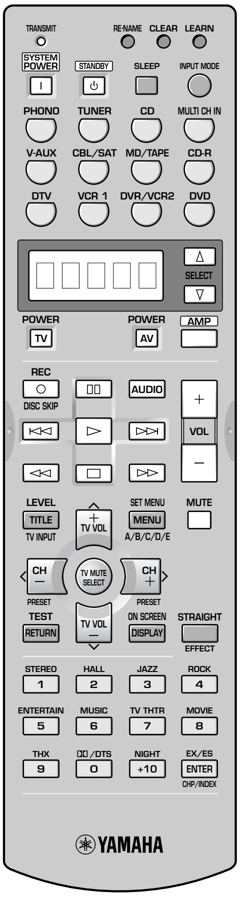
接続する

接続が終わったら

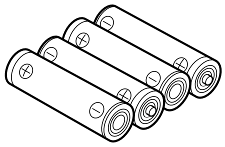
付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

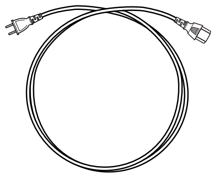
リモコン



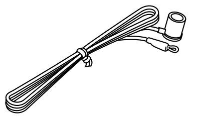
単4乾電池×4本



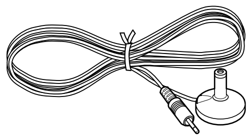
電源コード



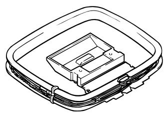
FM簡易アンテナ



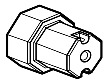
オプティマイザーマイク



AMループアンテナ



スピーカーターミナルレンチ

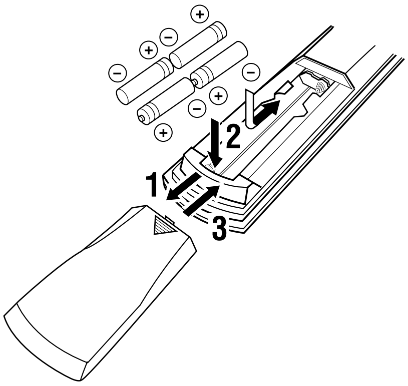


ご注意

- オプティマイザーマイクは高温に弱いため、以下の点にご注意ください。
  －直射日光が当たる場所に置かない。
  －本体の上に置かない。

リモコンを準備する

リモコンに電池を入れる



1 ***リモコンの裏ぶたの ▽ マークを押しながら、電池カバーを取りはずす***

2 ***付属の単4乾電池(4本)を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス(+)とマイナス(−)の向きを間違えないように、正しく入れる***

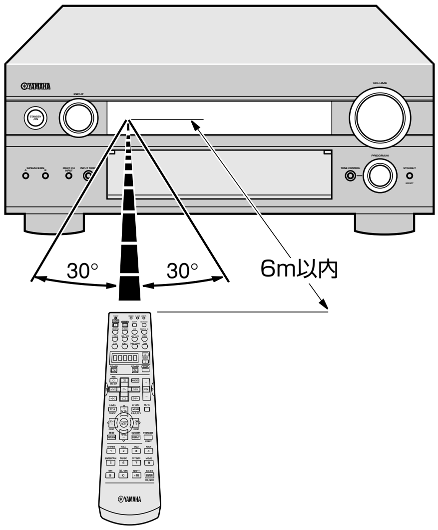
3 ***裏ぶたを閉じる***

ご注意

- リモコンで操作しづらくなったり、キーを押してもTRANSMITインジケーターが光らない場合は、乾電池が消耗しています。このような場合は、すべての乾電池を新しいものに変えてください。

リモコンの使用範囲

リモコンは直進性の強い赤外線を使用しています。本体のリモコン受光窓に向けて正しく操作してください。



ヒント

- リモコンでうまく操作ができないときは、以下のことを確認してください。
  - 本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか？
    →布などを取り除いてください。
  - 本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯など)が当たっていませんか？
    →照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えてください。
  - 乾電池が消耗しています。
    →すべての電池を新しいものに変えてください。

ご注意

- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがあります。種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使わないでください。
- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 冷暖房器具のそばなど、極端に温度が低くなったり高くなるところや、風呂場など、湿度が高くなるところには置かないでください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。

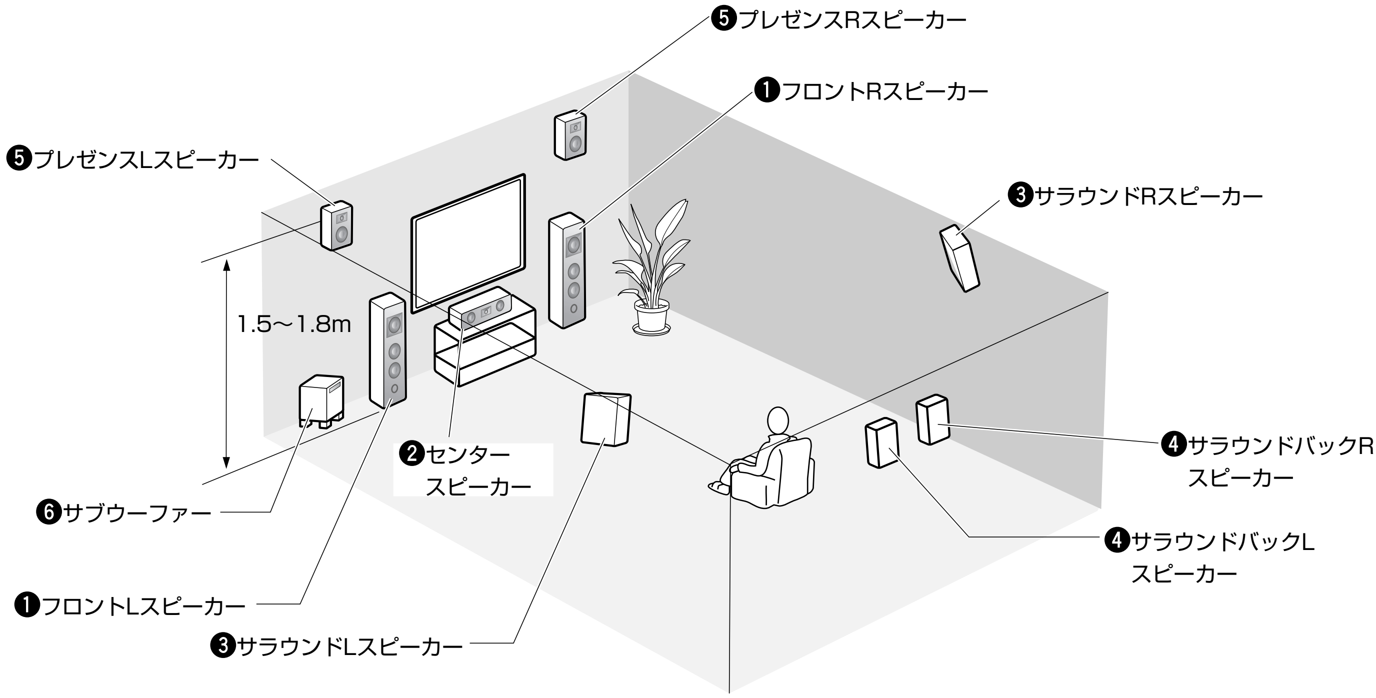
スピーカーを接続する

スピーカーを設置する

スピーカーは下図のように設置します。

ご注意

- スピーカーは防磁型スピーカーをご使用ください。防磁型以外のスピーカーをご使用になりますと、テレビの画像が乱れる場合があります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーの使用をおすすめします。防磁型スピーカーをご使用の場合でも画像が乱れるときは、テレビとスピーカーを離して設置してください。



❶ フロントL/Rスピーカーの設置

左右のスピーカーを、リスニングポジションから等距離に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から1/4位の高さが適当です。

❷ センタースピーカーの設置

フロントL/Rスピーカーの中間に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーンと真下中央に設置します。
テレビをお使いの場合は、画面とスピーカー前面とを揃えます。テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところに設置します。

❸ サラウンドL/Rスピーカーの設置

後方斜めに、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さで設置します。

❹ サラウンドバックL/Rスピーカーの設置

リスニングポジションの後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さで設置します。2本のサラウンドバックL/Rスピーカーを設置する場合は、2本を近づけて設置します。

❺ プレゼンスL/Rスピーカーの設置

フロントL/Rスピーカーの外側0.5～1mの範囲に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さで設置します。

❻ サブウーファーの設置

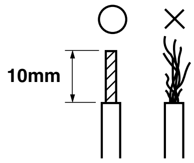
フロント側に設置する場合は、フロントL/Rスピーカーの外側に設置します。壁の反射を防ぐために、少し内向きにして設置します。
リア側に設置する場合は、リスニングポジションの後方に設置します。

スピーカーを接続する

スピーカーケーブルを接続する

左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+(赤)、−(黒)をよく確認して、正しく接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部(被覆)を、10mmぐらいはがす



2 芯線をしっかりよじる

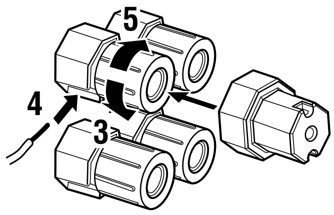
〈プレゼンススピーカー以外のスピーカーの場合〉

3 スピーカー端子を左に回して、ゆるめる

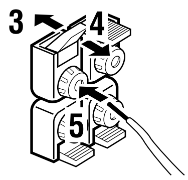
4 スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む

5 スピーカー端子を右に回して、しめる

プレゼンススピーカー以外



プレゼンススピーカー



ヒント

- 付属のスピーカーターミナルレンチを使うと、端子を回しやすくなります。

〈プレゼンススピーカーの場合〉

3 タブを開ける

4 スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む

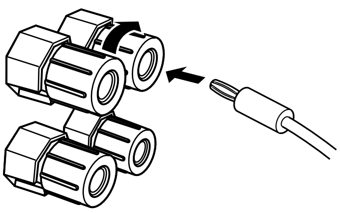
5 タブを戻して、コードを固定する

ご注意

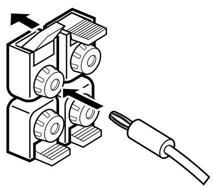
- スピーカーは、インピーダンスが6Ω以上のものを使ってください。フロントL/RスピーカーをA、B同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使ってください。
- スピーカーコードの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、+側と−側が接触すると、保護回路がはたらいて電源がスタンバイ状態になることがあります。
- スピーカーと本機の+端子どうし、−端子どうしを接続してください。間違えて接続すると、音が不自然になります。

バナナプラグを使用する場合

プレゼンススピーカー以外



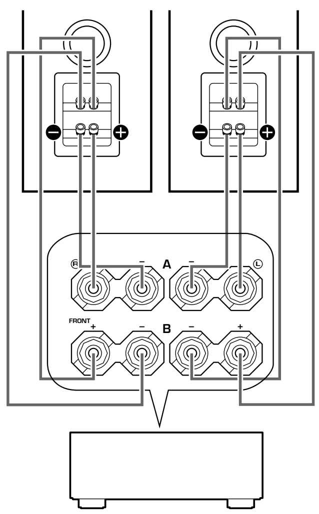
プレゼンススピーカー



プレゼンススピーカー以外
端子を強くしめてから差し込んでください。

プレゼンススピーカー
タブを開けてから差し込んでください。

バイワイヤリング接続する場合



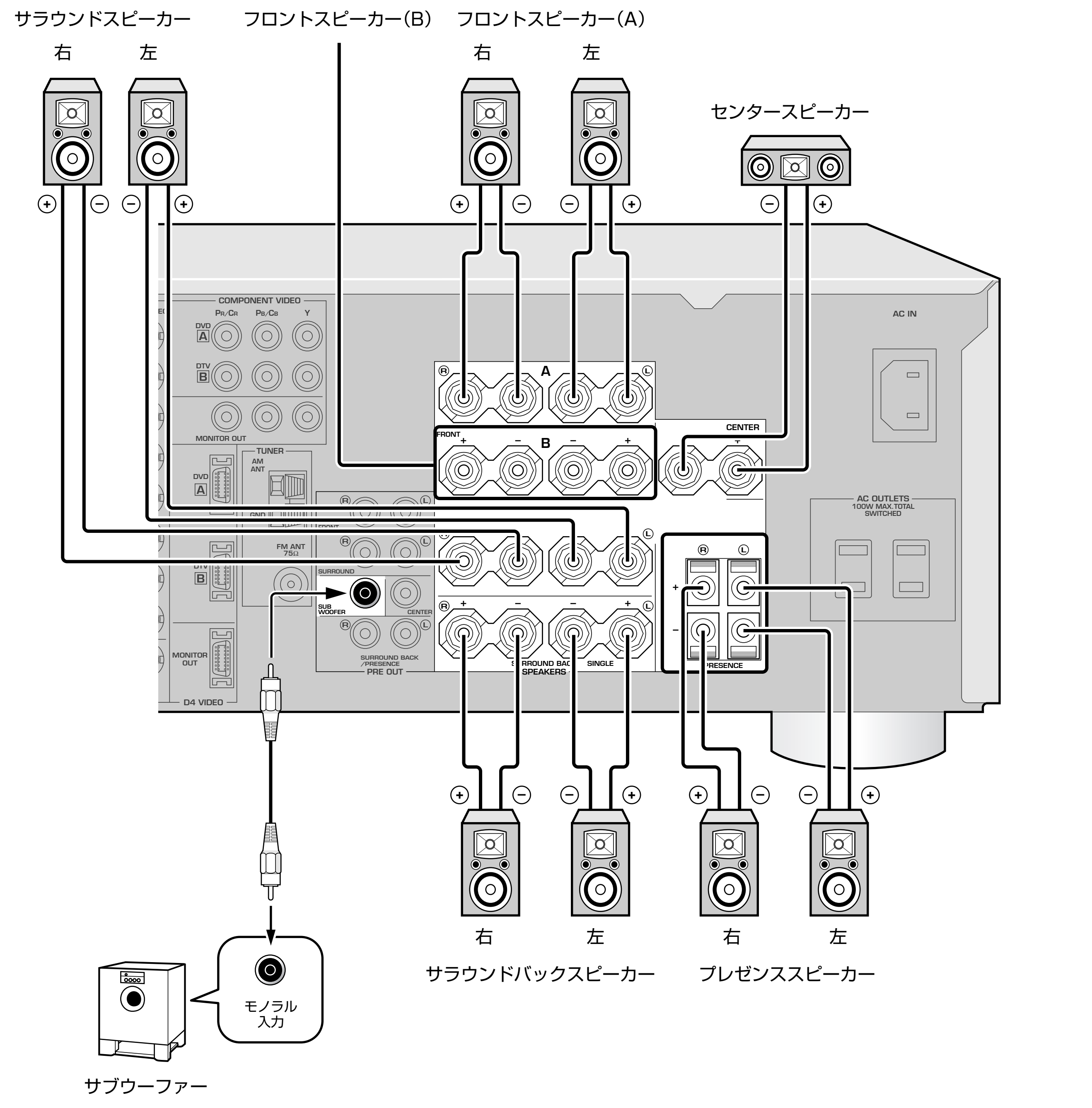
スピーカーのウーファー端子とツィーター端子を、それぞれFRONT A端子とFRONT B端子に接続します。
ご使用になるときは、SPEAKER A/Bスイッチを両方押してください。

はじめに
スピーカーを接続する
接続の準備
接続する
接続が終わったら

サブウーファーを接続する

ヤマハアクティブサーボサブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、SUBWOOFER端子に接続します。

下図のように、スピーカーを接続します。



ヒント

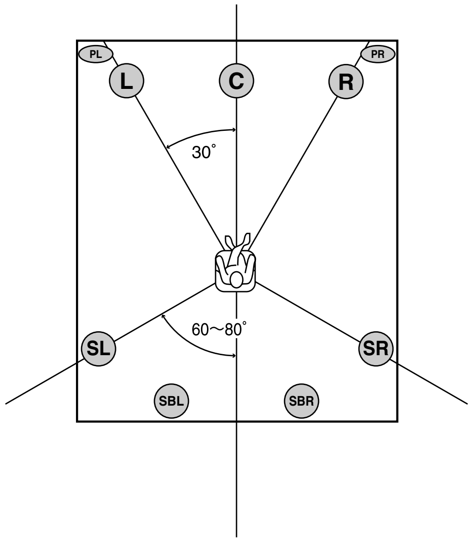
- フロントL/Rスピーカーを2組設置したい場合や、1組を別の部屋に置いて音声を楽しみたい場合は、FRONT B端子にもう1組フロントL/Rスピーカーを接続できます。
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使う場合は、SURROUND BACK(SINGLE)端子に接続してください。
- サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの両方を接続した場合、同時に使用することはできませんが、音場プログラムや再生するソースによって効果的に鳴らし分けをすることができます(応用操作編33ページ)。

スピーカーシステムの構成

ムービーシアタープログラムでは、70mmマルチトラックの迫力と臨場感をリアルに再現し、会話は画面上に定位し、効果音は画面後方、音楽はさらにその後方に広がりを持って再現されます。最も本機の性能を発揮できるシステムであり、シネマDSPの音場効果から、SACDやDVDオーディオなどのマルチチャンネルオーディオ、THXサラウンドモード再生までお楽しみいただけます。

使用するスピーカー

- フロントL/Rスピーカー(L/R)
- センタースピーカー(C)
- プレゼンスL/Rスピーカー(PL/PR)
- サラウンドL/Rスピーカー(SL/SR)
- サラウンドバックL/Rスピーカー(SBL/SBR)



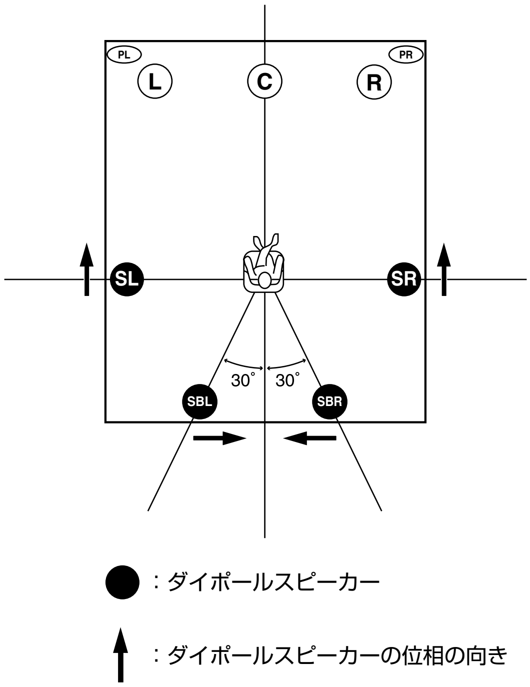
* ITU-R基準配置：マルチチャンネルオーディオのミキシングスタジオで採用されている、国際的な基準配置です。

ダイポールスピーカーの使用例

THXサラウンドモードで再生するときは、モノポールまたはダイポールスピーカーの両方が使用可能です。ダイポールスピーカーを使用する場合は、右図のように配置してください。

使用するスピーカー

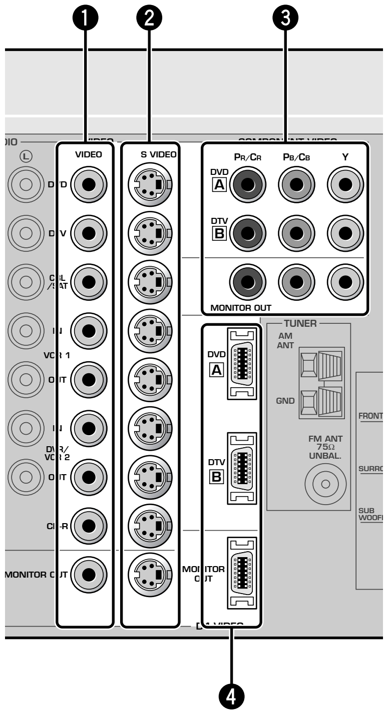
- フロントL/Rスピーカー(L/R)
- センタースピーカー(C)
- サラウンドL/Rスピーカー(SL/SR)
- サラウンドバックL/Rスピーカー(SBL/SBR)



接続の準備

ビデオ端子について

本機は4種類のビデオ端子を装備しています。



❶ **ビデオ端子**
コンポジットビデオ信号を伝送します。

❷ **Sビデオ端子**
Sビデオ信号を伝送します。

❸ **コンポーネントビデオ端子**
コンポーネントビデオ信号を伝送します。

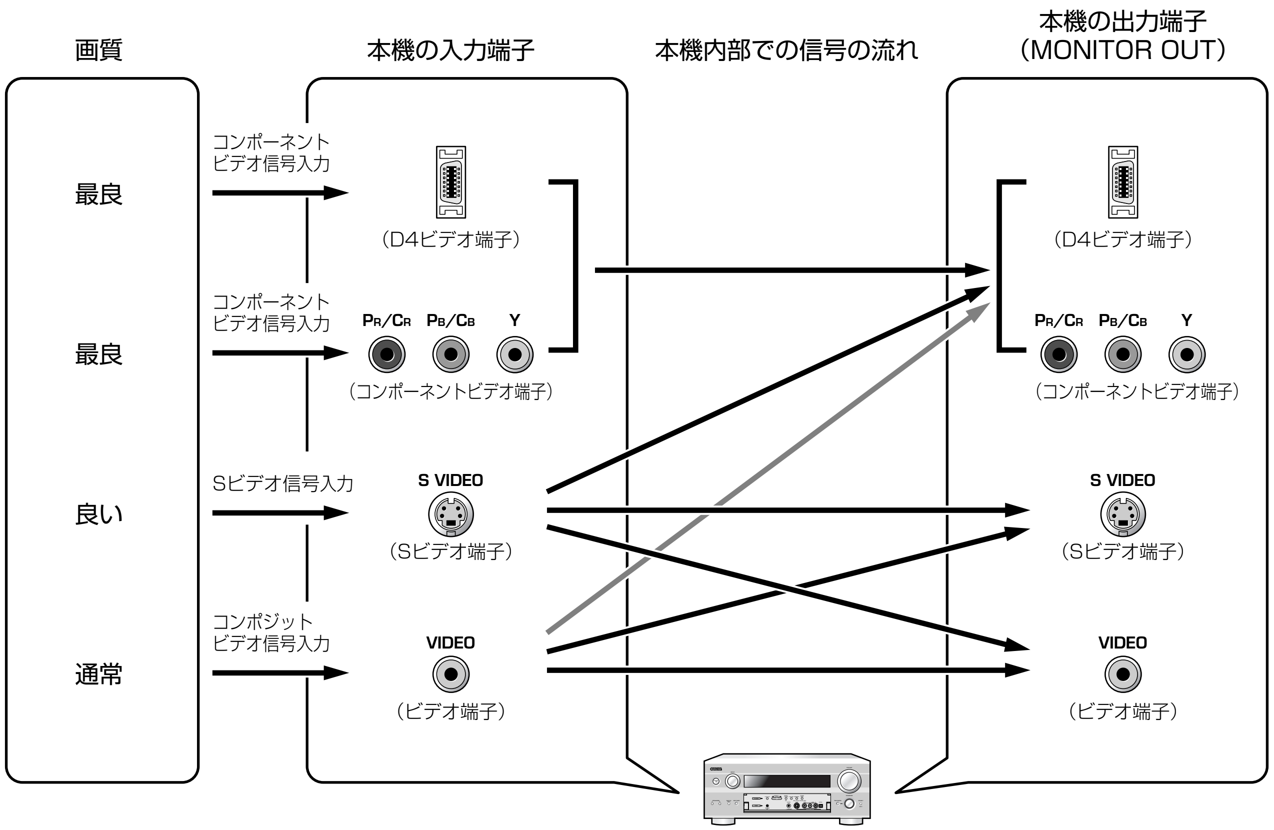
❹ **D4ビデオ端子**
コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比などの情報)を伝送します。

ご注意

- コンポーネントビデオ端子とD4ビデオ端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになる機器を確認のうえ、どちらか片方を接続してください。
- 本機のSビデオ端子はS1/S2規格には対応していません。

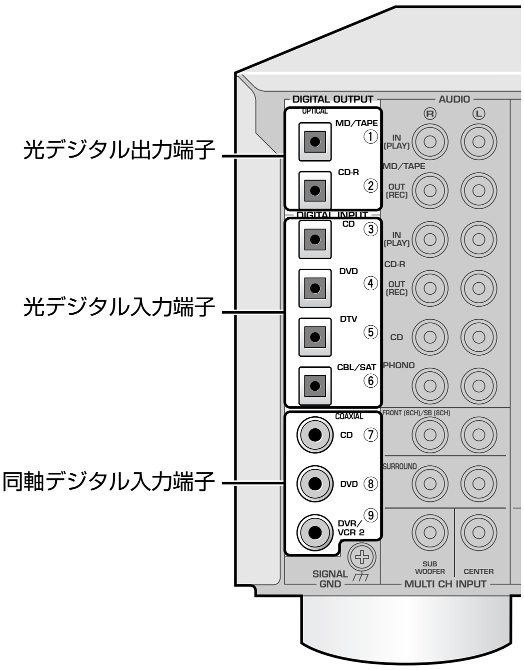
ビデオコンバージョン機能

本機では、入力されたコンポジットビデオ信号とSビデオ信号を相互に変換、Sビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に上位変換します。また、コンポジットビデオ信号はいったんSビデオ信号に変換したあと、コンポーネントビデオ信号に変換して出力されます。



デジタル端子について

本機には、デジタル信号を直接伝送できるデジタル端子(COAXIAL：同軸/OPTICAL：光)を装備しています。

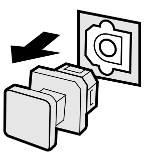


- デジタル端子は、PCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC兼用です。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子に、同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子に入力されたデジタル信号が優先されます。
- 本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています。
  －32kHz：　BSアナログ放送(Aモード)
  －44.1kHz：　CD、MD
  －48kHz：　DVD(48kHzモード)、BSアナログ放送(Bモード)、BSデジタル放送
  －96kHz：　DVD(96kHzモード)
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。デジタル入力端子に入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子からのみ出力されます。

ご注意

- 本機の光デジタル端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に動作しないことがあります。

防塵キャップについて



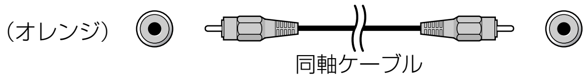
光ファイバーケーブルを接続する場合は、光デジタル端子についているキャップを抜いてから接続してください。また抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は、必ずキャップを差し込んでください。ほこりなどの侵入を防ぎます。

接続に使うケーブルの種類

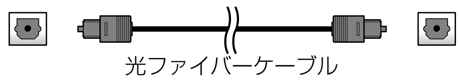
お使いになる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

音　　声

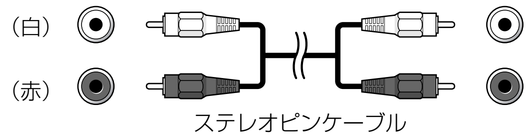
同軸デジタル端子



光デジタル端子

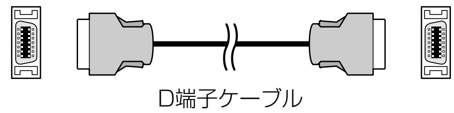


アナログ端子

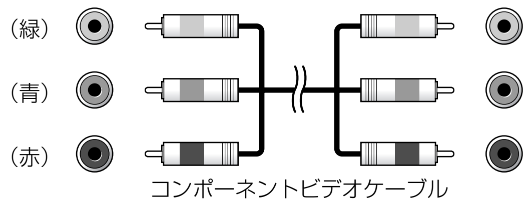


映　　像

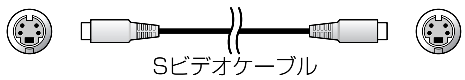
D端子



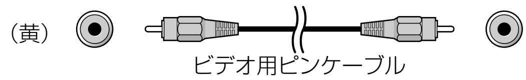
コンポーネントビデオ端子



Sビデオ端子



ビデオ端子

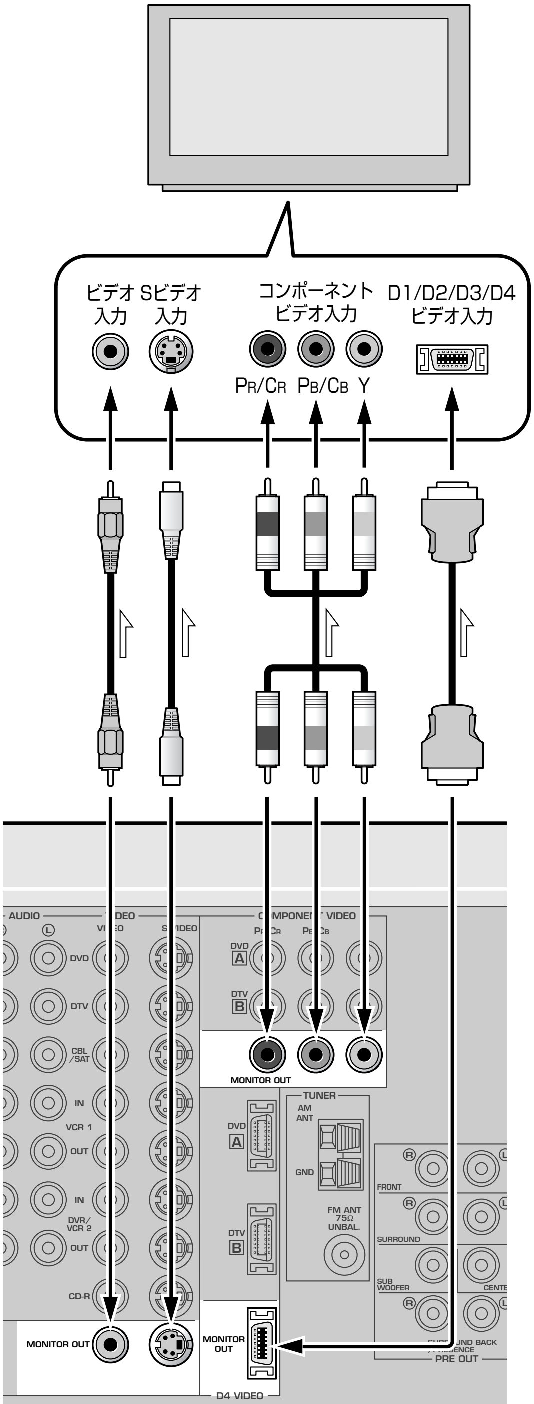


ご注意

- 接続する前に、本機および接続する機器の電源コードが、ACコンセントに接続されていないことを確認してください。

テレビを接続する

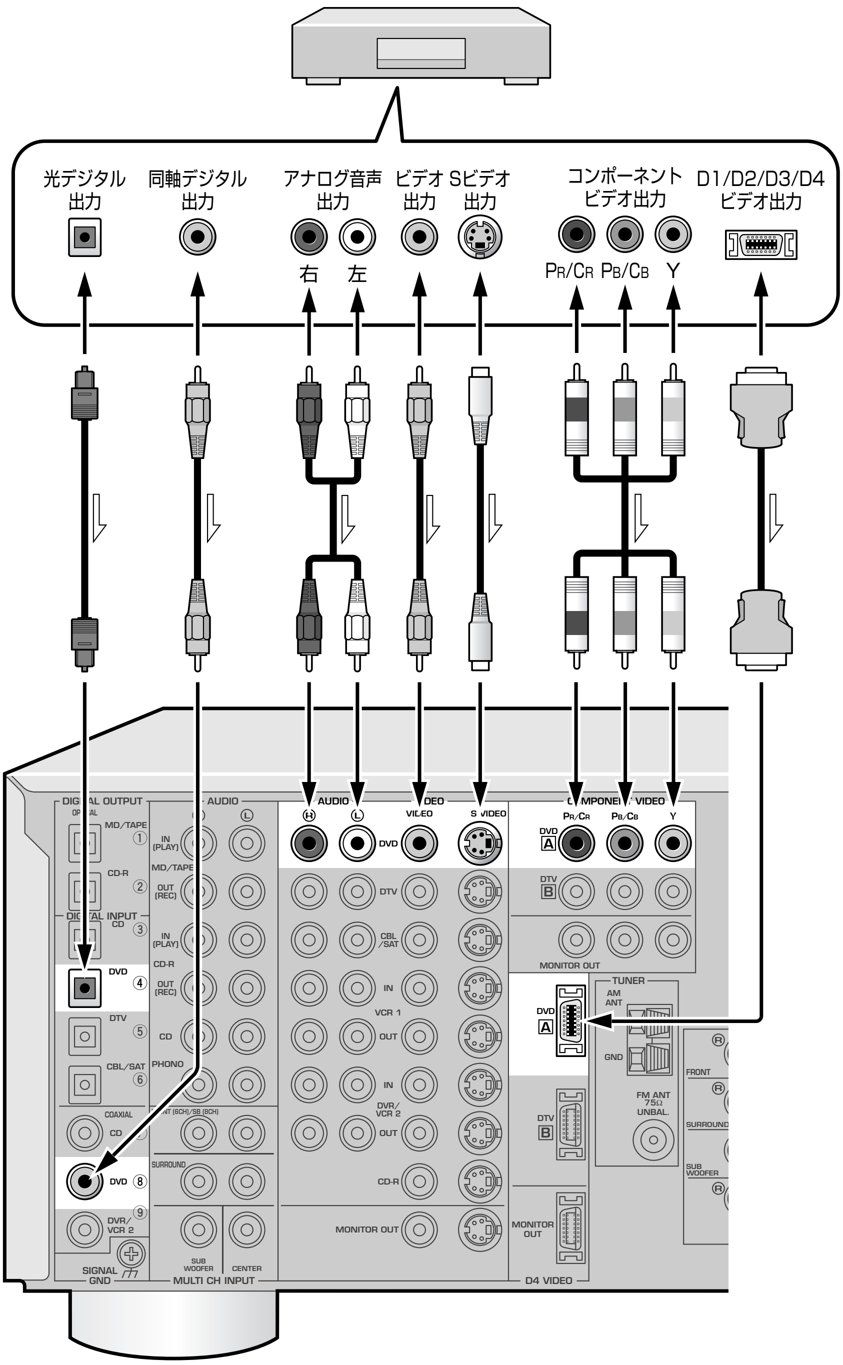
お使いになるテレビに合わせて、下記のうちひとつを選んで接続してください。



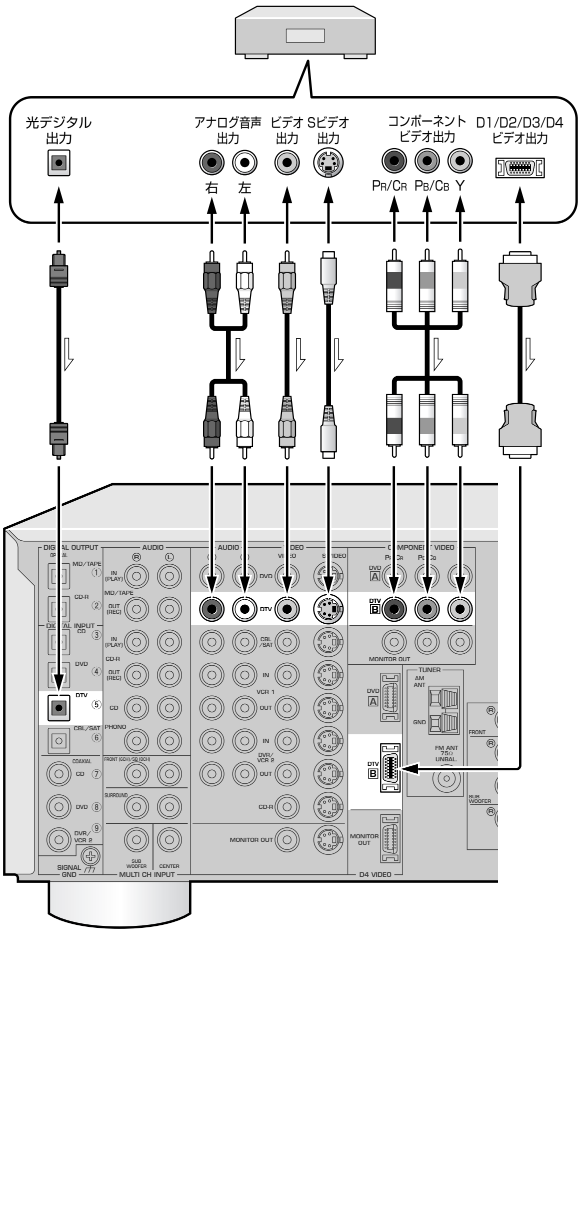
再生機器を接続する

左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)をよく確認して、正しく接続してください。

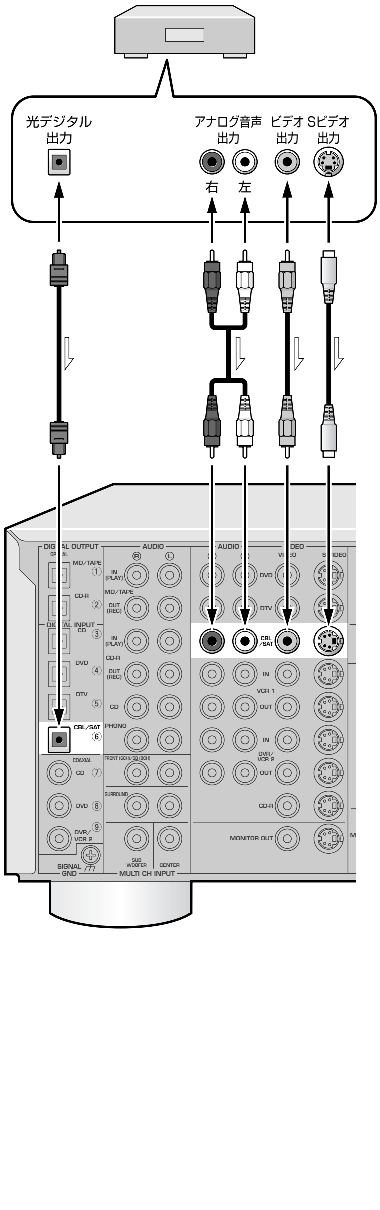
DVDプレーヤーを接続する



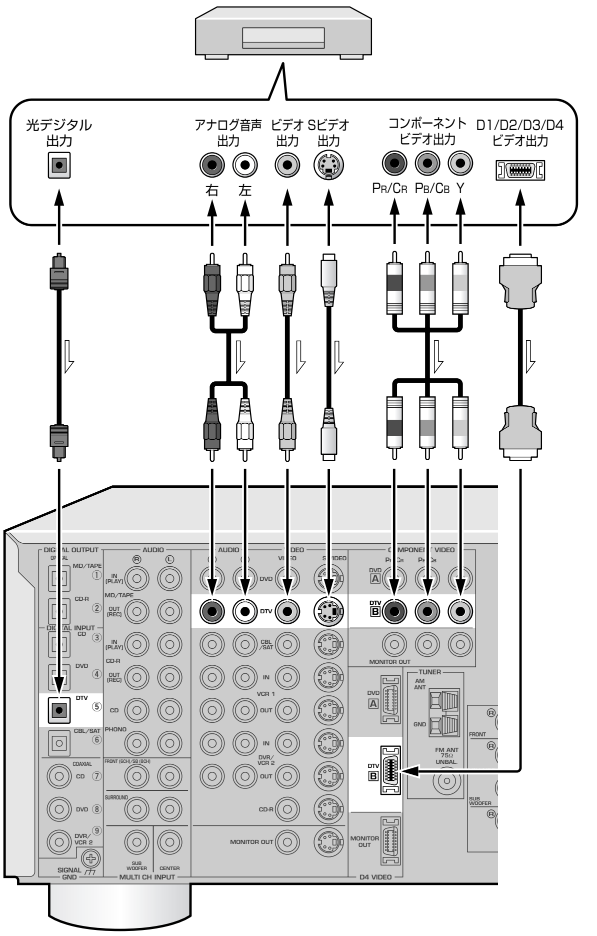
デジタルTVチューナーを接続する



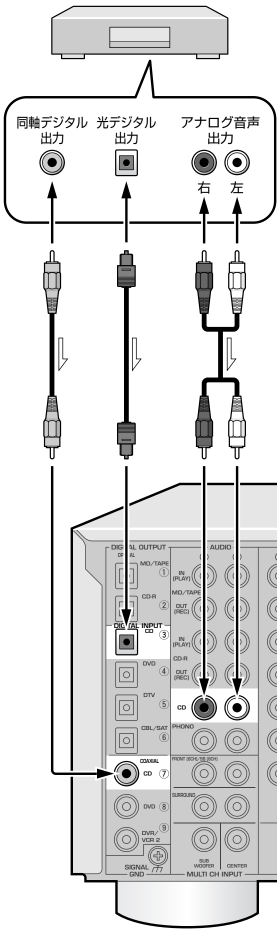
ケーブルＴＶ／衛星放送チューナーを接続する



LDプレーヤーを接続する

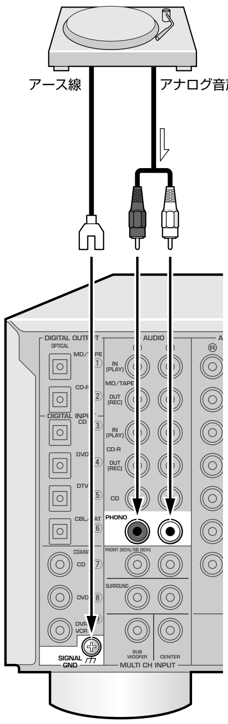


CDプレーヤーを接続する



ドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターに接続してから、空いているデジタル入力端子に接続します。

レコードプレーヤーを接続する

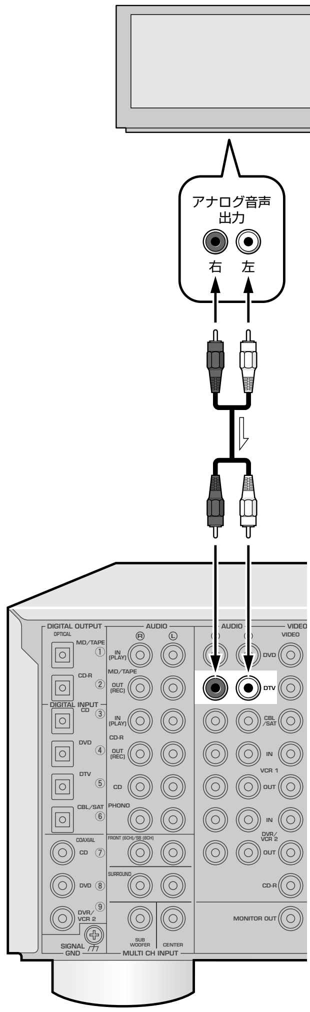


低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使って接続します。

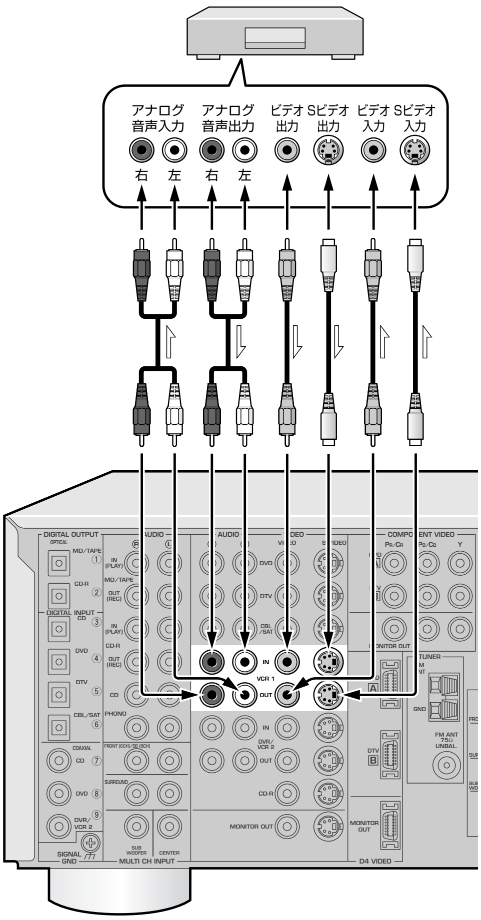
ご注意

- SIGNAL GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減することができます。

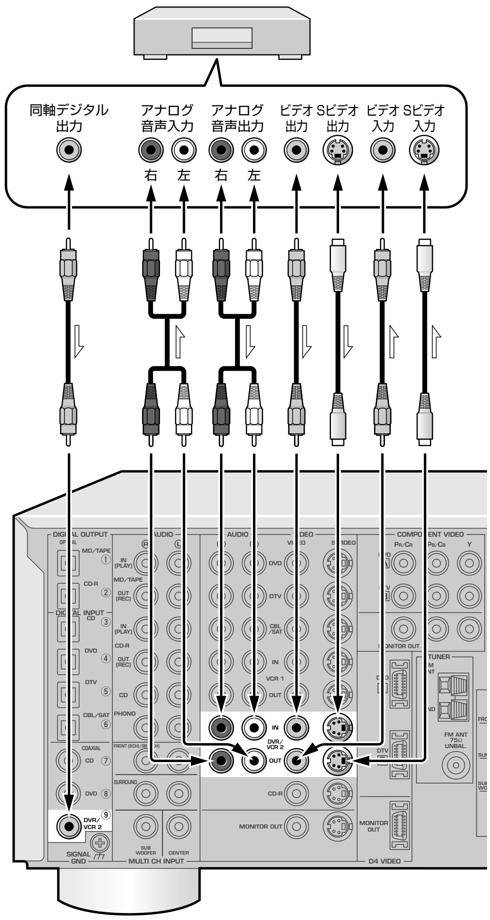
テレビ(音声)を接続する



ビデオデッキを接続する



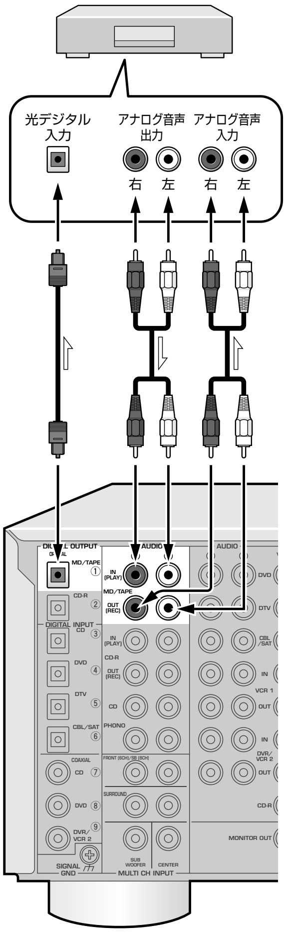
DVDレコーダーを接続する



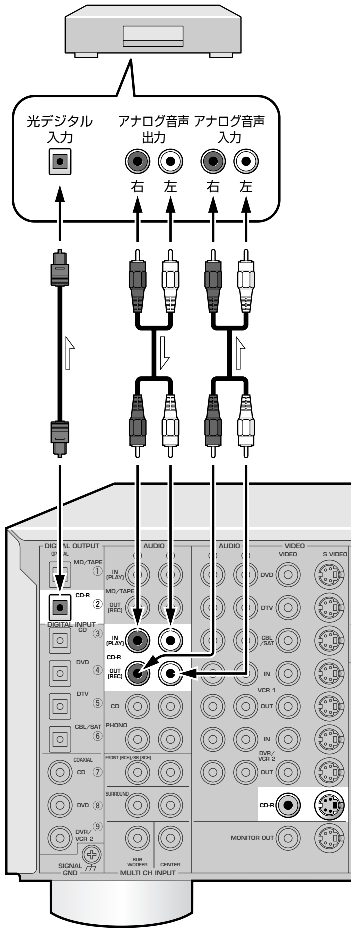
ヒント

• DVR/VCR 2端子を使って、2台目のビデオデッキを接続することもできます。

ＭＤレコーダー/テープデッキを接続する



CDレコーダーを接続する



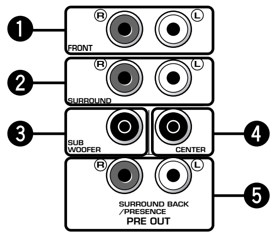
ヒント

- オンスクリーン画面を出力するCDレコーダーは、CD-R端子(ビデオまたはSビデオ)に接続することができます。

他の機器を接続する

他のアンプを接続する

スピーカー出力をパワーアップするために外部パワーアンプ（プリメインアンプ）を使う場合や、お手持ちのアンプを使う場合などは、PREOUT端子と接続します。アンプ内蔵のサブウーファーは、SUBWOOFER端子に接続します。



❶ FRONT端子
フロントL/Rチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、フロントL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❷ SURROUND端子
サラウンドL/Rチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、サラウンドL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❸ SUBWOOFER端子
ヤマハアクティブサーボサブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーを使うときに、この端子に接続します。フロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックチャンネルの低音信号が出力されます。また、ドルビーデジタル、DTSやAACデコード時のLFE信号も、この端子に出力されます。

❹ CENTER端子
センターチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、センタースピーカーを駆動させる場合に使います。

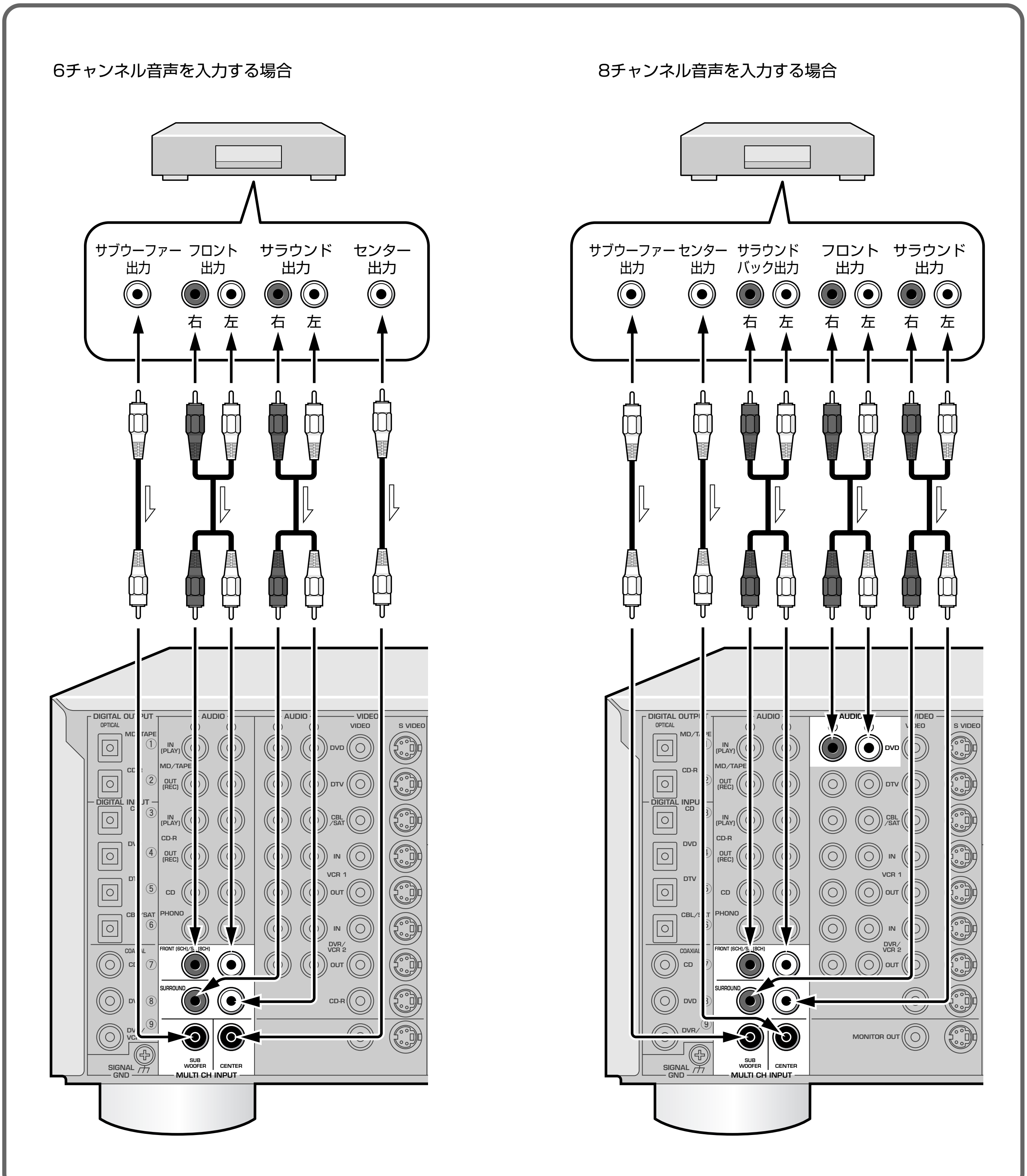
❺ SURROUND BACK/PRESENCE端子
サラウンドバックL/RチャンネルまたはプレゼンスL/Rチャンネルの出力端子です。外部パワーアンプを接続して、サラウンドバックL/RスピーカーまたはプレゼンスL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

ご注意

- 他のアンプへ出力するために、RCAピンプラグをPREOUT端子に接続したときは、対応するスピーカー端子を使わないでください。また、接続する外部アンプの音量は最大にしてください。
- セットメニュー「OPTION－ZONE SET」の「SP B SET」を、ZONE Bに設定して、SPEAKER AスイッチをOFFにした場合、FRONT端子以外のPREOUT端子には信号が出力されません。
- サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの両方を接続・使用する場合、SURROUND BACK/PRESENCE端子からは、再生するソースや音場プログラムにより、接続しているスピーカーのチャンネルとは別のチャンネルが出力される場合があります。

マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

DVDプレーヤーやSACDプレーヤーなど、マルチチャンネル出力端子がある機器を接続します。
セットメニュー「INPUT－EXT.INPUT」の「6CH/8CH」を、8CHに設定すると、アナログ音声入力端子とMULTI CH IN端子を組み合わせて、8チャンネル音声入力端子として使うことができます（応用操作編36ページ）。

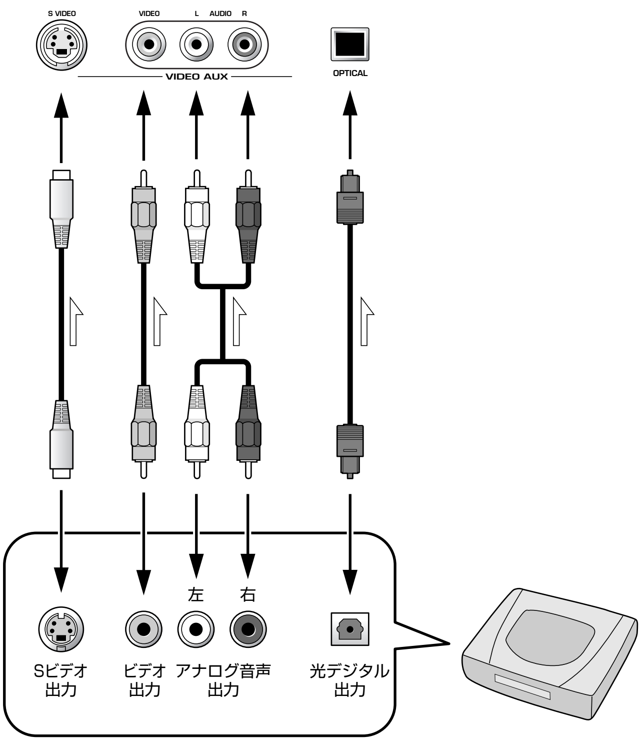


ご注意

- ヘッドホン使用時には、フロントL/Rチャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。

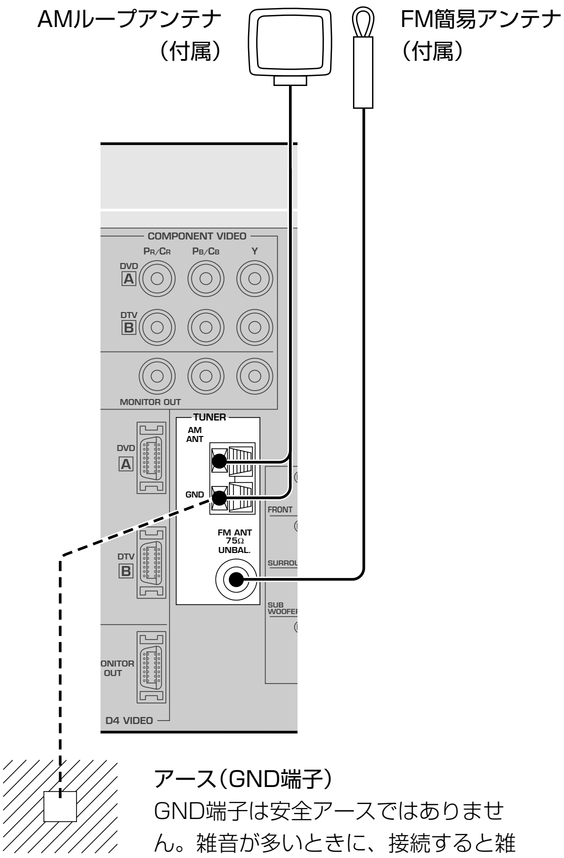
ゲーム機やビデオカメラなどを接続する

前面のVIDEO AUX端子に接続します。



アンテナを接続する

本機には、FM簡易アンテナおよびAMループアンテナが付属されています。付属のアンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合に使ってください。



アース（GND端子）
GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

FM簡易アンテナを接続する

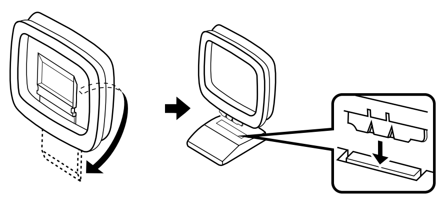
付属のFM簡易アンテナを、FM ANT端子に接続してください。

FM屋外アンテナを接続する場合

アンテナの同軸ケーブルを、市販のF型コネクターを使って、FM ANT端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

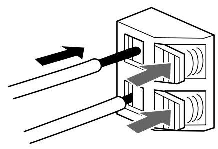
AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける



2 AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込む

コードに極性はありません。



3 レバーを放して、コードを固定する

コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。

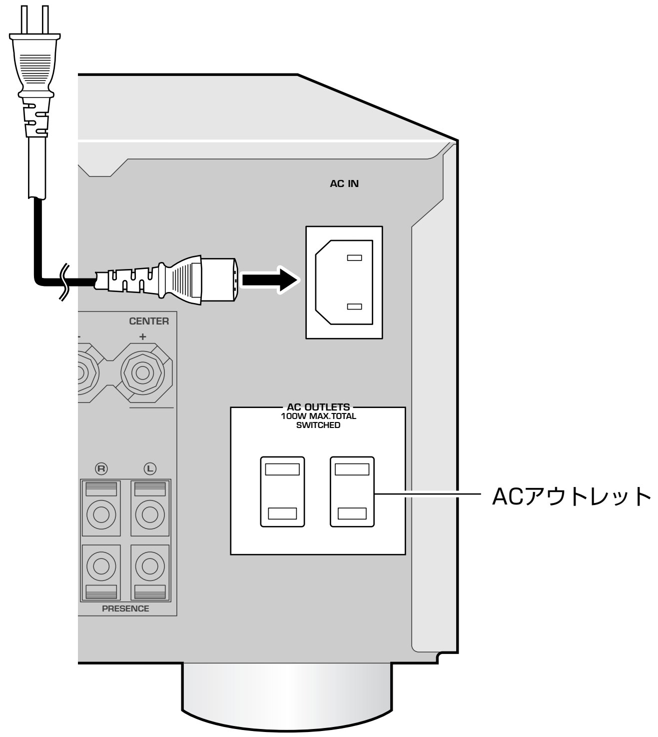
ヒント

- 受信がうまくいかない場合は、アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けてください。
- 放送を良好に受信するには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、最寄りのヤマハ電気音響製品のサービス拠点にお問い合わせください。

ご注意

- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続しておいてください。

電源コードを接続する



AC アウトレット

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のSTANDBY/ONスイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

電源コード

すべての接続が終了したら、電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

操作内容をテレビに表示する(オンスクリーン表示)

本機にテレビを接続すると、本機の操作内容などをテレビ画面に表示させせることができます。
本体のディスプレイ表示に比べ項目や設定値を見やすく表示できるので、セットメニューや音場パラメーターを設定する際にも分かりやすくなり、便利です。

表示の種類

オンスクリーン表示には次の3種類があります。

フル表示

音場プログラムのパラメーターが、常にテレビ画面に表示されます。
入力を切り替えるときや音量を調節するときは、これらの操作内容が、テレビ画面の下側に数秒間表示されます。

```
P05   ROCK CONCERT

   → DSP LEVEL‥‥0dB
     INIT.DLY‥‥15ms
     ROOM SIZE‥‥1.0
     LIVENESS‥‥‥‥5
     REV.TIME‥‥1.6s
     REV.DELAY‥120ms
```

ショート表示

本体のディスプレイと同じ内容(操作状態)が、テレビ画面の下側に数秒間表示された後、消えます。

```
P05   ROCK CONCERT
    DSP LEVEL‥‥0dB
```

表示OFF

テレビ画面の下側に「DISPLAY OFF」が表示された後、消えます。ON SCREENキー以外のキーを操作しても何も表示されません。

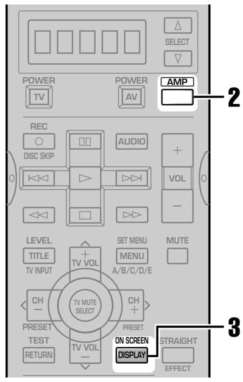
ヒント

- 映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。
- セットメニューやテストトーンを使っているときは、表示の種類にかかわらず、常に内容が表示されます。
- オンスクリーン表示はVCR 1 OUT端子、VCR 2/DVR OUT端子に出力されないので映像と一緒に録画されることはありません。
- セットメニュー「OPTION-DISPLAY SET」の「CMPNT OSD」をONに設定すると、コンポーネントビデオ端子またはD4ビデオ端子(MONITOR OUT)からオンスクリーン信号を出力することができます(応用操作編37ページ)。

ご注意

- セットメニュー「OPTION-DISPLAY SET」の「GRAY BACK」をOFFに設定すると、ビデオ信号が入力されていない場合は、オンスクリーン表示も表示されません(応用操作編37ページ)。
- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、表示がブレたり、ズレたりすることがありますが、本機の故障ではありません。

表示の切り替え



1 本機とテレビの電源を入れる

2 AMPキーを押して、AMPを選ぶ

リモコンディスプレイに「AMP」と表示されることを確認してください。

3 ON SCREENキーを押す

押すごとに、表示の種類が切り替わります。

最適な視聴空間を自動的に設定する

本機に搭載の「YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）」により、ご使用になるスピーカーの配置、能力やお部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを、付属のマイク（オプティマイザーマイク）で拾い、自動的に測定、設定します。

設定の流れ

付属のマイクを準備する　30ページ

⇩

設定を開始する　31ページ

- WIRING：　スピーカーの接続状態や極性をチェックします。
- DISTANCE：　リスニングポジションから各スピーカーまでの距離をチェックし、遅延時間を設定します。
- SIZE：　各スピーカーのサイズを設定します。
- EQUALIZING：　各スピーカーの周波数特性を調節します。
- LEVEL：　各スピーカーからの音量を調節します。

⇩

結果を確認する　32ページ

ご注意

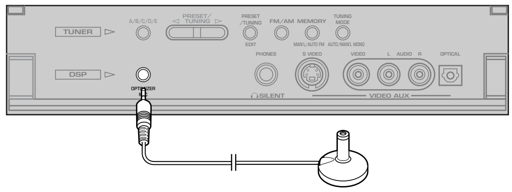
- 測定中は大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。

EQUALIZINGについて

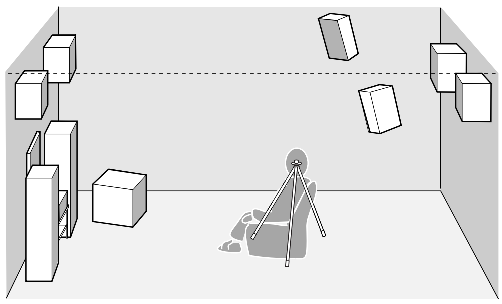
EQUALIZINGによる周波数特性の補正は、周波数、レベル、Qファクターの3つのパラメーターがそれぞれ独立して可変するパラメトリックイコライザーを使って行います。これらの組み合わせで、より精度の高い周波数特性の補正を、YPAOにより自動的に行うことができます。

付属のマイクを準備する

本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続します。



オプティマイザーマイクは実際に視聴する位置(リスニングポジション)に、耳と同じ高さで設置します。耳と同じ高さに設置する場合は、水平な台にのせるか、三脚を使います。



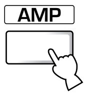
設定を開始する（AUTO SETUP）

1 本機とテレビの電源を入れる

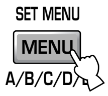
テレビの画面にオンスクリーン表示が出ることを確認してください(29ページ)。

2 AMPキーを押して、AMPを選ぶ

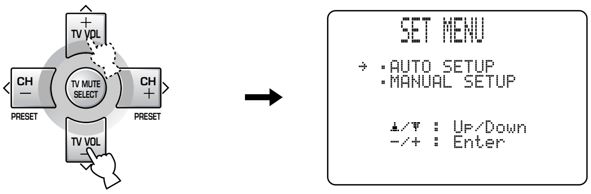
リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。



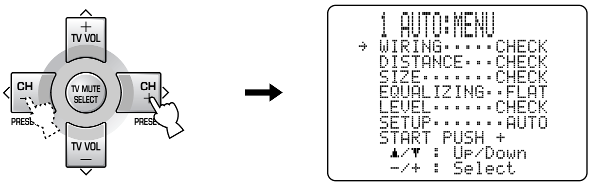
3 SET MENUキーを押す



4 ∧/∨キーを押して、「AUTO SETUP」を選ぶ



5 〈/〉キーを押す



6 ∧/∨キーを押して、項目を選ぶ

7 〈/〉キーを押して、各項目を設定するかしないかを選ぶ

〈WIRING、DISTANCE、SIZE、LEVEL〉

CHECK： 自動的に測定、設定します。
SKIP： 測定、設定しません。

〈EQUALIZING〉

FRONT： フロントL/Rスピーカーの特性に、各スピーカーの特性を合わせます。
FLAT： 各スピーカーの特性を均一(フラット)にします。
LOW： 低域周波数を重点的に調整して、フラットにします。
MID： 中域周波数を重点的に調整して、フラットにします。
HIGH： 高域周波数を重点的に調整して、フラットにします。
SKIP： 測定、設定しません。

8 ∧/∨キーを押して、「SETUP」を選ぶ

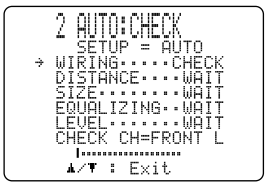
9 〈/〉キーを押して、設定の方法を選ぶ

AUTO： 全ての項目を自動的に設定します。
STEP： 各項目ごとに結果を確認しながら設定します。
RELOAD： 前回AUTO SETUPで設定した設定値に戻します。

10 ∧/∨キーを押して、「START PUSH +」を選ぶ

11 〉キーを押す

設定が始まります。



設定が終わると、結果が表示されます(32ページ)。設定メニューから抜けるには、SET MENUキーを2回押します。

ヒント

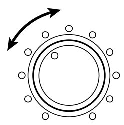
- THX認証のスピーカーをご使用の場合は「SIZE」をSKIPにして、設定しないようにしてください。また「SOUND-SPEAKER SET」で、すべてのスピーカーがSMALLに設定されていることと、「CROSS OVER」が80Hz(THX)に設定されていることを確認してください(応用操作編26ページ)。
- スピーカーやスピーカーの設置場所を変えた場合は、もう一度設定することをおすすめします。

ご注意

- 各スピーカーとオプティマイザーマイクの間に、障害物がないか確認してください。障害物があると、正しく測定できない場合があります。
- 測定中に声を出したり、周囲の騒音が大きいと、正しく測定ができなかったり、エラー表示が出る場合があります。測定中はなるべく静かにしてください。

アクティブサブウーファーの設定について

- サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置(半分または半分よりやや小さめ)にボリュームを設定してください。



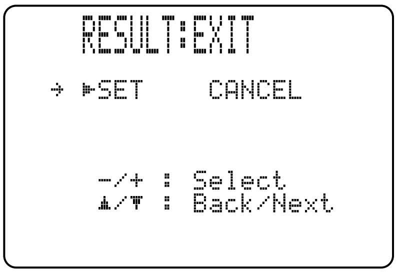
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

結果を確認する

各項目の測定、設定の結果を確認することができます。

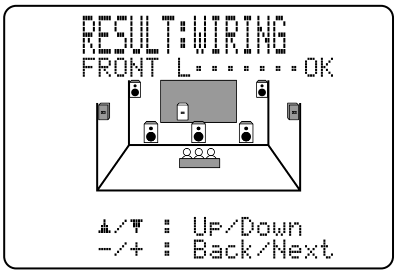
AUTOで設定した場合

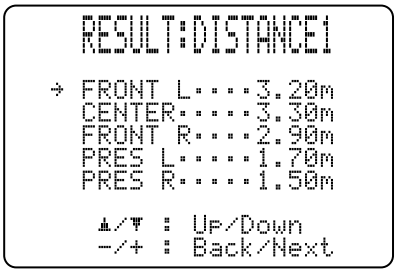
すべての測定、設定が終わると、RESULT:EXIT画面が表示されます。

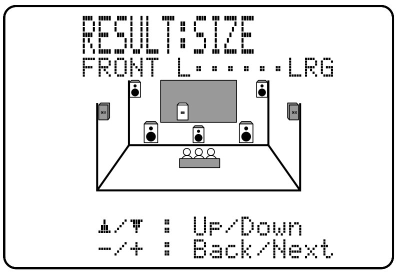


設定内容を決定する場合は、</>キーを押して、「SET」を選んで∨キーを押します。
設定内容をキャンセルする場合は、</>キーを押して、「CANCEL」を選んで∨キーを押します。

各項目の測定、設定結果を確認するには、∧キーを押します。
>キーで、各項目の結果画面を切り替えることができます。







```
RESULT:EQUALIZI.
EQ·····FRONT L
    63Hz···-2.0dB
   125Hz···-5.0dB
   500Hz·····0dB
   630Hz·····0dB
  1.0kHz·····0dB
3.15kHz···+3.0dB
10.0kHz···+1.0dB
 ▲/▼ : Up/Down
```

```
RESULT:LEVEL 1

→ FRONT L···+5.0dB
  CENTER····-4.5dB
  FRONT R···+5.5dB
  PRES······-3.0dB

   ▲/▼ : Up/Down
   -/+ : Back/Next
```

RESULT:EXIT画面に戻るには、∨キーを押します。

STEPで設定した場合

各項目の設定が終わるごとに、その項目のRESULT画面が表示されます。
</>キーを押して、その項目のRESULT:EXIT画面が表示されます。

```
RESULT:EXIT

→ ▶NEXT RETRY EXIT



   -/+ : Select
   ▲/▼ : Back/Next
```

次の項目の設定に移るには、</>キーを押して、「NEXT」を選んで∨キーを押します。
もう一度やり直すには、</>キーを押して、「RETRY」を選んで∨キーを押します。
設定メニューから抜けるには、</>キーを押して、「EXIT」を選んで∨キーを押します。

すべての測定、設定が終わると、RESULT:EXIT画面が表示されます。
設定内容を決定する場合は、</>キーを押して、「SET」を選んで∨キーを押します。
設定内容をキャンセルする場合は、</>キーを押して、「CANCEL」を選んで∨キーを押します。

RELOADで設定した場合

RESULT:EXIT画面が表示されます。
設定内容を決定する場合は、</>キーを押して、「SET」を選んで∨キーを押します。
設定内容をキャンセルする場合は、</>キーを押して、「CANCEL」を選んで∨キーを押します。

各項目の測定、設定結果を確認するには、∧キーを押して>キーを押します。

ヒント

- より細かい設定をしたい場合は、マニュアルで各項目を設定することができます(応用操作編23ページ)。

ご注意

- ご使用のサブウーファーの特性によっては、実際の配置距離よりも長い距離が測定・設定される場合があります。
- 周波数をより精密に補正するために、同じ周波数帯域で違うレベル値が設定される場合があります。

エラーメッセージについて

測定開始時の表示

Connect MIC !
付属のオプティマイザーマイクが接続されていません。

⇒本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。

Unplug HP !
ヘッドホンが接続されています。

⇒本機前面のPHONES端子から、ヘッドホンを抜いてください。

測定中のエラーメッセージ

</>キーを押すと、各メッセージの詳細を表示することができます。各メッセージの内容を確認のうえ、表示画面で「RETRY」を選んで、測定をやり直してください。

E-1:NO FRONT SP
フロントL/Rスピーカーが検出されませんでした。

⇒SPEAKER A/Bスイッチで正しくスピーカーを選んでください。
⇒フロントL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

E-2:NO SURR.SP
サラウンドL/Rスピーカーの片側しか検出されませんでした。

⇒サラウンドL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

E-3:NO PRES. SP
プレゼンスL/Rスピーカーの片側しか検出されませんでした。

⇒プレゼンスL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

E-4:SBR->SBL
サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合に、R側から検出されました。

⇒サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続する場合は、L側端子に接続してください。

E-5:NOISY
暗騒音(部屋の騒音)が大きすぎて、正確な測定ができません。

⇒エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、遠ざけてみてください。
⇒周囲が静かな時間帯にやり直してみてください。

E-6:CHECK SURR.
サラウンドL/Rスピーカーが接続されておらず、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。

⇒サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンドL/Rスピーカーを接続する必要があります。正しく接続されているか確認してください。

E-7:NO MIC
測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。

⇒本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。

E-8:NO SIGNAL
テストトーンが出ているにもかかわらず、オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。

⇒オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。
⇒各スピーカーが正しく接続または設置されているか確認してください。

E-9:USER CANCEL
音量を調節または消音したり、SPEAKER A/Bスイッチでスピーカーを切り替えた、などの操作をしたため、測定をキャンセルしました。

⇒測定の精度が落ちるため、測定中は音量を変えないでください。

E-10:OTHER ERROR
E-1〜E-9以外のエラーが発生しました。

⇒測定をはじめからやりなおしてください。

測定終了後の警告メッセージ

測定は完了しましたが、設定がされていない項目がある場合に表示されます。下記をご確認のうえ、再度該当する項目を測定・設定しなおしてください。

</>キーを押すと、各メッセージの詳細を表示することができます。

W-1:OUT OF PHASE
表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。

⇒スピーカーが正しく接続されているか確認してください。

⇒スピーカーによっては、正しく接続していてもこの表示が出ることがあります。

W-2:OVER 24m/80ft
表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が、24m以上あり、補正ができません。

⇒スピーカーの設置場所を確認してください。

⇒確認後、測定・設定をやりなおしてください。

W-3:LEVEL ERROR
各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。

⇒スピーカーの設置場所を確認してください。

⇒スピーカーが正しく接続されているか確認してください。

⇒なるべく近い性能のスピーカーを使用することをおすすめします。

⇒サブウーファーの音量を調節してください。

⇒確認後、測定・設定をやりなおしてください。

W-4:SWFR PHASE
サブウーファーの位相を逆に設定したほうが、他のスピーカーとのつながりが良くなります。

⇒サブウーファーに位相切り替えスイッチがある場合は、測定時とは逆に設定してみてください。

W-5:VOL ERROR
測定中に音量を調節したため、測定結果が適正でない可能性があります。

⇒測定の精度が落ちるため、測定中は音量を変えないでください。

YAMAHA

ヤマハ株式会社

Printed in Malaysia WC01790-5

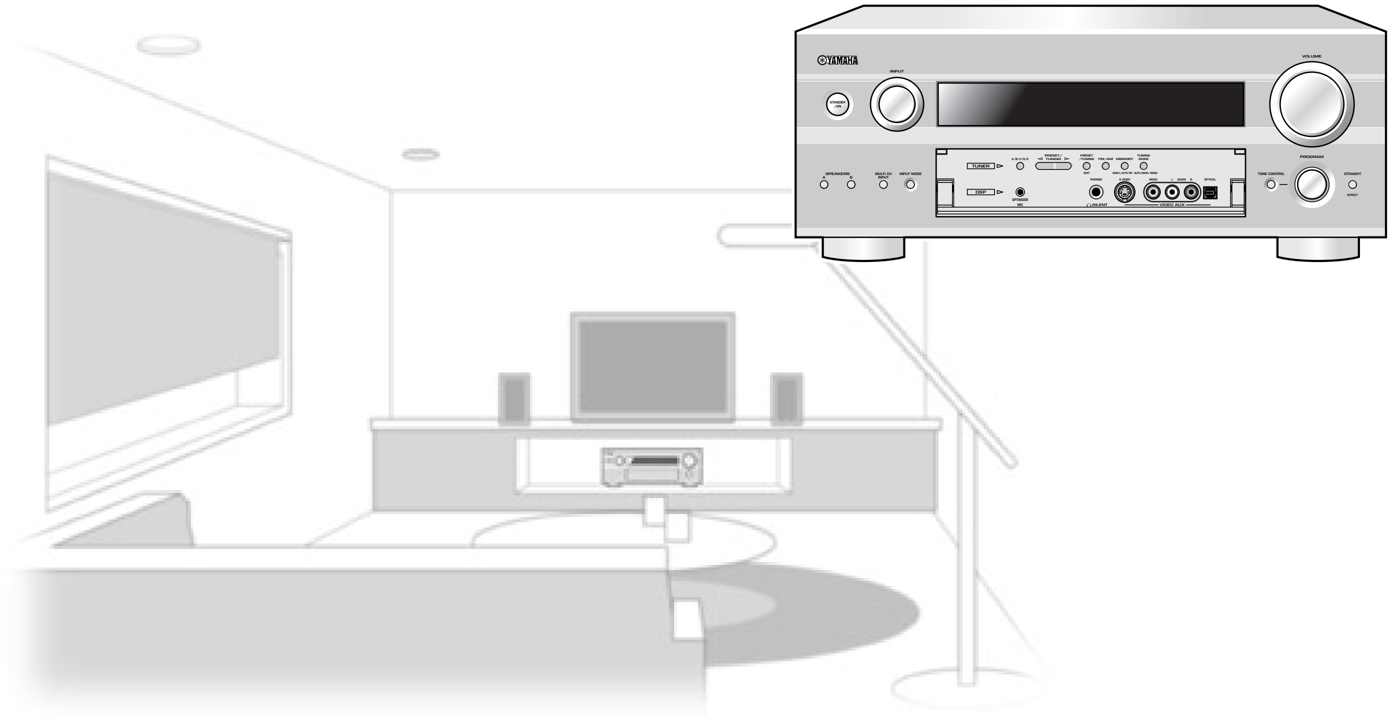
YAMAHA

DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX1400

取扱説明書



基本操作編

本機を簡単にお使いいただくためのものです。
基本的な操作について説明しています。

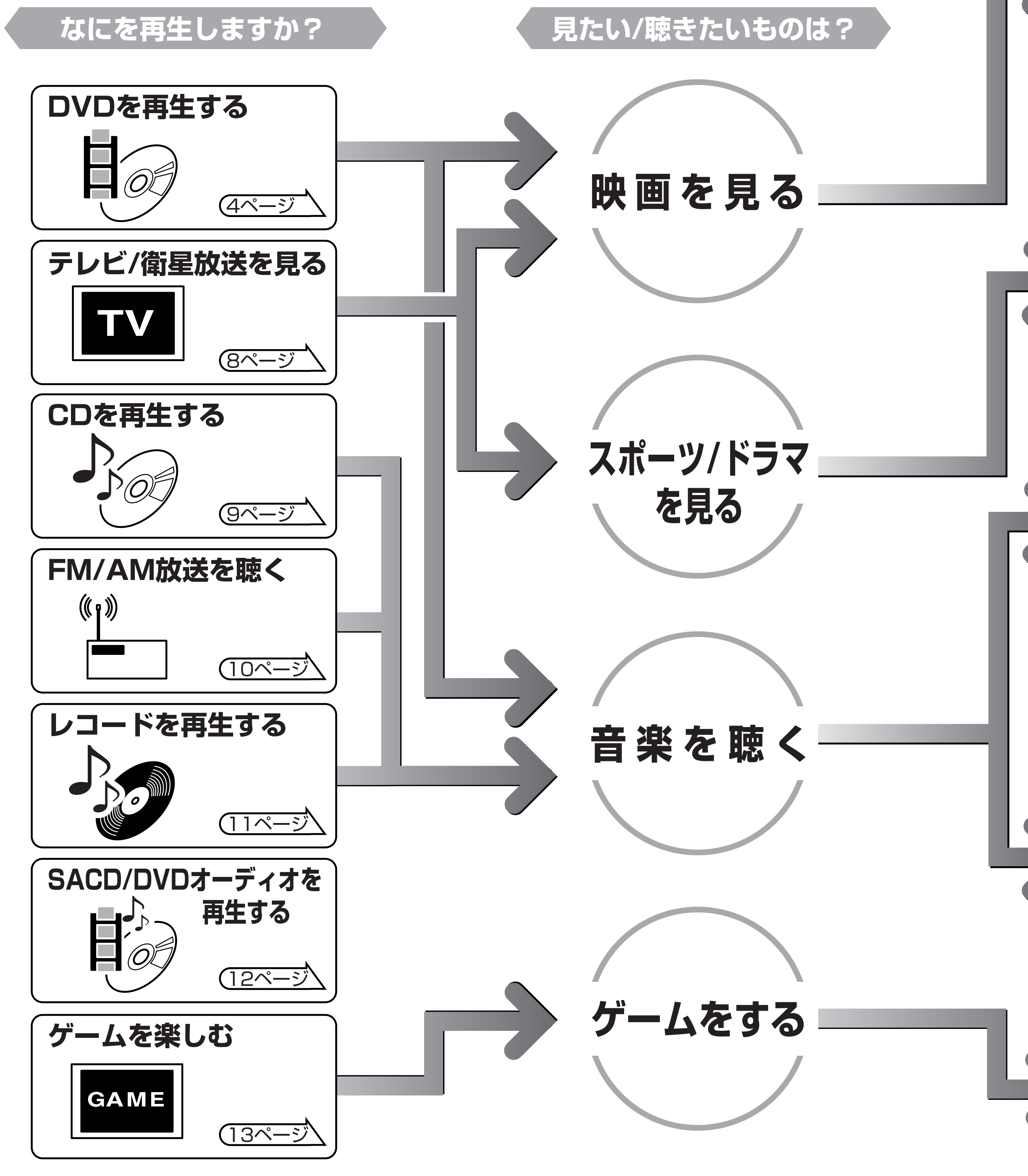
■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

安全上のご注意

本機をお使いいただく前に、準備・接続編に記載されている「安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)」をお読みのうえ、正しくお使いください。

なにを見ますか、なにを聴きますか？

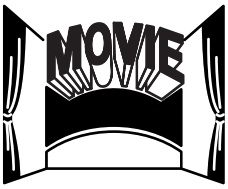
難しい操作はあとにして、まずは見たい/聴きたいものに合わせて、音場プログラムを選び、再生してみましょう。
各機器の操作については、「なにを再生しますか？」から簡単な操作説明を参照できます。



効果的にお楽しみいただくには

音場を選びます	特長または最適ソース

映画館の感覚で聴きたい



MOVIE **8** **MOVIE THEATER**

Spectacle	70mm大画面のスペクタクルな音場
Sci-Fi	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場
Adventure	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
General	情緒的な映画を柔らかく再現する音場

THX **9** **THX**

THX Cinema	あらゆるソースを、映画館の迫力で再現
THX Surround EX	ドルビーデジタルサラウンドEXソフトを、映画館の迫力で再現

DD /DTS **0** **DOLBY DIGITAL/DTS/AAC**

SUR.STANDARD	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号を忠実に再現
SUR.ENHANCED	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に音場効果を与える
PRO LOGIC IIx Movie PRO LOGIC II Movie PRO LOGIC IIx Music PRO LOGIC II Music DTS Neo:6 Cinema DTS Neo:6 Music	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生

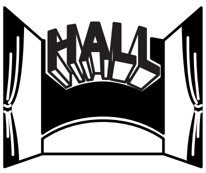
テレビ感覚で聴きたい



TV THTR **7** **TV THEATER**

Mono Movie	往年のモノラル映画を自然に再生する音場
Variety/Sports	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場

大ホール感覚で聴きたい



HALL **2** **CONCERT HALL** — 響きが豊かな古典的な中ホールの音場

ライブハウス/コンサート感覚で聴きたい

JAZZ **3** **JAZZ CLUB** — ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」

ROCK **4** **ROCK CONCERT** — ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場

MUSIC **6** **MUSIC VIDEO** — ロック、ジャズなどのライブコンサートを再現する音場

ENTERTAIN **5** **ENTERTAINMENT**

Disco	ホットなディスコの雰囲気を再現する音場

ゲーム感覚で聴きたい



ENTERTAIN **5** **ENTERTAINMENT**

Game	TVゲームの軽快なノリをさらに加速する、痛快なテンポの音場

DD /DTS **0** **DOLBY DIGITAL/DTS/AAC**

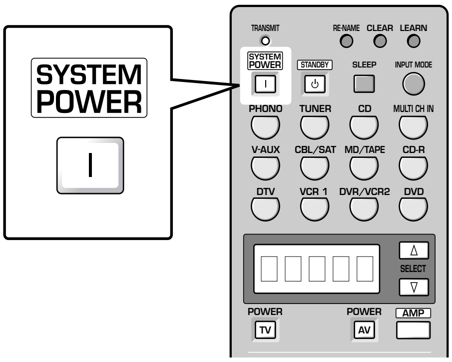
PRO LOGIC IIx Game PRO LOGIC II Game	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生

DVD を再生する

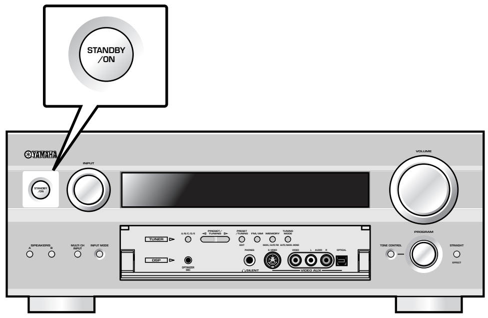
1　本機の電源を入れます

リモコンの SYSTEM POWER キー、または本体の STANDBY/ON スイッチを押して電源を入れます。

リモコンの操作



本体の操作



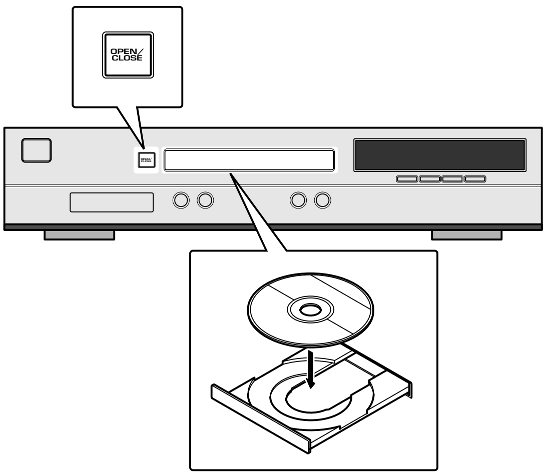
2　テレビの電源を入れます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3　DVD プレーヤーの電源を入れます

詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4　DVD ディスクをセットします



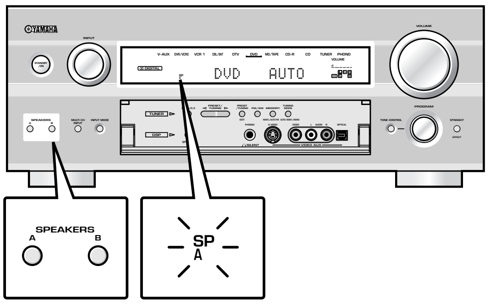
DVD プレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷面）のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。

DVDプレーヤーのディスクトレイの開け方について詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

5　スピーカーを選びます

本体のSPEAKERS A/Bスイッチを押し、音を出すフロントスピーカーを選択します。A、Bの両方を使用する場合は、AとBをそれぞれ押します。選択しているスピーカーは、SP A/Bインジケーターで表示されます。

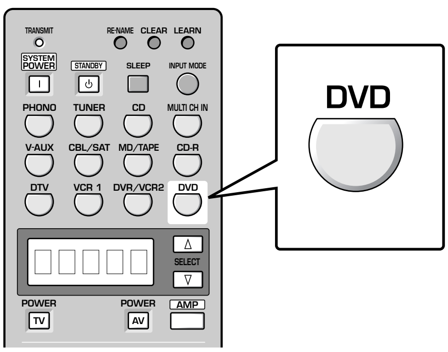
本体の操作



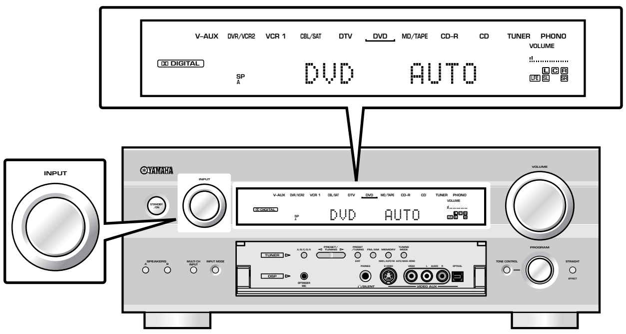
6　本機の入力を切り替えます

リモコンのDVDキー（入力選択キー）を押す、または本体のINPUT セレクターを回します。入力を切り替えると、本体のディスプレイに再生方法（選択した入力機器）と入力モードが数秒間表示されます。

リモコンの操作



本体の表示



7　テレビの入力を切り替えます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

・例えば、本機がテレビのビデオ入力端子２に接続されている場合はビデオ入力２を選びます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

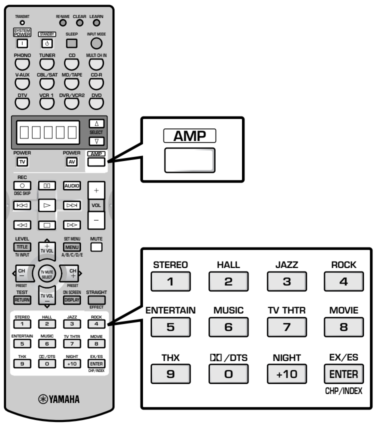
8 再生を始めます

詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

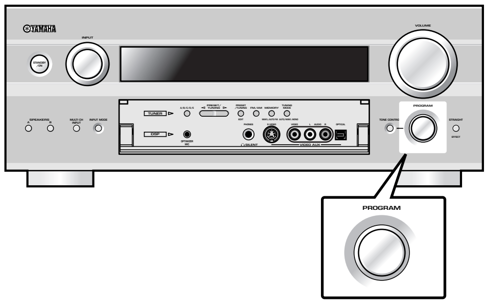
9 音場プログラムを選びます

お好みの音場プログラムを呼び出して、臨場感と効果をお楽しみください。リモコンのAMP キーを押して AMP を選び、音場プログラムキーを押してお好みの音場プログラムを選びます。
本体の PROGRAM セレクターを回しても音場プログラムを選ぶことができます。

リモコンの操作



本体の操作



おすすめ

おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは(応用操作編 62 ページ)を参照してください。

・**映画を見るとき**
→ MOVIE THEATER
→ THX
→ DOLBY DIGITAL/DTS/AAC

・**音楽を聴くとき**
→ CONCERT HALL
→ JAZZ CLUB
→ ROCK CONCERT
→ MUSIC VIDEO
→ ENTERTAINMENT

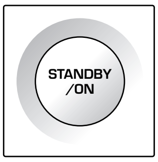
ヒント

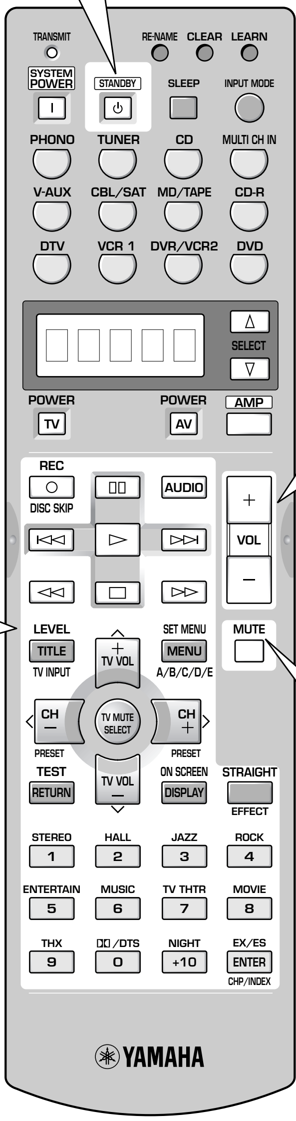
・音の大きさを調節するには？(7 ページ)
・メーカーコードを設定すると、本機のリモコンでテレビなど他の機器を操作することができます。詳しくは応用操作編 45 ページを参照してください。

こんなときは・・・

●使い終わった！

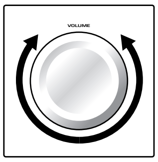
STANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すと電源が切れて、本機の使用を終了できます。

本体では 



●音の大きさを調節したい！

VOL+/ーキーを押します。または本体のVOLUMEコントロールを回します。

本体では 

●本機のリモコンで他の機器を操作したい！

メーカーコードを設定すると、本機のリモコンでテレビなど他の機器を操作することができます。詳しくは応用操作編45ページを参照してください。

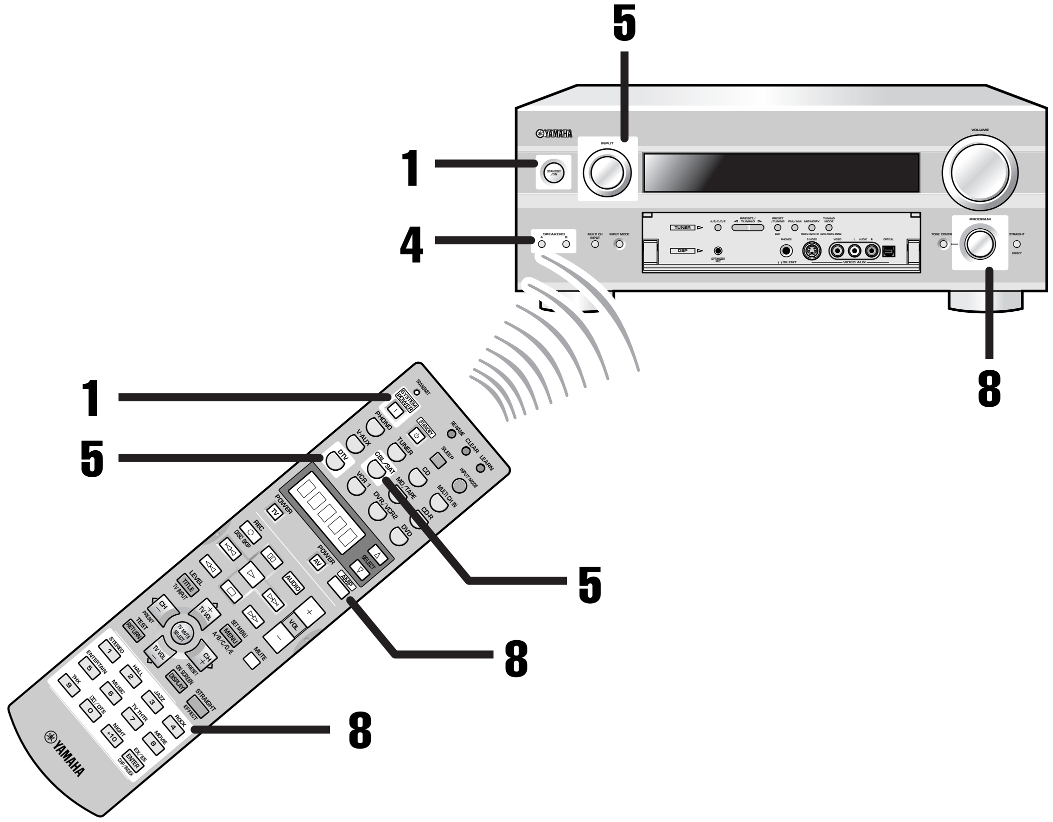
●一時的に音を消したい！

MUTEキーを押します。もう一度MUTEキーを押すと音が出ます。

お知らせ

- VOLUMEキーや音場プログラムキーなどを押しても消音は解除されます。
- 消音中は、本体のディスプレイに「MUTE　ON」と表示されます。

テレビ / 衛星放送を見る



1 本機の電源を入れます

2 テレビの電源を入れます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 衛星放送チューナー / ケーブル TV チューナーの電源を入れます

詳しくは衛星放送チューナー / ケーブル TV チューナーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

5 本機の入力を切り替えます

入力を切り替えると、本体のディスプレイに再生方法（選択した入力機器）と入力モードが数秒間表示されます。

6 テレビの入力を切り替えます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

7 チャンネルを選びます

詳しくは衛星放送チューナー / ケーブル TV チューナーの取扱説明書をご覧ください。

8 音場プログラムを選びます

おすすめ

おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編 62 ページを参照してください。

・映画を見るとき

→ MOVIE THEATER
→ THX
→ DOLBY DIGITAL/DTS/AAC

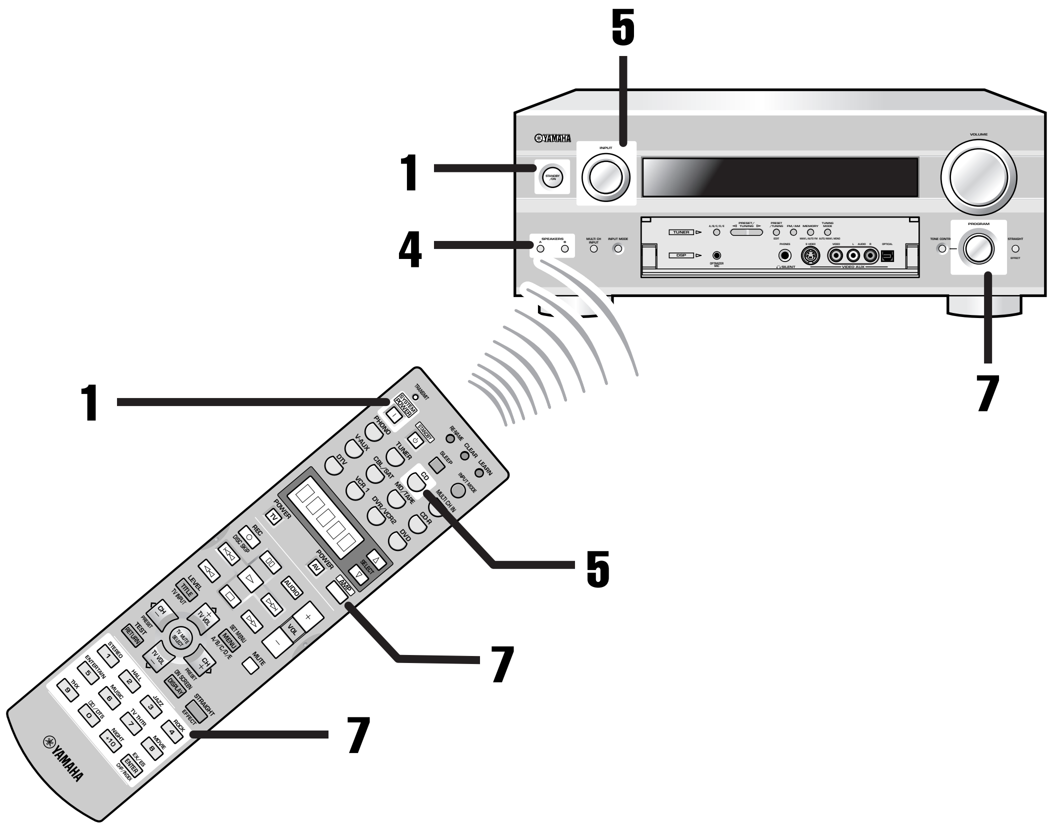
・スポーツ / ドラマを見るとき

→ TV THEATER

ヒント

・音の大きさを調節するには？（7 ページ）
・メーカーコードを設定すると、本機のリモコンで衛星放送チューナー／ケーブルTVチューナーなど他の機器を操作することができます。詳しくは応用操作編45ページを参照してください。
・本機の使用を終了するには？（7 ページ）

CDを再生する



1　本機の電源を入れます

2　CDプレーヤーの電源を入れます

詳しくはCDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

3　CDをセットします

CDプレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷面）のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。
一部のプレーヤーでは、セット方法が違う場合があります。詳しくは、CDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4　スピーカーを選びます

5　本機の入力を切り替えます

入力を切り替えると、本体のディスプレイに再生方法（選択した入力機器）と入力モードが数秒間表示されます。

6　再生を始めます

詳しくはCDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

7　音場プログラムを選びます

おすすめ

おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編62ページを参照してください。

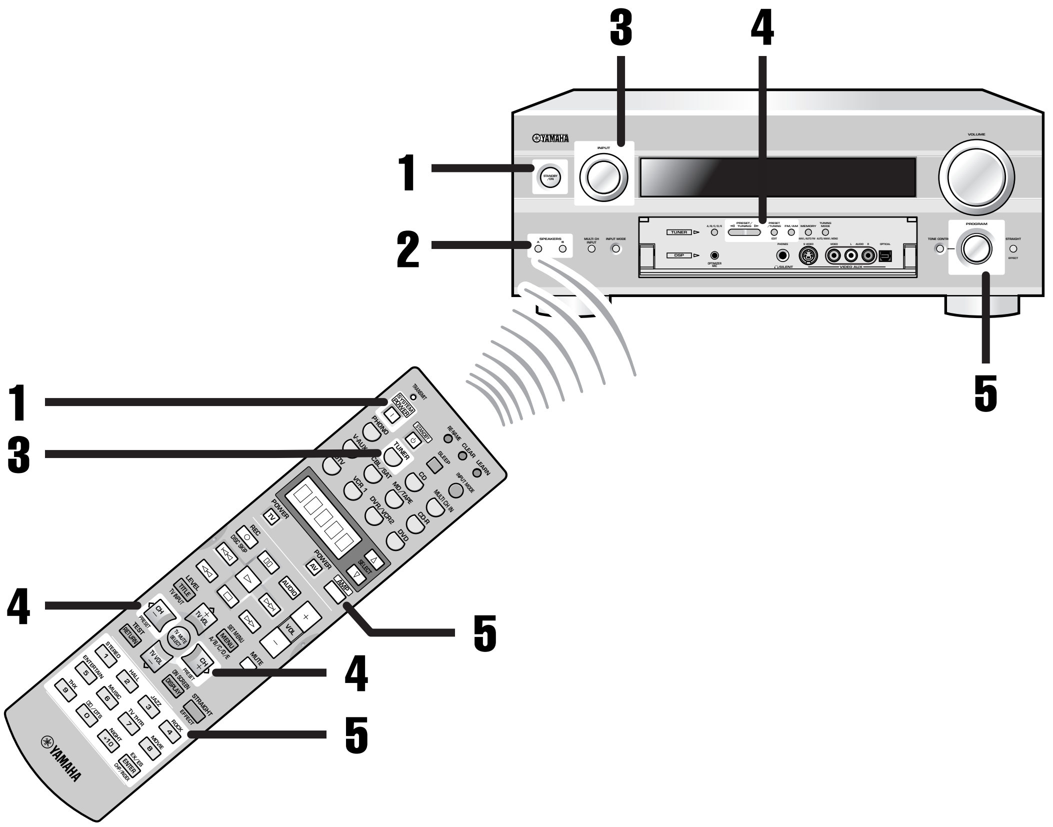
・音楽を聴くとき

→CONCERT HALL
→JAZZ CLUB
→ROCK CONCERT
→MUSIC VIDEO
→ENTERTAINMENT

ヒント

- 音の大きさを調節するには？（7ページ）
- メーカーコードを設定すると、本機のリモコンでCDプレーヤーなど他の機器を操作することができます。詳しくは応用操作編45ページを参照してください。
- 本機の使用を終了するには？（7ページ）
- 高音質のステレオ音声で楽しみたい場合は、STEREOキーを押すとダイレクトステレオモードで楽しむことができます。詳しくは応用操作編16ページを参照してください。

FM/AM 放送を聴く



1 本機の電源を入れます

2 スピーカーを選びます

3 本機の入力をTUNERに切り替えます

入力を切り替えると、本体のディスプレイに再生方法（選択した入力機器）と入力モードが数秒間表示されます。

4 放送局を選びます

＜自動的に選局する場合（オート選局）＞

1.FM/AM キーを押して、FM または AM を選ぶ

2.TUNING MODE（AUTO/MAN'L MONO）キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる

3.PRESET/TUNING◁/▷ キーを押して、受信したい放送局を選ぶ

＜手動で選局する場合（マニュアル選局）＞

1.FM/AM キーを押して、FM または AM を選ぶ

2.TUNING MODE（AUTO/MAN'L MONO）キーを押して、ディスプレイのAUTOインジケーターを消す

3.PRESET/TUNING◁/▷ キーを押す

5 音場プログラムを選びます

おすすめ

おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編 62 ページを参照してください。

・音楽を聴くとき

→ CONCERT HALL
→ JAZZ CLUB
→ ROCK CONCERT
→ MUSIC VIDEO
→ ENTERTAINMENT

ヒント　・音の大きさを調節するには？（7 ページ）
・本機の使用を終了するには？（7 ページ）

こんなときは・・・

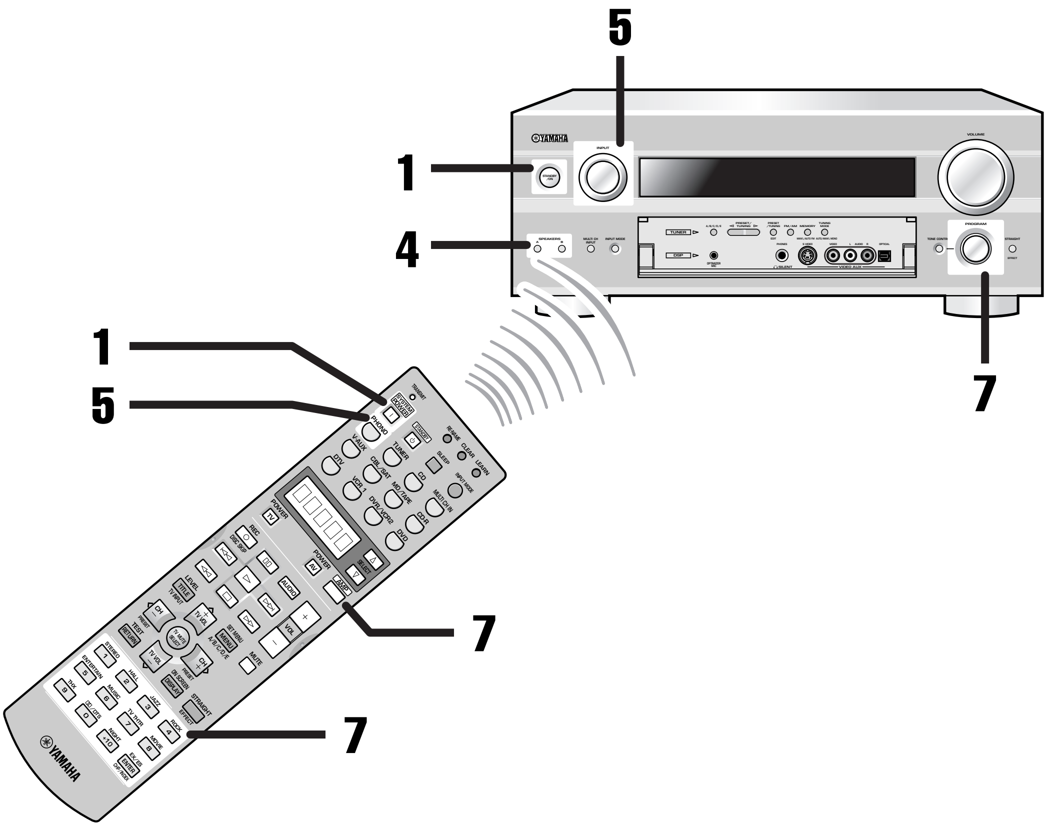
●雑音が入って聴きづらい！

アンテナの高さや方向、接続などを確認してください。詳しくは準備・接続編 27 ページを参照してください。

●放送局を登録したい！

お好みの放送局を登録することにより、簡単に放送局を呼び出せます。詳しくは応用操作編 19 ページを参照してください。

レコードを再生する



1　本機の電源を入れます

2　レコードプレーヤーの電源を入れます

詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

3　レコードをセットします

レコードプレーヤーのターンテーブルにレコードをのせます。
レコードのセットのしかたについて詳しくは、レコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4　スピーカーを選びます

5　本機の入力を切り替えます

入力を切り替えると、本体のディスプレイに再生方法（選択した入力機器）と入力モードが数秒間表示されます。

6　再生を始めます

詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

7　音場プログラムを選びます

おすすめ

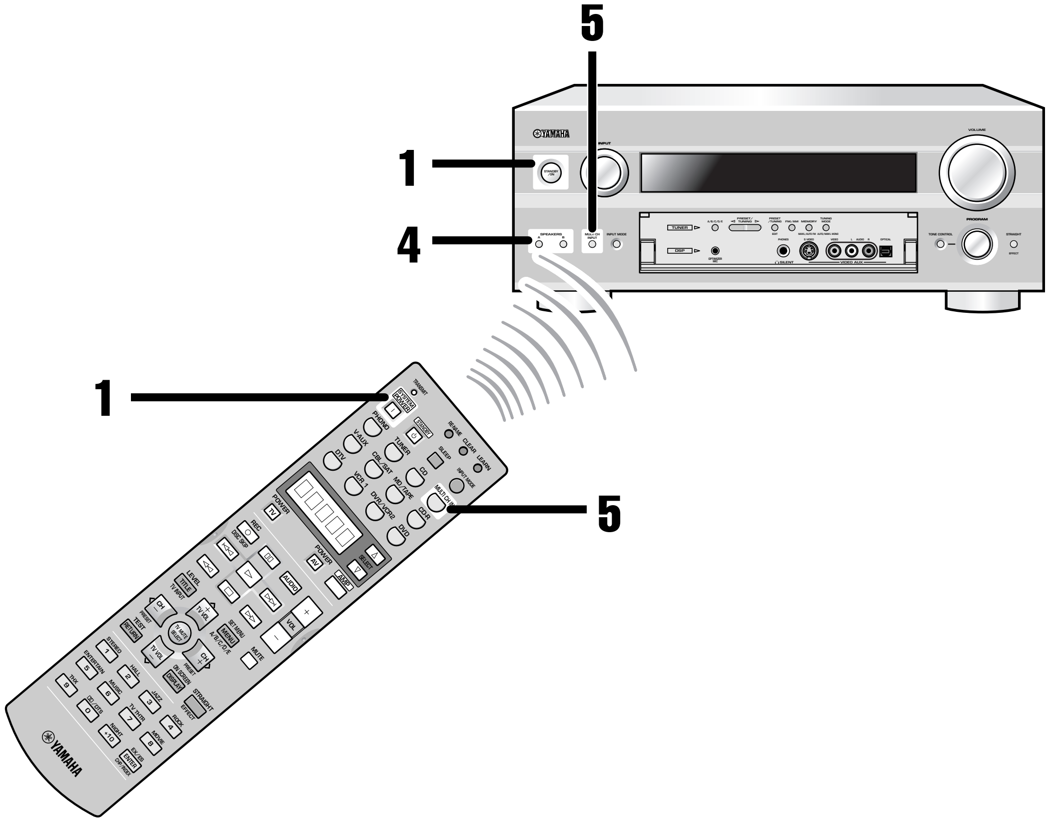
おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは応用操作編 62 ページを参照してください。

・音楽を聴くとき

→ CONCERT HALL
→ JAZZ CLUB
→ ROCK CONCERT
→ MUSIC VIDEO
→ ENTERTAINMENT

ヒント
・音の大きさを調節するには？（7 ページ）
・本機の使用を終了するには？（7 ページ）

SACD/DVD オーディオを再生する



1 本機の電源を入れます

2 SACD/DVDオーディオプレーヤーの電源を入れます

詳しくはSACD/DVDオーディオの取扱説明書をご覧ください。

3 SACDディスクまたはDVDオーディオをセットします

SACD/DVDオーディオプレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷面）のある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。
ディスクにのせたら、ディスクトレイを閉めます。
SACD/DVDオーディオプレーヤーのディスクトレイの開け方について詳しくは、SACD/DVD オーディオプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 スピーカーを選びます

5 本機の入力を切り替えます

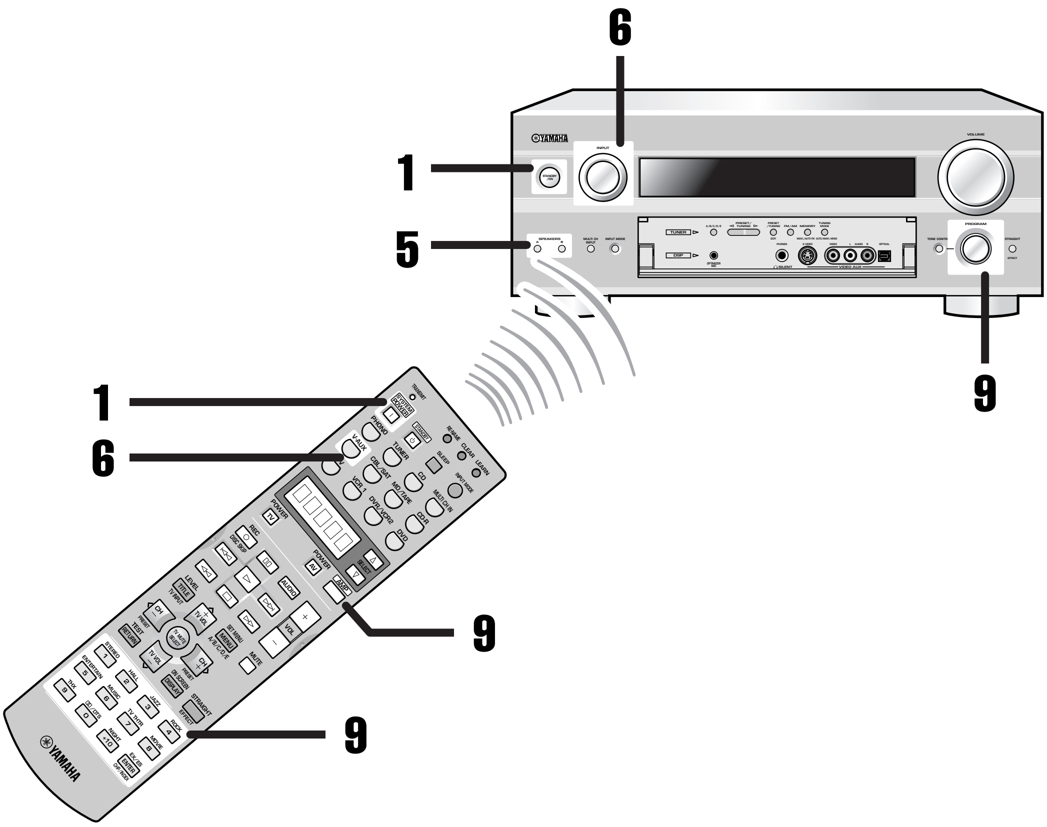
入力を切り替えると、本体のディスプレイに再生方法（選択した入力機器）と入力モードが数秒間表示されます。

6 再生を始めます

詳しくはSACD/DVDオーディオプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

ヒント
- 音の大きさを調節するには？（7 ページ）
- メーカーコードを設定すると、本機のリモコンでSACD/DVDオーディオプレーヤーなど他の機器を操作することができます。詳しくは応用操作編45ページを参照してください。
- 本機の使用を終了するには？（7 ページ）

ゲームを楽しむ



1　本機の電源を入れます

2　テレビの電源を入れます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3　ゲーム機の電源を入れます

詳しくはゲーム機の取扱説明書をご覧ください。

4　ゲームソフトをセットします

詳しくはゲーム機の取扱説明書をご覧ください。

5　スピーカーを選びます

6　本機の入力を切り替えます

入力を切り替えると、本体のディスプレイに再生方法（選択した入力機器）と入力モードが数秒間表示されます。

7　テレビの入力を切り替えます

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

8　プレイを始めます

詳しくはゲーム機の取扱説明書をご覧ください。

9　音場プログラムを選びます

おすすめ

おすすめの音場プログラムについて、ご紹介します。なお、それぞれの音場の特長など、詳しくは　応用操作編 62 ページを参照してください。

・ゲームをするとき

→ ENTERTAINMENT
→ DOLBY DIGITAL/DTS/AAC

ヒント　・音の大きさを調節するには？（7 ページ）
・本機の使用を終了するには？（7 ページ）

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● 保証期間
お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
- **◆ 技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- **◆ 部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- **◆ 出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL （0570）01 – 1808（ナビダイヤル）
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL （053）460 – 3409

FAX （053）460 – 2777
住所 〒430-8650
静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間　10:00～12:00, 13:00～18:00
(日･祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

（ヤマハ電気音響製品サービス拠点）

北海道	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL (011) 512 - 6108
仙　台	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL (022) 236 - 0249
首都圏	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F TEL (03) 5762 - 2121
浜　松	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 TEL (053) 465 - 6711
名古屋	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL (052) 652 - 2230
大　阪	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL (06) 6877 - 5262
四　国	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内 TEL (087) 822 - 3045
九　州	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

YAMAHA

ヤマハ株式会社
Printed in Malaysia WC01800-2

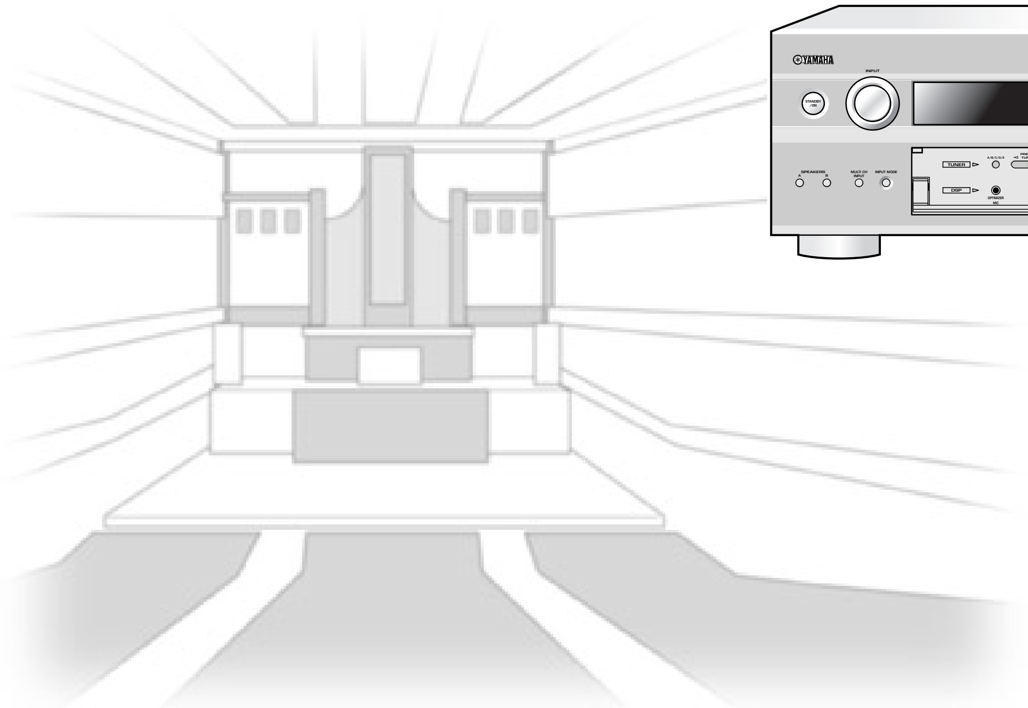
YAMAHA

DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX1400

取扱説明書





応用操作編

本機の性能をフルに活用していただくためのものです。様々な設定や操作について説明しています。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

安全上のご注意

本機をお使いいただく前に、準備・接続編に記載されている「安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)」をお読みのうえ、正しくお使いください。

もくじ

便利な機能

その他の情報

本機の特長

高音質7チャンネルパワーアンプ搭載

バランスの良い、7チャンネルパワーアンプを搭載しています。

- フロントL/R：　110W+110W*
- センター：　110W*
- サラウンドL/R：　110W+110W*
- サラウンドバックL/R：　110W+110W*

*定格出力時

高音質設計

192kHz/24ビットD/Aコンバーターを、全チャンネルに採用しています。

THX規格対応

Lucasfilm（ルーカスフィルム）社が提唱する劇場用音響の品質規格に準拠。映画製作者の製作意図をご家庭でも忠実に再現します。またTHX SURROUND EXデコーダーを搭載し、ドルビーデジタルEX方式で収録された映像ソフトを、映画館上映時と同等の臨場感で再生することができます。

デジタルサウンドフィールドプロセッサー(DSP)搭載

各種デコーダーと、ヤマハ独自のDSPによる、効果的な音場再生を実現します。ヤマハが誇るDSPを、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS、AACに融合させて、音場効果を向上させています。

- 29種類66バリエーションの豊富な音場プログラムを用意しています。
- 「バーチャルシネマDSP」：サラウンドL/Rスピーカーなしでも、音場効果を楽しめます。
- 「サイレントシアター」：ヘッドホン使用時でも、音場効果を楽しめます。

*「サイレントシアター/SILENT THEATER」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

ビデオコンバージョン機能

コンポジットビデオ信号をSビデオ、コンポーネントビデオ信号に変換し出力できます。またSビデオ信号をコンポジットビデオ、コンポーネントビデオ信号に変換し出力できます。

多機能リモコン

付属リモコンは12面の機器操作エリアを持っており、内蔵プリセットコードやラーニング機能を利用して、他のAV機器の操作を本機のリモコンでおこなうことができます。

視聴環境最適化システム「YPAO」搭載

YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、耳で聞くだけでは、正確な調整が難しかったマルチチャンネル用のセットアップを、高性能測定用マイクを使用して、自動で行います。お使いになるお部屋や、スピーカーシステムの構成に合わせて、最適な視聴空間を作り出します。

最新の音響技術に対応

以下の信号方式に対応したデコーダーを搭載しています。

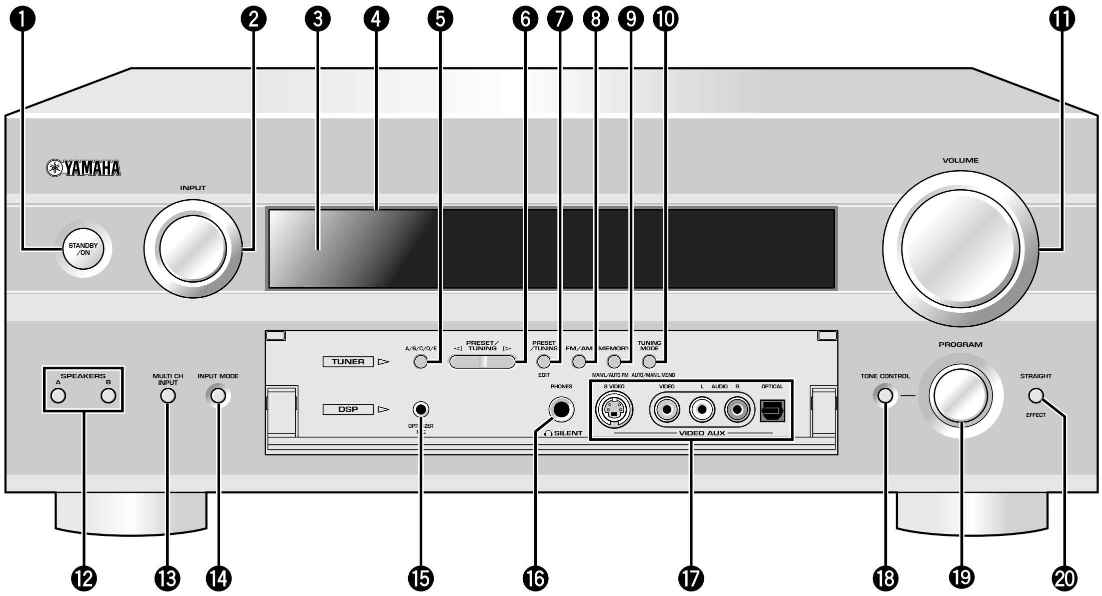
■ドルビーデジタル
■ドルビーデジタルEX
専用のマトリクスデコーダーを使用して、5.1チャンネルソフトのサラウンドL/Rチャンネルからサラウンドバックチャンネルを抽出し、6.1チャンネルで再生します。
■ドルビープロロジック
■ドルビープロロジックIIx/ドルビープロロジックII
2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ちながら5.1/6.1/7.1チャンネル音声に変換します。音楽用のMusicモードと、映画のサウンドトラック用のMovieモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録されたソースも、マルチチャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■DTS
■DTS-ES(エクステンディッド・サラウンド)
フロント3チャンネル、リア2チャンネル、低音チャンネルLFE(ロー・フリークエンシー・エフェクト)という従来の5.1チャンネル構成に、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネルとし、さらにこれらのチャンネルを独立させて収録したディスクリート6.1方式に対応しています。またマトリクス回路により、5.1チャンネルで収録されたソフトからサラウンドバックチャンネルを抽出するマトリクス6.1方式にも対応しています。
■DTS Neo：6(ネオ・シックス)
2チャンネル音源から最大6チャンネルを抽出し、再生します。ソースに合わせ、音楽用のMusicモードと、映画のサウンドトラック用のCinemaモードが用意されています。
■DTS 96/24
5.1チャンネルすべてを「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24bit」の高音質での再生を実現します。

■AAC(アドバンスド・オーディオ・コーディング)
BSデジタル放送が採用している音声フォーマット。高圧縮率と高音質が特長で、通常の2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルのサラウンド音声や、多言語放送を可能にしています。

各部の名称とはたらき

前面(フロントパネル)



スタンバイ　オン
❶ STANDBY/ONスイッチ
本機の電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。
なお、電源を入れてから数秒間は音が出ません。
スタンバイ状態になっているときは、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

インプット
❷ INPUTセレクター
再生したい入力ソースを選びます。

❸ リモコン受光窓
リモコンからの信号を受信します。

❹ ディスプレイ
音場プログラムの名前や、設定値などを表示します(10ページ)。

❺ A/B/C/D/Eキー
FM/AM放送を聴くときに、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。

プリセット　チューニング
❻ PRESET/TUNING ◁/▷キー
聴く放送局を選びます。1～8の登録(プリセット)した局から選ぶか、周波数で選局してください(基本操作編10ページ)。

プリセット　チューニング　エディット
❼ PRESET/TUNING (EDIT)キー
選局するときに、あらかじめ登録(プリセット)した局から選ぶか、または周波数で選局するかを切り替えます。
また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います(21ページ)。

エフエム エイエム
❽ FM/AMキー
FM放送、AM放送受信を切り替えます。

メモリー　マニュアル　オート　エフエム
❾ MEMORY (MAN' L/AUTO FM)キー
受信した放送局を登録(プリセット)します。3秒以上押すと、オートプリセット機能を利用できます(19ページ)。

チューニング　モード　オート　マニュアル　モノ
❿ TUNING MODE (AUTO/MAN' L MONO)キー
手動(マニュアル)選局または自動(オート)選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押してAUTOインジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTOインジケーターを消します(基本操作編10ページ)。

ボリューム
⓫ VOLUMEコントロール
本機の音量を調節します。

スピーカー
⓬ SPEAKERS A/Bスイッチ
FRONT A/B SPEAKERS端子に接続されたフロントL/Rスピーカーのうち、音声を出力するフロントL/Rスピーカーを選びます。

⓭ MULTI（マルチ） CH（チャンネル） INPUT（インプット）キー

MULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます(基本操作編20ページ)。INPUTセレクター、またはリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます。

⓮ INPUT（インプット） MODE（モード）キー

ひとつの機器をデジタル/アナログ両方の端子に接続しているときに、入力信号の優先順位を設定します(56ページ)。

⓯ OPTIMIZER（オプティマイザー） MIC（マイク）端子

自動音場補正用のマイクを接続します(準備・接続編30ページ)。

⓰ PHONES（フォンズ）端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーから音が出ませんので、深夜に音声を楽しむ際は、ヘッドホンをお使いくださるようお勧めします。ヘッドホンを接続時は、「サイレントシアター」で音声を楽しむことができます(15ページ)。

⓱ VIDEO（ビデオ） AUX（エーユーエックス）端子

ゲーム機やビデオカメラなどを接続する、予備入力端子です。

この端子に入力された信号を再生するには、INPUT セレクター、またはリモコンの入力選択キーで「V-AUX」を選びます。

⓲ TONE（トーン） CONTROL（コントロール）キー

フロントL/R、センターチャンネルの音声の音色を調節するときに押します。キーを押すごとに、BASS(低音域)とTRBL(高音域)が切り替わります。このキーを押した後に、PROGRAMセレクター(⓳)で、音色を調節します。

トーンコントロールを無効にする場合は、このキーを繰り返し押して、BYPASSに切り替えます。

ご注意

- トーンコントロールにより、フロントL/Rおよびセンターチャンネルを極端に増強、または減衰した場合、他のスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- THXサラウンドモード(13ページ)で再生しているときは、トーンコントロールで音色を調節できません。
- ヘッドホン接続時は、トーンコントロールで音色を調節できません。ヘッドホン接続時はセットメニュー「SOUND－HP TONE CTRL」で音色を調節してください(32ページ)。

⓳ PROGRAM（プログラム）セレクター

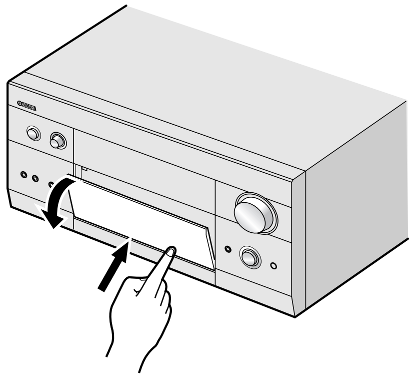
音場プログラムを選ぶときに回します。またTONE CONTROLキー(⓲)を押したあとは、音色を調節します。

⓴ STRAIGHT（ストレート）/EFFECT（エフェクト）キー

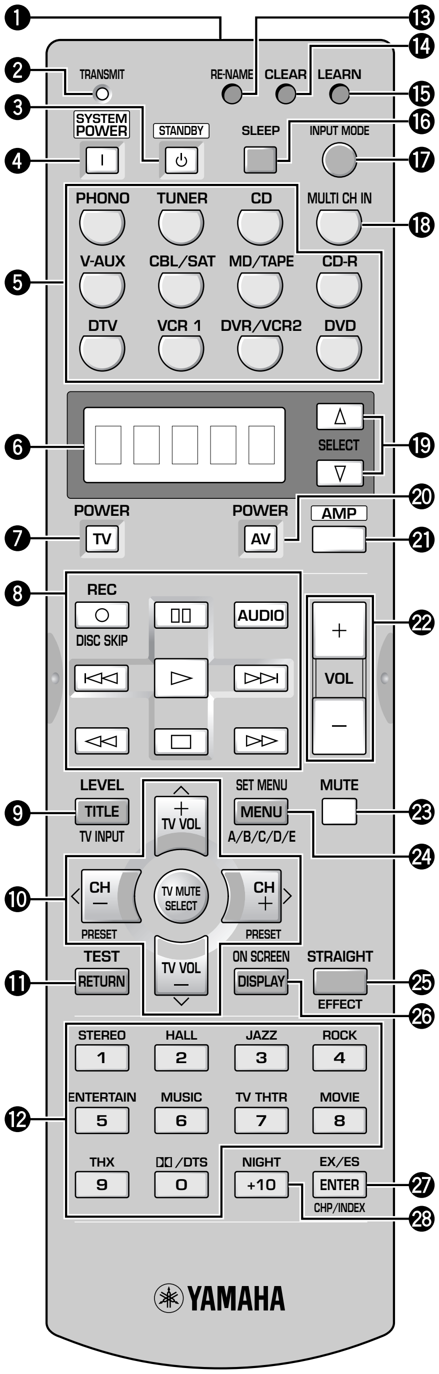
音場効果を加えた音声と、音場効果を加えない音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力信号のチャンネル数に関わらず、そのままの音声を再生します(17ページ)。

前面ドアの開閉

前面ドアの中にあるスイッチやキーを使うときは、ドアの下の部分を押すと、ドアが開きます。前面ドアの中にあるスイッチやキーを使わないときは、ドアを閉めておきます。



リモコン



❶ 赤外線送受信部
リモコン操作用の赤外線信号を送受信します。

❷ TRANSMIT（トランスミット）インジケーター
リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに、点灯します。

❸ STANDBY（スタンバイ）キー
本機の電源を待機状態(スタンバイ)にします。

❹ SYSTEM（システム） POWER（パワー）キー
本機の電源を入れます。

❺ 入力選択キー
再生したい入力ソースを選びます。入力ソースに合わせて、リモコンの機能も切り替わります。

❻ リモコンディスプレイ
操作できる機器の名前を表示します。

❼ TV（テレビ） POWER（パワー）キー
メーカーコードを設定したテレビの電源を入/切します(52ページ)。

❽ オペレーションセクション
入力選択キーで選んだ機器の、基本操作を行います(49ページ)。

❾ LEVEL（レベル）キー
各スピーカー(フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R、サブウーファー、プレゼンスL/R)の音量調節モードに入ります(57ページ)。

❿ カーソル(∧/∨/</>)キー
セットメニューや音場プログラムパラメーターを選んだり、設定するときに使います。
TV MUTE/SELECTキーは、メーカーコードを設定したテレビの消音キーとDVDのメニュー項目選択キーをとして使います。

⓫ TEST（テスト）キー
テストトーンを出力します(58ページ)。

⓬ 音場プログラムキー
音場プログラムを選びます。

⑬ RE-NAME（リネーム）ボタン
リモコンディスプレイに表示される入力ソース名を変更するときに押します(53ページ)。

⑭ CLEAR（クリアー）ボタン
設定したメーカーコードなどを消去するときに押します(54ページ)。

⑮ LEARN（ラーン）ボタン
メーカーコードを設定するときや、他の機器のリモコン信号を学習させるときに押します(45〜48ページ)

⑯ SLEEP（スリープ）キー
スリープタイマーを設定します(59ページ)。

⑰ INPUT（インプット） MODE（モード）キー
ひとつの機器をデジタル/アナログ両方の端子に接続しているときに、入力信号の優先順位を設定します(56ページ)。

⑱ MULTI（マルチ） CH IN（チャンネルイン）キー
MULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます(基本操作編12ページ)。本体のINPUTセレクターや、リモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます。

⑲ SELECT（セレクト） △/▽キー
入力ソースを切り替えずに、リモコンで操作したい機器を切り替えたいときに押して、操作したい機器の名前を表示させます。

⑳ AV POWER（パワー）キー
入力選択キーで選んだ機器のメーカーコードが設定されている場合、その機器の電源を入/切します(49〜52ページ)。

㉑ AMP（アンプ）キー
リモコンの機能を本機の操作用に切り替えます。

㉒ VOL（ボリューム） ＋/－キー
本機の音量を調節します。

㉓ MUTE（ミュート）キー
音量を下げます(基本操作編7ページ)。音量を下げている間は、ディスプレイのMUTEインジケーターが点滅します。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

㉔ SET（セット） MENU（メニュー）キー
セットメニューモードを選びます。

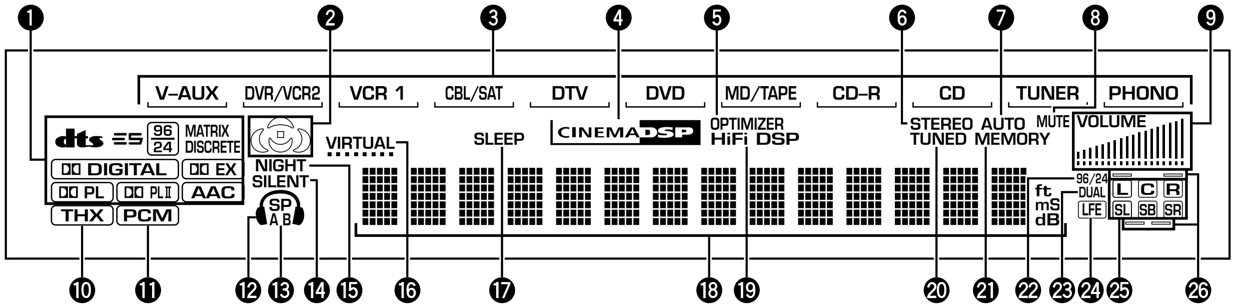
㉕ STRAIGHT（ストレート）/EFFECT（エフェクト）キー
音場効果を加えた音声と、音場効果を加えない音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力信号のチャンネル数に関わらず、そのままの音声を再生します(17ページ)。

㉖ ON（オン） SCREEN（スクリーン）キー
接続したテレビ画面に、本機の操作状態や音場プログラムの設定内容などを表示します。押すたびに表示モードが切り替わります(準備・接続編29ページ)。

㉗ EX/ESキー
ドルビーデジタルやDTSなどの5.1チャンネルソフトを6.1または7.1チャンネルで再生するときに押します(12ページ)。

㉘ NIGHT（ナイト）キー
夜間など、小音量で音声を楽しむときに押します(17ページ)。

ディスプレイ



❶ **デコーダーインジケーター**
本機内蔵のデコーダーが作動しているときに、それぞれのインジケーターが点灯します。

❷ **音場インジケーター**
DSP音場プログラムを使っているときに、本機がどのように音場を処理しているかを表示します。

❸ **入力ソースインジケーター**
現在選んでいる入力ソースの名前の下に、＿＿が点灯します。

❹ **CINEMA（シネマ） DSP（ディーエスピー）インジケーター**
CINEMA DSP音場プログラムを選んでいるときに点灯します。

❺ **OPTIMIZER（オプティマイザー）インジケーター**
「AUTO SETUP」での設定がセットされている状態で常時点灯します。

❻ **STEREO（ステレオ）インジケーター**
AUTOインジケーター(❼)が点灯しているときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると、点灯します。

❼ **AUTO（オート）インジケーター**
自動（オート）で放送局を選ぶときに点灯します。

❽ **MUTE（ミュート）インジケーター**
MUTEキーを押して、音量を下げている間点滅します。

❾ **VOLUME（ボリューム）インジケーター**
現在の音量を表示します。音量が大きくなるにつれて、右側にインジケーターが増えていきます。

❿ **THX（ティーエイチエックス）インジケーター**
THXサラウンドモードで再生しているときに点灯します。

⓫ **PCM（ピーシーエム）インジケーター**
PCM信号を再生しているときに点灯します。

⓬ **ヘッドホンインジケーター**
PHONES端子に、ヘッドホンを接続すると点灯します。

⓭ **SP（スピーカー） A/Bインジケーター**
選んでいるフロントL/Rスピーカー(A、B)を表示します。

⓮ **SILENT（サイレント） THEATER（シアター）インジケーター**
「サイレントシアター」モードで再生しているときに点灯します。

⓯ **NIGHT（ナイト）インジケーター**
ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します。

⓰ **VIRTUAL（バーチャル）インジケーター**
バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します。

⓱ **SLEEP（スリープ）インジケーター**
スリープタイマーが作動しているときに点灯します。

⓲ **マルチインフォメーションディスプレイ**
音場プログラムの名前や、設定値などが表示されます。

⓳ **HiFi DSP（ハイファイディーエスピー）インジケーター**
Hi-Fi DSP音場プログラムを選んでいるときに点灯します。

⓴ **TUNED（チューンド）インジケーター**
FM/AM放送が受信されたときに点灯します。

㉑ MEMORY（メモリー）インジケーター
放送局を登録(プリセット)するときに点滅します。

㉒ 96/24インジケーター
DTS 96/24信号が入力されているときに点灯します。

㉓ DUAL（デュアル）インジケーター
ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号が入力されているときに点灯します。

㉔ LFE（エルエフィー）インジケーター
入力されているデジタル信号に、LFE(低域効果音)チャンネルが含まれているときに点灯します。

㉕ 入力信号チャンネルインジケーター
入力されているデジタル信号に含まれている、チャンネルの数に合わせて点灯します。

㉖ プレゼンス/サラウンドバックインジケーター
BASICメニューで設定時に、それぞれ設定されているスピーカーの本数に応じて点灯します。

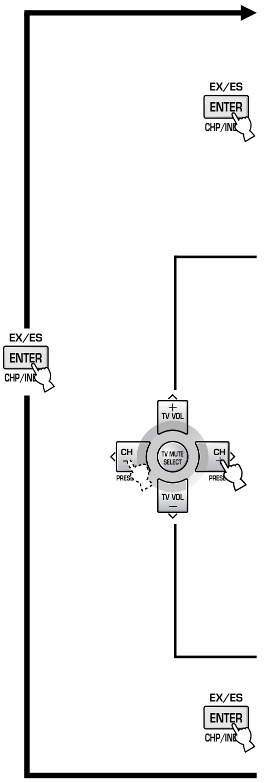
ドルビーデジタル/DTSソフトを再生する

5.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタル、DTS信号が入力されると、本機は自動的にそれらの信号フォーマットに適した、デコーダーおよび音場プログラムを選んで、再生します。

6.1/7.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、サラウンドL/R成分があるソースは、サラウンドバックスピーカーの音声を加えて、6.1/7.1チャンネルで再生することができます。
EX/ESキーと</>キーで再生モード(デコーダー)を切り替えます。



AUTO: 本機が確認できる信号(フラグ)が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1/7.1チャンネルで再生します。本機がフラグを認識できない、またはソース自体にフラグが記録されていない場合は、6.1/7.1チャンネルで再生されません。

PLⅡx Movie: ドルビーデジタル、DTS、AACを、プロロジックⅡxデコーダーにより、7.1チャンネルで再生します。

PLⅡx Music: ドルビーデジタル、DTS、AACを、プロロジックⅡxデコーダーにより、7.1チャンネルで再生します。

EX/ES: ドルビーデジタルおよびAACを、ドルビーデジタルEXデコーダーにより、6.1チャンネルで再生します。またDTSを、DTS ESデコーダーにより、6.1チャンネルで再生します。

EX: ドルビーデジタル、DTS、AACを、ドルビーデジタルEXデコーダーにより、6.1チャンネルで再生します。

OFF 6.1/7.1チャンネルでの再生はしません。5.1チャンネルで再生されます。

ご注意

- 以下の場合は、EX/ESキーを押しても、6.1または7.1チャンネルで再生されません。
  - セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」を、NONEに設定しているとき(26ページ)。
  - セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」を、NONEに設定しているとき(26ページ)。
  - 2ch Stereo、Direct Stereo、7ch Stereoを、音場プログラムとして選んでいるとき。
  - サラウンドL/R成分のないソース(2チャンネルのPCM、アナログ信号など)を再生しているとき。
  - MULTI CH INPUT端子に接続したソースを再生しているとき。
  - ヘッドホンを接続しているとき。
- セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」を、LRG×1またはSML×1に設定しているときは、「PLⅡx Movie」を選べません(26ページ)。
- 本機をスタンバイ状態にすると、モードは自動的にAUTOになります。
- DTS 96/24ソフトを6.1/7.1チャンネルで再生しているときは、DTS 96/24デコーダーは作動しません。

ダイアログ・ノーマライゼーション



ダイアログ・ノーマライゼーション機能とは、音量が異なるさまざまなソフトに対し、自動的に一定の音量で再生されるように調整する機能です。この機能は、ドルビーデジタルソフト再生時に有効となり、左記のようにノーマライゼーションレベルがディスプレイに表示されます。

THXサラウンドモードで再生する

THXサラウンドモードでは、映画のサウンドトラックを、一般家庭でリアルに再現することができます。どのようなソフトに対しても効果的ですが、ドルビーデジタル、DTSソフトを再生するときには、特に威力を発揮します。
リモコンのTHXキーを押すと、THXサラウンドモードで再生します。



2チャンネルソースの場合：
マルチチャンネル化してから、THX処理をして再生します。マルチチャンネル化するためのデコーダーを、以下の3つのなかから選びます。「DEC」パラメーターでデコーダーを切り替えることができます（73ページ）。

THX Cinema: PRO LOGIC

THX Cinema: PLII Movie

THX Cinema: Neo:6 Cinema

マルチチャンネルソースの場合：
入力信号の種類により、最適なデコーダーで、忠実にデコードしてから、THX処理をして再生します。

THX Cinema

あらゆるソフトの再生に適しています。

THX Surround EX

ドルビーデジタルEX方式のソフトを、サラウンドバックチャンネルを加えた、計6.1または7.1チャンネルで再生します。EX/ESキーを押して、EX/ESデコーダーをオンにしてください(12ページ)。

dts ES + THX

DTS-ES方式のソフトを、サラウンドバックチャンネルを加えた、計6.1または7.1チャンネルで再生します。EX/ESキーを押して、EX/ESデコーダーをオンにしてください(12ページ)。

ご注意
- セットメニュー「SOUND-SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」をNONEに設定しているときは、「THX Surround EX」と「dts ES＋THX」選べません。

2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックⅡ、ドルビープロロジックⅡx、またはDTS Neo:6デコーダーを選ぶと、2チャンネルソースを、マルチチャンネル化してお楽しみいただけます。
リモコンのⅮⅮ/DTSキーを押して、デコーダーを選びます。



PRO LOGIC SUR.STANDARD
↓
PRO LOGIC SUR.ENHANCED
↓
*PRO LOGIC Ⅱx Movie
↓
*PRO LOGIC Ⅱx Music
↓
*PRO LOGIC Ⅱx Game
↓
DTS Neo:6 Cinema
↓
DTS Neo:6 Music

* PLⅡ/PLⅡxパラメーターで、プロロジックⅡxデコーダーとプロロジックⅡデコーダーを切り替えることができます（73ページ）。

ご注意

- セットメニュー「SOUND-SPEKER SET」の「SURR B L/R SP」を、NONEに設定しているときは、プロロジックⅡxデコーダーは使えません。

サラウンドL/Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP）

セットメニュー「SOUND-SPEKER SET」の「SURR L/R SP」を、NONEに設定すると、バーチャルシネマDSPモードで再生を楽しめます。

バーチャルシネマDSPモードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロントL/Rスピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSPモードで再生している間は、本体ディスプレイのVIRTUALインジケーターが点灯します。

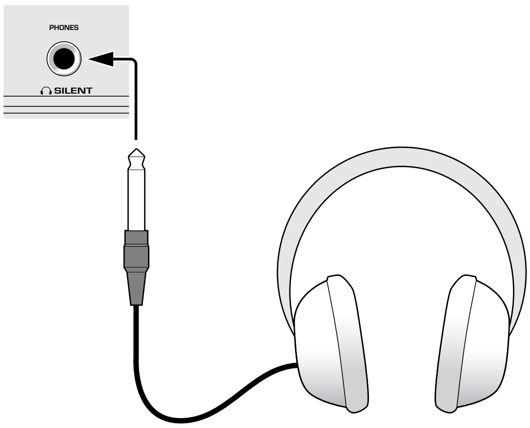


ご注意

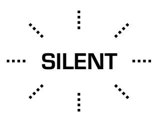
- 以下の場合は、セットメニュー「SOUND-SPEKER SET」の「SURR L/R SP」を、NONEに設定しても、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。
  - 2ch Stereo、Direct Stereo、7ch Stereo、DOLBY DIGITAL SUR.STANDARD、DTS SUR.STANDARD、AAC SUR.STANDARD、PRO LOGIC SUR.STANDARD、PRO LOGICⅡx Movie/Music/Game、PRO LOGICⅡ Movie/Music/Game、DTS Neo：6 Cinema/Musicのどれかを、音場プログラムとして選んでいるとき。
  - THXサラウンドモードで再生しているとき。
  - STRAIGHT/EFFECTキーを押して、音場効果を切って再生しているとき。
  - ヘッドホンを接続しているとき。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(サイレントシアター)

音場効果が入っている状態で、ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、「サイレントシアター」モードで再生を楽しめます。



「サイレントシアター」モードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。「サイレントシアター」モードで再生している間は、本体ディスプレイのSILENT THEATERインジケーターが点灯します。



ご注意

- 以下の場合は、ヘッドホンを接続しても、「サイレントシアター」モードには切り替わりません。
  - 2ch Stereo、Direct Stereoを音場プログラムとして選んでいるとき。
  - THXサラウンドモードで再生しているとき。
  - STRAIGHT/EFFECTキーを押して、音場効果を切って再生しているとき。

ステレオ再生を楽しむ

ステレオ再生する（2chステレオ）

フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。
リモコンのSTEREOキーを繰り返し押して、2ch Stereoを選びます。



↓

2ch Stereo

2チャンネルソースの場合：
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合：
フロントL/Rチャンネル以外の音声をフロントL/Rチャンネルにミックスして、フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。
LFEチャンネルは、セットメニュー「SOUND-SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を、FRONTに設定した場合のみ、フロントL/Rスピーカーにミックスされます。

高音質でステレオ再生する（ダイレクトステレオ）

アナログ信号、PCM信号を、原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生します。
リモコンのSTEREOキーを繰り返し押して、Direct Srereoを選びます。



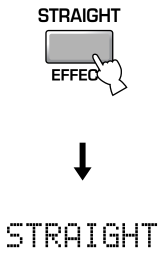
↓

Direct Stereo

ご注意
- Direct Stereoは2チャンネルソースに対してのみ有効なプログラムです。マルチチャンネルソースを再生しているときにDirect Stereoを選ぶと、アナログ音声入力端子に入力されている音声を再生します。
- Direct Stereoで再生中は、以下の機能が無効になります。
  - セットメニュー「SOUND-SPEAKER SET」での設定
  - セットメニュー「SOUND-AUDIO SET」の「AUDIO DELAY」での設定
  - 各スピーカーの音量設定
  - フロントL/Rおよびセンタースピーカーの音質（トーンコントロール）設定
- Direct Stereoで再生中は、本体ディスプレイが自動的に暗くなります。
- Direct Stereoで再生中は、サブウーファーから音は出ません。
- Direct StereoでDTS-CDを再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。

音場効果をかけずに再生する（ストレートモード）

入力された信号を、音場効果をかけずにそのまま再生します。リモコンのSTRAIGHT/EFFECTキーを押すと、ストレートモードで再生します。



2チャンネルソースの場合：
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合：
入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

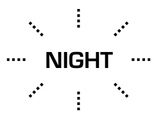
元の状態(音場効果をかけた状態)に戻るには、もう一度STRAIGHT/EFFECTキーを押します。

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

ナイトリスニングモードを設定すると、夜間でも音量を気にせずに再生を楽しめます。
ナイトリスニングモードでは、セリフなどは明瞭に、大きな効果音は抑えて再生します。
リモコンのNIGHTキーを押すと、ナイトリスニングモードで再生します。



ナイトリスニングモードで再生している間は、本体ディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

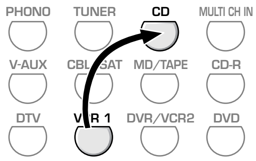


ヒント

- すべての音場プログラムに対して、ナイトリスニングモードで再生することができます。
- 本機をスタンバイ状態にすると、ナイトリスニングモードは解除されます。
- 入力ソースにより、効果に違いが生じる場合があります。

音楽と映像で異なるソースを楽しむ(バックグラウンドビデオ機能)

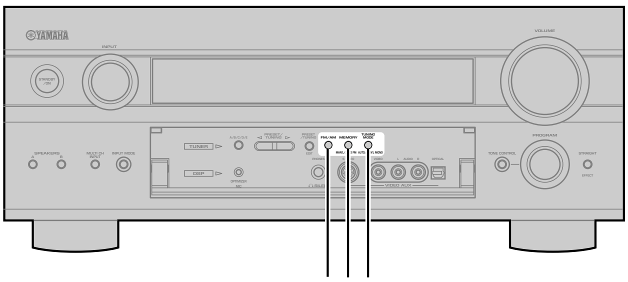
バックグラウンドビデオ機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(例えばビデオを観ながら、クラシック音楽を楽しむことができます)。
ビデオ系ソースを選んでから、リモコンの入力選択キーでオーディオ系ソースを選びます。



FM/AM放送を登録する

FM放送局を自動登録する（オートプリセット）

FM放送局を自動的に40局(8局×5グループ)まで登録(プリセット)できます。放送局を登録しておくと、あとは簡単なキー操作で選局することができ、便利です。



1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ



→ FM

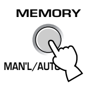
2 TUNING MODE(AUTO/MAN'L MONO)キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる



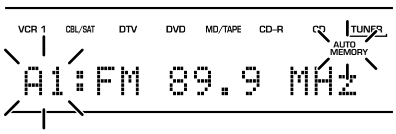
→ AUTO 点灯

3 MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キーを約3秒押し続ける

プリセット番号とMEMORYインジケーター、AUTOインジケーターが点滅します。 数秒後に、周波数表示が高くなり始めます。(オートプリセット開始。)



↓



オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モードも同時に登録されます。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます(21ページ)。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合には全周波数帯域を一巡して停止します。

ご注意

- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは、受信モードをモノラルにして、手動で登録してください(次ページ)。

登録を始めるプリセット番号を指定する(オートプリセットオプション)

FM局の登録を始めるプリセット番号を指定したり、周波数の低い方へ向けてオートプリセットを始めることもできます。

1 左に記載の「FM放送局を自動登録する(オートプリセット)」の手順2までの操作をおこなう

2 MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キーを約3秒押し続けたあと、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING ◁/▷キーを押して、最初に登録させたいプリセット番号を選ぶ

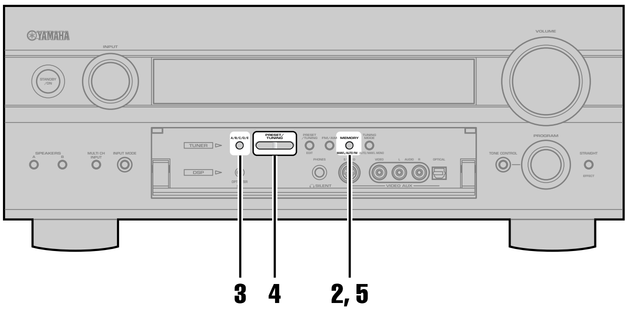
放送局が「E8」まですべて登録されると、オートプリセットが停止します。

3 PRESET/TUNING(EDIT)キーを押してコロン(：)を消してから、PRESET/TUNING◁キーを押す

周波数表示が低くなり始めます。(オートプリセット開始。)

手動で登録する(マニュアルプリセット)

放送局40局までを手動で登録することもできます。



ヒント

• AM放送局はマニュアルで登録してください。

1 プリセットしたい放送局を選局する

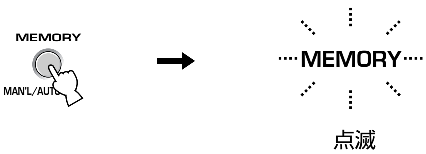
詳しくは基本操作編10ページをご覧ください。



選局時には、ディスプレイに受信している局の周波数と放送バンド(「FM」または「AM」)が表示されます。

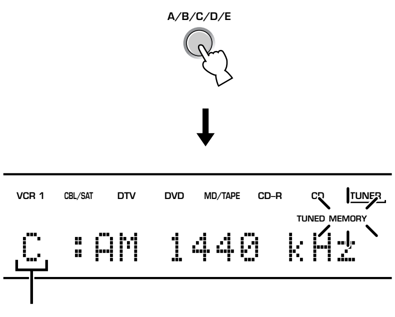
2 MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キーを押す

放送局が登録できる状態になります。ディスプレイのMEMORYインジケーターが約5秒間点滅します。



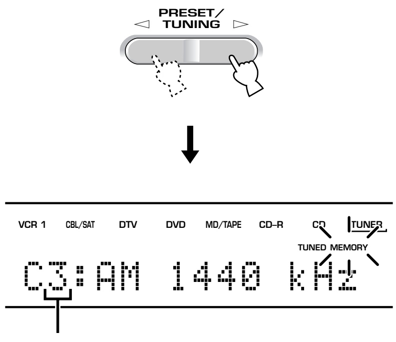
3 MEMORYインジケーターの点滅中にA/B/C/D/Eキーを押して、プリセットグループ(A～E)を選ぶ

グループが表示されます。放送バンド表示の隣にコロン(:)が点灯していることを確認してください。



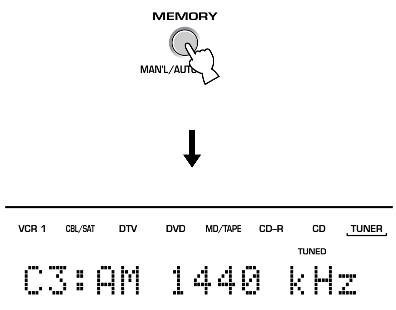
4 MEMORYインジケーターの点滅中にPRESET/TUNING◁/▷キーを押して、プリセット番号(1～8)を選ぶ

▷キーを押すと数が増え、◁キーを押すと減ります。



5 MEMORYインジケーターの点滅中に、MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キーを押す

選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(「FM」または「AM」)、周波数がディスプレイに表示されます。



C3に登録された局を示しています。

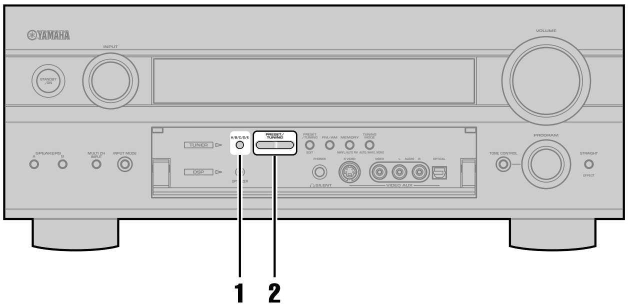
6 他の放送局を続けて登録するときは、手順1～5を繰り返す

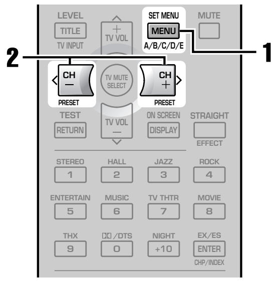
ご注意

• 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
• 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード(ステレオ/モノラル)も同時に登録されます。

登録した放送局を 選んで聴く(プリセット選局)

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。



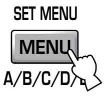


1 ***A/B/C/D/Eキーを何回か押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ***

ディスプレイに表示されるプリセットグループはA/B/C/D/Eキーを押すたびに切り替わります。



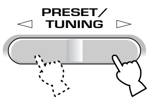
または



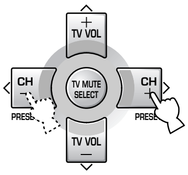
本体　リモコン

2 ***本体のPRESET/TUNING◁/▷キー(またはリモコンのPRESET CH +/－キー)を押して、プリセット番号を選ぶ***

プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド(「FM」または「AM」)と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。



または



本体　リモコン

↓

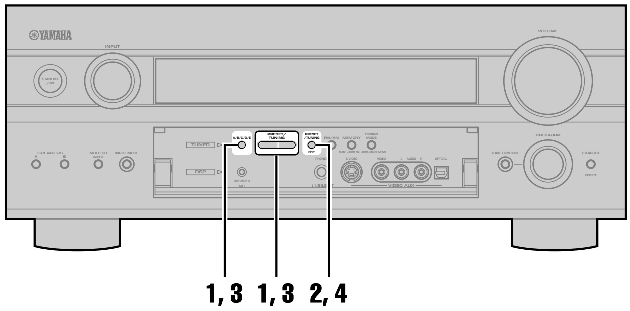


![ヒント]

- 自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局については、基本操作編10ページを参照してください。

登録した放送局を入れ替える

登録した放送局を入れ替えることもできます。
ここでは「E1」に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。



1 ***「E1」に登録した放送局を選局する***

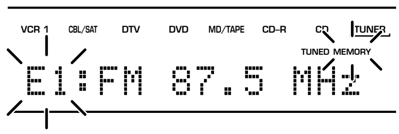
詳しくは、左に記載の「登録した局を選んで聴く(プリセット選局)」をご覧ください。

2 ***PRESET/TUNING(EDIT)キーを約3秒間押す***

「E1」とMEMORYインジケーターがディスプレイに点滅します。

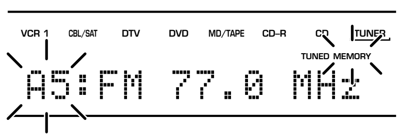


↓



3 ***「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING◁/▷キーを使って選局する***

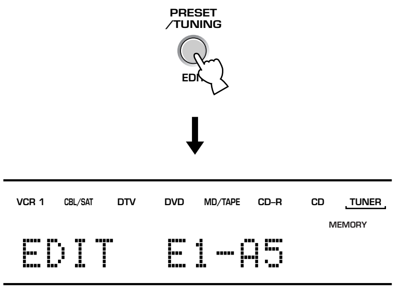
「A5」とMEMORYインジケーターがディスプレイに点滅します。



本機について
いろいろな再生のしかた
セットメニューで設定を変更する
オリジナルのリスニング環境をつくる
リモコンを使いこなす
便利な機能
その他の情報

4 *PRESET/TUNING(EDIT)キーを押す*

プリセット局が入れ替わります。



プリセットした局の入れ替えが完了したことを示しています。

セットメニュー一覧

セットメニューには、自動的に音場補正を行う「AUTO SETUP」と、用途や機能別に分類されたカテゴリーを必要に応じて呼び出して設定する「MANUAL SETUP」の2つがあります。
ここでは、「MANUAL SETUP」の各メニューを設定する方法について説明します。

ヒント
- 「AUTO SETUP」の設定方法など詳しくは、準備・接続編30ページを参照してください。

BASIC MENU

本機を使用する前に、お部屋のサイズやシステムにあわせて最適な視聴空間を簡単に設定/変更できます。(25ページ)

SOUND MENU

音質や音色の調節など、音声の出力に関して以下のメニューを設定/変更できます。

項　目	内　　容	参照ページ
SPEAKER SET	ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有り無しなどを設定します。	26
SP LEVEL	各スピーカーからの出力レベルを設定します。	27
SP DISTANCE	各スピーカーからリスニングポジションまでの距離に合わせて、音の到達するタイミングを設定します。	28
GRAPHIC FQ	グラフィックイコライザーを使って、各スピーカーの音色を調節します。	29
LFE LEVEL	ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。	29
DYNAMIC RANGE	ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを調節します。	30
LOW FRQ.TEST	サブウーファーの動作や、サブウーファーと各スピーカーからの音のつながりを、テストトーンで確認します。	31
HP TONE CTRL	ヘッドホンから出力される音声の音域を調節します。	32
AUDIO SET	音声と映像のズレの補正、AACモノラル音声の出力を設定します。	32
PR/SBch SELECT	ドルビーデジタルEXやDTS－ESなどサラウンドバック成分があるソースをシネマDSP音場プログラムで再生するときに音を出すスピーカーを設定します。	33

INPUT MENU

入出力端子の割り当て変更や、表示される入力機器名の変更など、信号の入出力に関して以下のメニューを設定/変更できます。

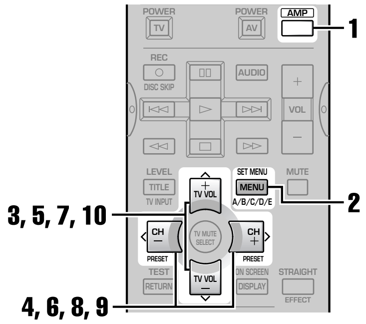
項　目	内　　容	参照ページ
I/O ASSIGNMENT	使用する機器が本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てます。	34
INPUT MODE	電源を入れたときの接続機器の入力モードを設定します。	35
INPUT RENAME	各入力名を変更します。	35
EXT.INPUT	MULTI CH INPUT端子に接続されたソースの入力信号の振り分けを設定します。	36

OPTION MENU

「BASIC MENU」、「SOUND MENU」、「INPUT MENU」以外にも以下のいろいろなメニューを設定/変更できます。

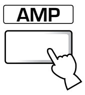
項　目	内　　容	参照ページ
DISPLAY SET	本体ディスプレイの明るさ、オンスクリーン画面の背景や表示位置などを調節します。	37
MEMORY GUARD	変更した設定値を保護します。	38
PARAM.INI	音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。	38
ZONE SET	FRONT SPEAKER B端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。	39

ご注意
- 操作を始める前に、本機および本機に接続したテレビの電源が入っていることを確認してください。

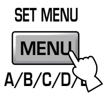


1 AMPキーを押して、AMPを選ぶ

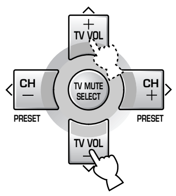
リモコンディスプレイに「AMP」が表示されていることを確認してください。



2 SET MENUキーを押す



3 ∧/∨キーを押して、「MANUAL SETUP」を選ぶ

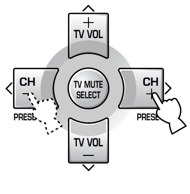


```
       SET MENU

     ･AUTO SETUP
  →  ･MANUAL SETUP

     ▲/▼ : Up/Down
     -/+ : Enter
```

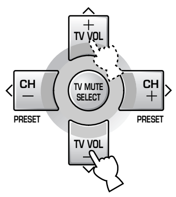
4 ＜/＞キーを押す



```
   ･MANUAL SETUP

→ 1 BASIC MENU
  2 SOUND MENU
  3 INPUT MENU
  4 OPTION MENU
   ▲/▼ : Up/Down
   -/+ : Enter
```

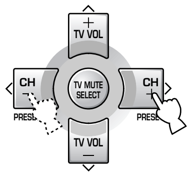
5 ∧/∨キーを繰り返し押して、カテゴリーを選ぶ



```
   ･MANUAL SETUP

  1 BASIC MENU
→ 2 SOUND MENU
  3 INPUT MENU
  4 OPTION MENU
   ▲/▼ : Up/Down
   -/+ : Enter
```

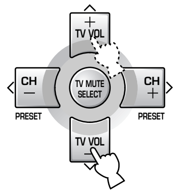
6 ＜/＞キーを押す



```
  2 SOUND MENU 1/3

→ A)SPEAKER SET
  B)SPEAKER LEVEL
  C)SP DISTANCE
  D)GRAPHIC EQ
   ▲/▼ : Up/Down
   -/+ : Enter
```

7 ∧/∨キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ

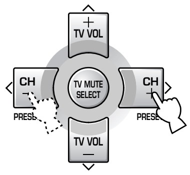


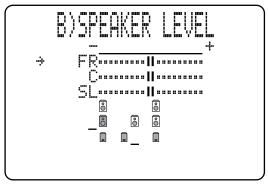
```
  2 SOUND MENU 1/3

  A)SPEAKER SET
→ B)SPEAKER LEVEL
  C)SP DISTANCE
  D)GRAPHIC EQ
   ▲/▼ : Up/Down
   -/+ : Enter
```

8 ＜/＞キーを押す

選んだメニューの設定に入ります。

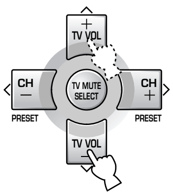




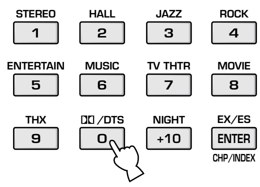
項目によっては∧/∨キーを押して、サブメニューを選びます。

9 ＜/＞キーを繰り返し押して、設定を変更する

10 セットメニューを終了するときは、メニュー表示が消えるまで、∧/∨キーを繰り返し押すか、音場プログラムキーを押す



または

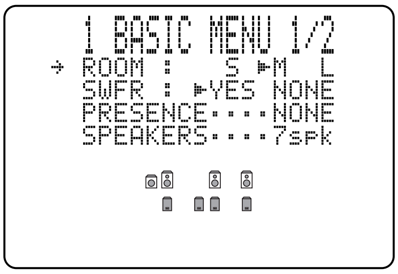


視聴空間を設定する(BASIC MENU)

お部屋のサイズや、接続したスピーカーの数にあわせて、簡単に再生に適した設定にします。
BASIC MENUでは、ヤマハが推奨する視聴空間を簡単に設定することができます。さらにSOUND MENUにより、お好みの視聴空間を設定することができます。BASIC MENUを使わずに、お好みの環境を設定するには、「音声出力を設定する(SOUND MENU)」(26ページ)を参照し、SOUND MENUから設定してください。

設定のしかた

カーソル(∧/∨/<//>)キーで、MANUAL SETUP → BASIC MENUを選び、BASIC MENU画面で、設定を変更します。



選択項目	PRESENCE を YES に設定		PRESENCE を NONE に設定	
	入力信号インジケーターの表示	使用するスピーカー	入力信号インジケーターの表示	使用するスピーカー
2spk			L R	フロントL/フロントR
3spk			L C R	フロントL/センター/フロントR
4spk	L R	プレゼンスL/プレゼンスR/フロントL/フロントR	L R SL SR	フロントL/フロントR/サラウンドL/サラウンドR
5spk	L C R	プレゼンスL/プレゼンスR/フロントL/センター/フロントR	L C R SL SR	フロントL/センター/フロントR/サラウンドL/サラウンドR
6spk	L R SL SR	プレゼンスL/プレゼンスR/フロントL/フロントR/サラウンドL/サラウンドR	L C R SL SB SR	フロントL/センター/フロントR/サラウンドL/サウンドバック/サラウンドR
7spk	L C R SL SR	プレゼンスL/プレゼンスR/フロントL/センター/フロントR/サラウンドL/サラウンドR	L C R SL SB SR	フロントL/センター/フロントR/サラウンドL/サウンドバックL/サウンドバックR/サラウンドR
8spk	L C R SL SB SR	プレゼンスL/プレゼンスR/フロントL/センター/フロントR/サラウンドL/サラウンドバック/サラウンドR		
9spk	L C R SL SB SR	プレゼンスL/プレゼンスR/フロントL/センター/フロントR/サラウンドL/サラウンドバックL/サラウンドバックR/サラウンドR		

ROOM

本機を使用する部屋にあわせて、大きさを選びます。

選択項目：S、M、L

大きさの目安はSが3.6mx2.8m(6畳)、Mが4.8mx4m(12畳)、Lが6.3mx5m(18畳)です。

SWFR

サブウーファーを使うか、使わないかを選びます。

選択項目：YES(使う)、NONE(使わない)

PRESENCE

プレゼンスL/Rスピーカーを使うか、使わないかを選びます。

選択項目：YES(使う)、NONE(使わない)

SPEAKERS

使用するスピーカーの本数を選びます。

選択項目：2、3、4、5、6、7、8、9(spk)

左記の表を参考に、適切な本数を選んでください。

SETUP

上記4つの項目で選んだ内容で設定するか、キャンセルするかを選びます。

選択項目：SET(設定する)、CANCEL(キャンセルする)

SETを選ぶと、選んだ内容で設定します。表示が「CHECK: TestTone」に変わり、テストトーンが出力されます。
テストトーンの出力が始まると、表示が「CHECK OK: YES」に変わります。各スピーカーから同じ音量でテストトーンが聞こえる場合はYESを、音量の調節が必要な場合はNOを選びます。

YESを選ぶと、BASIC MENUを終了します。
NOを選ぶと、自動的に「SOUND-SP LEVEL」に入ります(27ページ)。
CANCELを選ぶと、選んだ内容をキャンセルし、BASIC MENUを終了します。

ご注意

- スピーカーの本数は、サブウーファーを除く合計使用本数を選んでください。

ヒント

- テストトーンは2回巡回します。
- テストトーンの巡回中は、本体ディスプレイの入力信号インジケーターは、テストトーンを出力しているスピーカーを点滅表示します。

音声出力を設定する(SOUND MENU)

SPEAKER SET

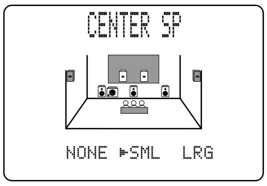
ご使用になるスピーカーにあわせて、スピーカーのサイズ、有り無しなどを設定します。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/＜/＞）キーで、MANUAL　SETUP　→　SOUND　MENU　→ SPEAKER SETを選び、SPEAKER SET画面で、設定を変更します。

ヒント

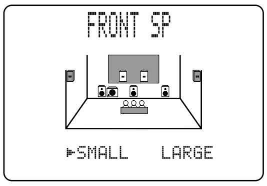
• 目安として、ウーファーの口径が16cm以下のスピーカーをお使いの場合はSMALL、それ以上の口径の場合はLARGEに設定することをおすすめします。



CENTER SP

センタースピーカーのサイズ、有り無しを設定します。

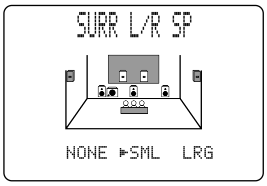
選択項目：LRG（大）、SML（小）、NONE（無し）



FRONT SP

フロントL/Rスピーカーのサイズを設定します。

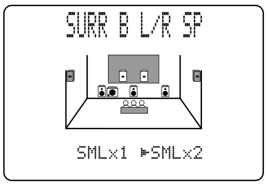
選択項目：LARGE（大）、SMALL（小）



SURR L/R SP

サラウンドL/Rスピーカーのサイズ、有り無しを設定します。

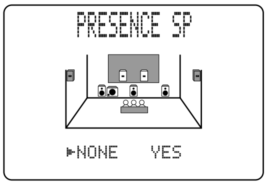
選択項目： LRG（大）、SML（小）、NONE（無し）



SURR B L/R SP

サラウンドバックスピーカーのサイズ、本数、有り無しを設定します。

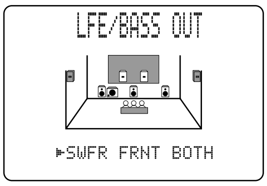
選択項目：NONE（無し）、SMLx1（小x1本）、SMLx2（小x2本）、LRGx1（大x1本）、LRGx2（大x2本）



PRESENCE SP

プレゼンスL/Rスピーカーを使うか、使わないかを設定します。

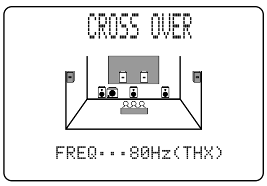
選択項目：YES（使う）、NONE（使わない）



LFE/BASS OUT

低音成分を出力するスピーカーを設定します。

選択項目：SWFR（サブウーファー）、FRNT（フロント）、BOTH（サブウーファー+フロント）



CROSS OVER

サブウーファーに出力する低音成分の、周波数の上限を設定します。
設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーに出力されます。

選択項目：40Hz、60Hz、80Hz（THX）、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

THX推奨の設定

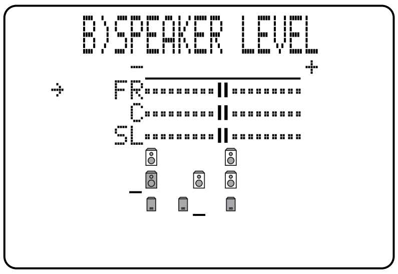
• 全スピーカー：　SMALL
• LFE/BASS OUT：SWFR
• CROSS OVER：　80Hz(THX)

SP LEVEL

各スピーカーからの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/＜/＞）キーで、MANUAL SETUP → SOUND MENU → SP LEVELを選び、SP LEVEL画面で、設定を変更します。



FR
フロントLスピーカーからの音量を比較して、フロントRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0〜＋10.0dB

C
フロントLスピーカーからの音量を比較して、センタースピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0〜＋10.0dB

SL
フロントLスピーカーからの音量を比較して、サラウンドLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0〜＋10.0dB

SB*
サラウンドLスピーカーからの音量と比較して、サラウンドバックスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0〜＋10.0dB

*サラウンドバックスピーカーの本数により、表示が変わります。

SBL*
サラウンドLスピーカーからの音量と比較して、サラウンドバックLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0〜＋10.0dB

*サラウンドバックスピーカーの本数により、表示が変わります。

SBR*
サラウンドLスピーカーからの音量と比較して、サラウンドバックRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0〜＋10.0dB

*サラウンドバックスピーカーの本数により、表示が変わります。

SR
サラウンドLスピーカーからの音量と比較して、サラウンドRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0〜＋10.0dB

SWFR
フロントLスピーカーからの音量と比較して、サブウーファーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0〜＋10.0dB

PRES
フロントL/Rスピーカーからの音量を比較して、プレゼンスL/Rスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲：－10.0〜＋10.0dB

ヒント

- 音圧計をお持ちの場合は、音圧計をCウェイト/スローモードに設定したうえで、各スピーカーからの音量がリスニングポジションで75db SPLになるよう調節してください。

SP DISTANCE

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジションに届くように、スピーカーからの音の出力を遅らせます。遅らせる時間は、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を入力して、その差から自動的に算出されます。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SETUP → SOUND MENU → SP DISTANCEを選び、SP DISTANCE画面で、設定を変更します。

```
    C)SP DISTANCE

 → UNIT······meters
   FRONT L····3.00m
   FRONT R····3.00m
   CENTER·····3.00m
    ▲/▼ : Up/Down
    −/+ : Adjust
```

UNIT
設定する距離の単位を選びます。

選択項目：meters、feet

FRONT L
フロントLスピーカーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30～24.00m、1.0～80.0ft

FRONT R
フロントRスピーカーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30～24.00m、1.0～80.0ft

CENTER
センタースピーカーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30～24.00m、1.0～80.0ft

SURR L
サラウンドLスピーカーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30～24.00m、1.0～80.0ft

SURR R
サラウンドRスピーカーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30～24.00m、1.0～80.0ft

SURR B*
サラウンドバックスピーカーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30～24.00m、1.0～80.0ft

*サラウンドバックスピーカーの本数により表示が変わります。

SB L*
サラウンドバックLスピーカーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲： 0.30～24.00m、1.0～80.0ft

*サラウンドバックスピーカーの本数により表示が変わります。

SB R*
サラウンドバックRスピーカーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30～24.00m、1.0～80.0ft

*サラウンドバックスピーカーの本数により表示が変わります。

SWFR
サブウーファーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30～24.00m、1.0～80.0ft

PRES L
プレゼンスLスピーカーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.30～24.00m、1.0～80.0ft

PRES R
プレゼンスRスピーカーから､リスニングポジションまでの距離を設定します。

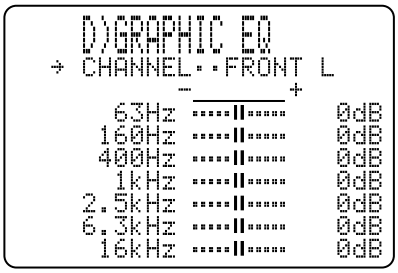
可変範囲：0.30～24.00m、1.0～80.0ft

GRAPHIC EQ

グラフィックイコライザーを使用して、それぞれのスピーカーの音色を合わせます。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/＜/＞）キーで、MANUAL SETUP → SOUND MENU → GRAPHIC EQを選び、GRAPHIC EQ画面で、設定を変更します。



CHANNEL

音色を調整するスピーカーを選びます。

選択項目：FRONT L（フロントL）、FRONT R（フロントR）、CENTER（センター）、SURR L（サラウンドL）、SURR R（サラウンドR）、SURR B（サラウンドバック）*、SB L（サラウンドバックL）*、SB R（サラウンドバックR）*、PRES L（プレゼンスL）、PRES R（プレゼンスR）

*サラウンドバックスピーカーの本数により、表示が変わります。

グラフィックイコライザーでは、63Hz、160Hz、400Hz、1kHz、2.5kHz、6.3kHz、16kHzの周波数帯を、それぞれ調整できるようになっています。

∆/∇キーで、調整する周波数帯を選びます。

−/+キーで、選んだ周波数帯のゲインを調整します。ゲインの可変範囲は、−6dB〜+6dBです。

ヒント

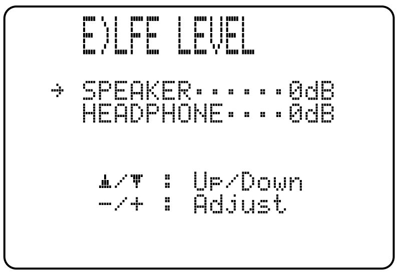
- AUTO SETUPですでに音色を調整している場合は、AUTO SETUPでの調整と、GRAPHIC EQでの調整のどちらを有効にするか選ぶことができます（「EQ SELECT」の表示が出ます）。
  −PEQを選ぶと、AUTO SETUPでの調整を有効にします。
  −GEQを選ぶと、GRAPHIC EQでの調整を有効にします。

LFE LEVEL

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号に含まれる、LFE(低域効果音)の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/＜/＞）キーで、MANUAL SETUP → SOUND MENU → LFE LEVELを選び、LFE LEVEL画面で、設定を変更します。



SPEAKER

スピーカーで音を聴く場合の、LFEの音量を調節します。

可変範囲：−20dB〜0dB

HEADPHONE

ヘッドホンで音を聴く場合の、LFEの音量を調節します。

可変範囲：−20dB〜0dB

LFE(低域効果音)とは？

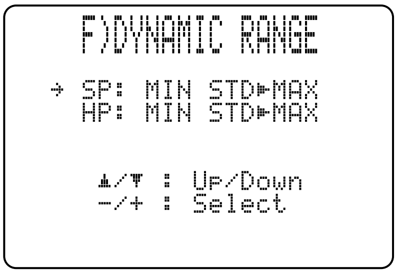
映画の爆発シーンなど、意図されたシーンでのみ出力される、重低音による効果音です。

DYNAMIC RANGE

ドルビーデジタル/DTS再生時のダイナミックレンジを、3段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SETUP → SOUND MENU → DYNAMIC RANGEを選び、DYNAMIC RANGE画面で、設定を変更します。



SP

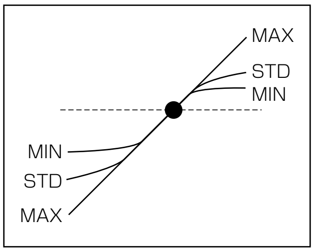
スピーカーで音を聴く場合の、ダイナミックレンジを選びます。

選択項目：MAX（最大）、STD（標準）、MIN（最小）

HP

ヘッドフォンで音を聴く場合の、ダイナミックレンジを選びます。

選択項目：MAX（最大）、STD（標準）、MIN（最小）



MAX： 入力された信号を最大に再生するダイナミックレンジです。
STD： 一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
MIN： 小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

ダイナミックレンジとは？

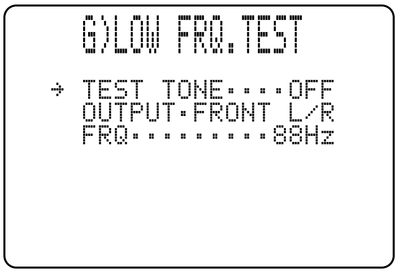
どれだけ小さな音から、どれだけ大きな音までを雑音や歪みなく再生できるかを数値で表わしたものです。

LOW FRQ.TEST

サブウーファーの動作や、サブウーファーと各スピーカーからの音のつながりを、周波数の低いテストトーンで確認します。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SETUP → SOUND MENU → LOW FRQ.TESTを選び、LOW FRQ.TEST画面で、設定を変更します。



1 </>キーを押して、「TEST TONE」をONに設定する

テストトーンが出力されます。

2 VOL +/－キーを押して、音量を調節する

3 ∨キーを押して、「OUTPUT」を選ぶ

4 </>キーを押して、音のつながりを確認したいスピーカーを選ぶ

選択項目：FRONT L/R、FRONT L、CENTER、FRONT R、SUR.R、SUR.B*、SB R*、SB.L*、SUR.L、SWFR、PRESENCE

*サラウンドバックスピーカーの本数により、表示が変わります。

5 ∨キーを押して、「FRQ」を選ぶ

6 </>キーを押して、確認に使う周波数を選ぶ

選択項目：35～250Hz、WIDE

7 サブウーファーの音量を、サブウーファー側で調節する

手順4で選んだスピーカーとの音と比較して、自然な音量に調節します。

ヒント

- サブウーファーの音量調節だけでなく、リスニングルームの低域特性を確認することにも応用できます。特に超低域では、リスニングポジションやスピーカーの設置場所、サブウーファーの位相により、状態が大きく変わりますので、いろいろお試しください。

ご注意

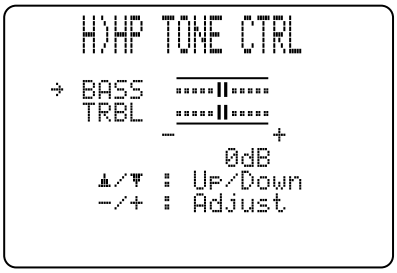
- ヘッドホンを接続していると、調節できません。ヘッドホンをPHONES端子から外してください。
- 音量を上げすぎないように、ご注意ください。
- テストトーンは全帯域ノイズからバンドパスフィルターで切り出してつくられていますので、単一周波数の音とは性質が異なります。特に50Hz以下ではレベルの変動が目立ちますが、故障ではありません。

HP TONE CTRL

ヘッドホンから出力される音声の、低音域と高音域を調節します。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SETUP → SOUND MENU → HP TONE CTRLを選び、HP TONE CTRL画面で、設定を変更します。



BASS
低音域の音量を調節します。

可変範囲：−6dB〜+6dB

TRBL
高音域の音量を調節します。

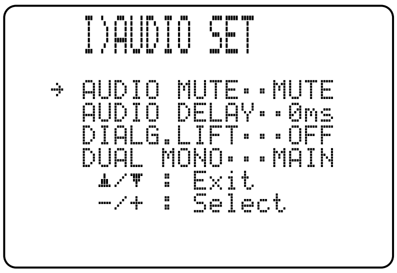
可変範囲：−6dB〜+6dB

AUDIO SET

音声と映像のズレを補正したり、AACモノラル音声の出力を設定します。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SETUP → SOUND MENU → AUDIO SETを選び、AUDIO SET画面で、設定を変更します。



AUDIO MUTE
ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。

選択項目：MUTE、−20dB

MUTE：　完全に消音し、無音にします。
−20dB：いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

AUDIO DELAY
デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのズレを、音声を遅らせて出力することにより補正します。
音を遅らせる時間を設定します。

可変範囲：0〜240ms

DIALG.LIFT
会話など、中央に定位する音をプレゼンスL/Rスピーカーに振り分けて持ち上げ、より中央に定位させることができます（セットメニュー「SOUND−SPEAKER SET」の「PRESENCE SP」をYESに設定したときのみ表示されます）。

選択項目：ON、OFF

DUAL MONO
BSデジタル放送などで使われている、モノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。

選択項目：MAIN、SUB、ALL

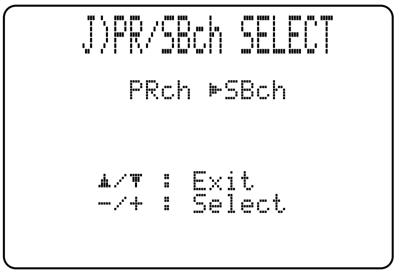
MAIN：主音声のみを、フロントL/Rスピーカーから出力します。
SUB　：副音声のみを、フロントL/Rスピーカーから出力します。
ALL　：主音声と副音声を、フロントL/Rスピーカーから出力します。

PR/SBch SELECT

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなどサラウンドバック成分があるソースを、シネマDSP音場プログラムで再生するときに、優先的に音を出すスピーカーを選びます。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SETUP → SOUND MENU → PR/SBch SELECTを選び、PR/SBch SELECT画面で、設定を変更します。



選択項目：PRch、SBch

PRch： サラウンドバック成分があるソースを再生中でも、プレゼンス成分がプレゼンスL/Rスピーカーから出力されます。
このとき、サラウンドバック成分はサラウンドL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

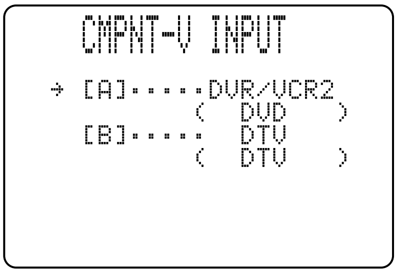
SBch： サラウンドバック成分があるソースを再生中は、サラウンドバックスピーカーから音を出します。
このとき、プレゼンス成分はフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

I/O ASSIGNMENT

使用する機器と、本機のコンポーネントビデオ/D4ビデオ入力端子やデジタル入出力端子の機器名が異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てることができます。割り当てを変更すると、変更後の機器を入力選択キーで選択できます。
ここでは、DVDレコーダーを接続し、各端子の割り当てを「DVR/VCR2」に設定する場合を例に説明します。設定後は入力選択キーの「DVR/VCR2」を押すと、DVDレコーダーを選択できます。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SETUP → INPUT MENU →I/O ASSIGNMENTを選び、I/O ASSIGNMENT画面で、設定を変更します。

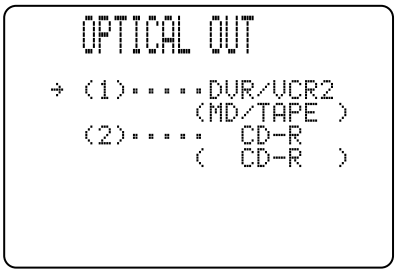


CMPNT-V INPUT [A] [B]

コンポーネントビデオ/D4ビデオ入力端子の割り当てを変更します。

選択項目：DVD、CD-R、DVR/VCR2、VCR1、V-AUX、CBL/SAT、DTV

例：コンポーネントビデオ入力（DVD）端子にDVDレコーダーを接続した場合、[A] の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

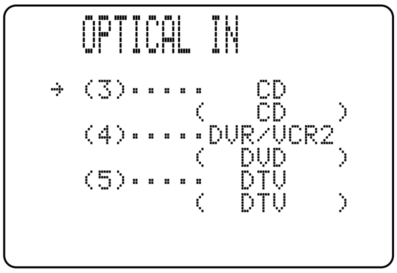


OPTICAL OUT (1) (2)

光デジタル出力端子の割り当てを変更します。

選択項目：MD/TAPE、CD-R、CD、PHONO、DVR/VCR2、VCR1、V-AUX、CBL/SAT、DTV、DVD

例：光デジタル出力（MD/TAPE）端子にDVDレコーダーを接続した場合、(1)の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

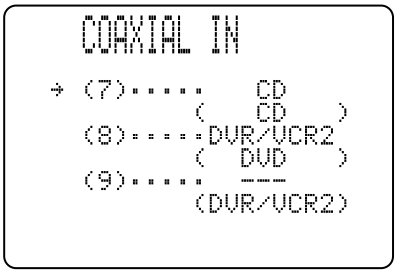


OPTICAL IN(3) (4) (5) (6)

光デジタル入力端子の割り当てを変更します。

選択項目：CD、PHONO、DVR/VCR2、VCR1、CBL/SAT、DTV、DVD、MD/TAPE、CD-R

例：光デジタル入力（DVD）端子にDVDレコーダーを接続した場合、(4)の設定を「DVR/VCR2」に変更します。



COAXIAL IN(7) (8) (9)

同軸デジタル入力端子の割り当てを変更します。

選択項目：CD、PHONO、DVR/VCR2、VCR1、V-AUX、CBL/SAT、DTV、DVD、MD/TAPE、CD-R

例：同軸デジタル入力（DVD）端子にDVDレコーダーを接続した場合、(8)の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

INPUT MODE

電源を入れたときに適用する入力モードを設定します。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SETUP → INPUT MENU → INPUT MODEを選び、INPUT MODE画面で、設定を変更します。

```
B)INPUT MODE
 ▶AUTO   LAST

 ▲/▼ : Exit
 −/+ : Select
```

選択項目：AUTO、LAST

AUTO： 自動的に入力モードをAUTOに設定します。
LAST： 前回使っていた入力モードを適用します。

INPUT RENAME

各入力名を変更することができます。変更後は、その名前で入力が表示されます。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SETUP → INPUT MENU → INPUT RENAMEを選び、INPUT RENAME画面で、設定を変更します。

```
C)INPUT RENAME
 DVD ->_DVD____

 −/+ : Position
 ▲/▼ : Character
```

1 入力選択キーを押して、名前を変更する入力を選ぶ

2 </>キーを押して、変更する文字またはスペースに、_(アンダーバー)を合わせる

3 ∧/∨キーを押して入力する文字を選ぶ

入力できる文字は以下のとおりです。

- アルファベット大文字: A~Z
- アルファベット小文字: a~z
- 数字: 0~9
- スペース(空白)
- 記号: ＃＊＋，－．／：＜＞？

最大8文字まで入力できます。

4 </>キーを押して、アンダーバーを移動する

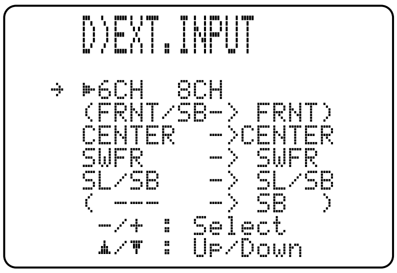
5 入力が終わったら、8文字目にカーソルを移動し、>キーを押す

EXT. INPUT

MULTI CH INPUT端子に接続されたソースの入力信号の振り分け先を設定します。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SETUP → INPUT MENU →EXT. INPUTを選び、EXT. INPUT画面で、設定を変更します。



6CH/8CH

入力する信号のチャンネル数を設定します。

選択項目：6ch、8ch

6CH：6チャンネル信号を入力するときの設定です。
8CH：8チャンネル信号を入力するときの設定です。アナログ音声入力端子を、フロントチャンネル用の端子として使います。

8CHに設定した場合、フロントチャンネル用の端子として使う、アナログ音声入力端子を選ぶことができます。
リモコンの∨キーを押してから、</>キーで端子を選びます。

ヒント

- 8CHに設定したときに、バックグラウンドビデオ機能（18ページ）で映像を選びたいときは、選びたい映像が入力されている映像入力端子と同じ名前のアナログ音声入力端子を、フロントチャンネル用に設定してください。

CENTER

CENTER端子に入力された信号の振り分け先を設定します。

選択項目：CENTER、FRONT

CENTER：入力された信号は、センタースピーカーから出力されます。
FRONT：入力された信号は、フロントL/Rスピーカーから出力されます。

SWFR

SUBWOOFER端子に入力された信号の振り分け先を設定します。

選択項目：SWFR、FRONT

SWFR：入力された信号は、サブウーファーから出力されます。
FRONT：入力された信号は、フロントL/Rスピーカーから出力されます。

SL/SR

SURROUND端子に入力された信号の振り分け先を設定します。

選択項目：SL/SR、FRONT

SL/SR：入力された信号は、サラウンドL/Rスピーカーから出力されます。
FRONT：入力された信号は、フロントL/Rスピーカーから出力されます。

DISPLAY SET

本体ディスプレイの明るさや、オンスクリーン画面の背景や表示位置などを調節します。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/＜/＞）キーで、MANUAL SETUP → OPTION MENU → DISPLAY SETを選び、DISPLAY SET画面で、設定を変更します。

```
   A)DISPLAY SET

 → DIMMER·········0
   OSD SHIFT······0
   GRAY BACK···AUTO
   V CONV.········ON
   CMPNT OSD····OFF
    ▲/▼ : Up/Down
    -/+ : Select
```

DIMMER

前面のディスプレイ表示の明るさを調節します。
数値が小さいほど、表示が暗くなり、数値が大きいほど、表示が明るくなります。

可変範囲：−4〜0

OSD SHIFT

オンスクリーン画面を表示する上下位置を調節します。

可変範囲：−5〜+5

GRAY BACK

ビデオ信号が入力されていない場合のオンスクリーン表示の設定をします。

選択項目：AUTO、OFF

AUTO： ビデオ信号が入力されていない場合に、グレーの背景を表示して、オンスクリーン表示を出します。
OFF： ビデオ信号が入力されていない場合に、オンスクリーン表示を出しません。

V CONV.

コンポジットビデオ信号をSビデオ信号に変換するかしないか、およびSビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換するかしないかを設定します。

選択項目：ON、OFF

ON： コンポジットビデオ信号をSビデオ信号に、Sビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換します。
OFF： 変換しません。

ご注意

- ビデオデッキから入力したビデオ信号またはSビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換する場合、ビデオデッキの性能によっては画像が乱れる場合があります。
- OFFに設定した場合でも、セットメニューを表示させるときは、各信号が上位変換されて出力されます。

CMPNT OSD

コンポーネントビデオまたはD4ビデオ端子（MONITOR OUT）からセットメニューやテストトーン、パラメーターのオンスクリーン信号を出すか、出さないかを設定します。

選択項目：ON、OFF

ON： コンポーネントビデオまたはD4ビデオ端子（MONITOR OUT）からオンスクリーン信号を出します。
OFF： コンポーネントビデオまたはD4ビデオ端子（MONITOR OUT）からオンスクリーン信号を出しません。

MEMORY GUARD

変更した設定値を保護します。

設定のしかた

カーソル(∧/∨/</>)キーで、MANUAL SETUP → OPTION MENU → MEMORY GUARDを選び、MEMORY GUARD画面で、設定を変更します。

```
B)MEMORY GUARD

  ▶OFF   ON


 ▲/▼ : Exit
 -/+ : Select
```

選択項目:ON、OFF

ONに設定すると、以下の設定が保護されます。

- 音場プログラムパラメーターの設定
- 「OPTION-MEMORY GUARD」以外のセットメニューの設定
- 各スピーカーの音量設定
- オンスクリーン表示の設定

PARAM. INI

変更した音場プログラムパラメーターを、初期設定に戻します。

設定のしかた

カーソル(∧/∨/</>)キーで、MANUAL SETUP → OPTION MENU → PARAM. INIを選び、PARAM. INI画面で、設定を変更します。

```
C)PARAM. INI

  1   2   3   4
  5   6   7   8
  9   0  +10
```

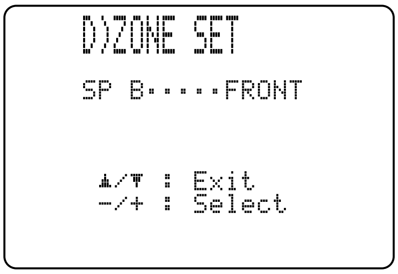
リモコンの数字/音場プログラムキーで、パラメーターを初期設定に戻したい音場プログラムを選んでください。

ZONE SET

リアパネルのFRONT SPEAKER B端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。

設定のしかた

カーソル（∧/∨/</>）キーで、MANUAL SET → OPTION MENU → ZONE SET を選び、ZONE SET画面で、設定を変更します。



SP B

リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカー（スピーカーB）を、別の部屋で使うか、使わないかを設定します。

選択項目：FRONT、ZONE B

FRONT： メインリスニングルームで使うときの設定です。スピーカーAとスピーカーBの出力のオン/オフは、SPEAKERS A/Bスイッチで切り替えます。

ZONE B： 別の部屋で使うときの設定です。スピーカーAの出力をオフ、スピーカーBの出力をオンにすると、メインルームに設置しているすべてのスピーカーから、音が出なくなります。

音場とは？



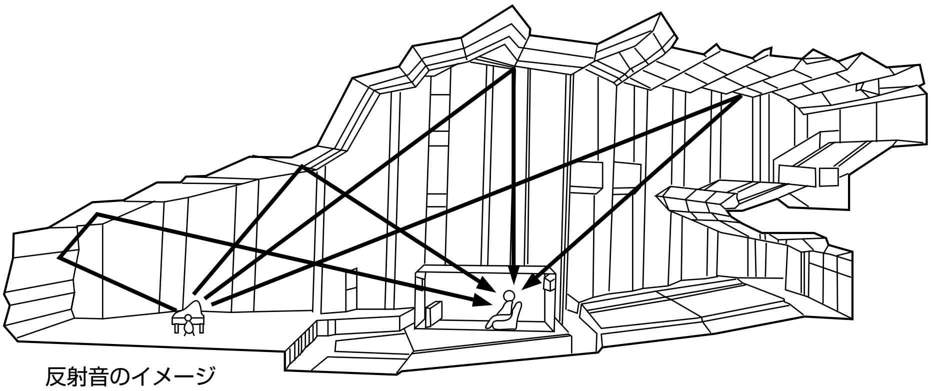
「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」の他に、床や壁・天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをROMに蓄積しています。
本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームに再現することができます。

初期反射音

1つの表面（壁や天井など）に反射してから、極めて急速（直接音が発生してから50msから80ms後）にリスナーの耳に到達する反射音です。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音

2つ以上の表面（壁や天井、部屋の後部など）に何回も反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させせます。



反射音のイメージ

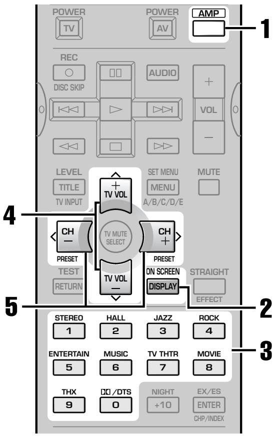
ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが、故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

パラメーターを変更する

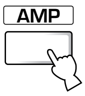
各音場プログラムのパラメーターは、初期設定のままで十分お楽しみいただけます。基本的に設定を変更する必要はありませんが、音場プログラムの一部のパラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて、音場プログラムをアレンジできます。

ご注意
- 操作を始める前に、本機および本機に接続したテレビの電源が入っていることを確認してください。
- セットメニュー「OPTION-MEMORY GUARD」をONに設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前に、OFFに設定してください。

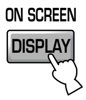


1 AMPキーを押して、AMPを選ぶ

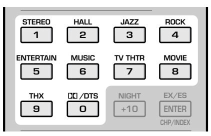
リモコンディスプレイに「AMP」が表示されていることを確認してください。

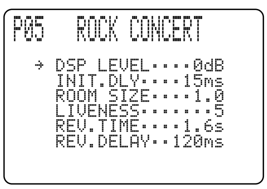


2 ON SCREENキーを押して、オンスクリーンを全表示させる

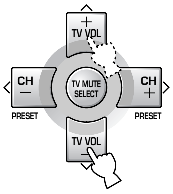


3 音場プログラムキーを押して、音場プログラムを選ぶ



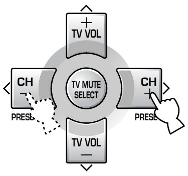


4 ∧/∨キーを押して、変更したいパラメーターを選ぶ



5 </>キーを押して、設定値を変更する

初期設定以外に変更すると、パラメーター名の前に、アスタリスク(*)が表示されます



6 他の音場プログラムのパラメーターを変更する場合は、手順4～6を繰り返す

本機について
いろいろな再生のしかた
セットメニューで設定を変更する
オリジナルのリスニング環境をつくる
リモコンを使いこなす
便利な機能
その他の情報

パラメーターを初期設定に戻す

一部を初期設定に戻す

初期設定に戻したいパラメーターを選び、初期設定値でいったん表示が止まるまで－/＋キーを押し続けます。

すべてを初期設定に戻す

セットメニュー「OPTION－PARAM.INI」で、音場プログラムごとに、すべてのパラメーターを初期設定に戻せます(38ページ)。

パラメーター一覧

項目	内容	参照ページ
DSP LEVEL(ディーエスピー・レベル)	エフェクトレベル(効果音)の微調節を行います。	69
INIT.DLY(イニシャル・ディレイ)	音源と壁面との距離感を調節します。	69
ROOM SIZE(ルーム・サイズ)	拡がり感を調節します。	69
LIVENESS(ライブネス)	響き具合を調節します。	70
P.INIT.DLY(プレゼンス・イニシャル・ディレイ)	プレゼンス音場の遅延時間を調節します。	70
P.ROOM SIZE(プレゼンス・ルーム・サイズ)	プレゼンス音場の拡がり感を調節します。	70
S.INIT.DLY(サラウンド・イニシャル・ディレイ)	サラウンド音場の遅延時間を調節します。	70
S.ROOM SIZE(サラウンド・ルーム・サイズ)	サラウンド音場の拡がり感を調節します。	70
S.LIVENESS(サラウンド・ライブネス)	サラウンド音場の響き具合を調節します。	71
SB INI.DLY (サラウンド・バック・イニシャル・ディレイ)	サラウンドバック音場の遅延時間を調節(EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効)します。	71
SB ROOM SIZE (サラウンド・バック・ルーム・サイズ)	サラウンドバック音場の拡がり感を調節(ドルビーデジタルEX方式およびDTS-ES方式入力時のみ有効)します。	71
SB LIVENESS (サラウンド・バック・センター・ライブネス)	サラウンドバック音場の響き具合を調節(EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効)します。	71
REV.TIME(リバーブレーション・タイム)	余韻の長さを調節します。	71
REV.DELAY(リバーブレーション・ディレイ)	残響音の遅延時間を調節します。	72
REV.LEVEL(リバーブレーション・レベル)	余韻の強さを調節します。	72
CT LEVEL(センター・レベル)	7ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルを調節します。	72
SL LEVEL(サラウンド・レフト・レベル)	7ch Stereo音場でのサラウンドLチャンネルの出力レベルを調節します。	72
SR LEVEL(サラウンド・ライト・レベル)	7ch Stereo音場でのサラウンドRチャンネルの出力レベルを調節します。	72
SB LEVEL(サラウンドバック・レベル)	7ch Stereo音場でのサラウンドバックチャンネルの出力レベルを調節します。	72
PR LEVEL(プレゼンス・レベル)	7ch Stereo音場でのプレゼンスチャンネルの出力レベルを調節します。	73
PANORAMA(パノラマ)	ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのフロント音場の拡がり感を調節(ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)します。	73
DIMENSION(ディメンション)	ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのサラウンド音場のフロント側とリア側のレベル差を調節(ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)します。	73
CENTER WIDTH (センター・ウィドゥス)	ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのセンター音声左右への拡がり感を調節(ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)します。	73
C.IMAGE(センター・イメージ)	DTS Neo:6のフロント音場の拡がり感を調節(DTS Neo:6デコーダーのMusicモード再生時のみ有効)します。	73
DIALG.LIFT(ダイアログ・リフト)	会話など、中央に定位する音の位置を調節(Hi-Fi DSPおよび、CINEMA DSP音場プログラムで再生時のみ有効)します。	73
DEC(デコーダー・セレクト)	2チャンネルソースをTHX Cinemaで再生するときに、2チャンネルソースをデコードするデコーダーを選びます。	73
PLII/PLIIx(PLII/PLIIxの切り替え)	2チャンネルソースをDOLBY DIGITAL/DTS/AACプログラムで再生する場合に、2チャンネルソースをデコードするデコーダーを切り替えます。	73

リモコン操作範囲

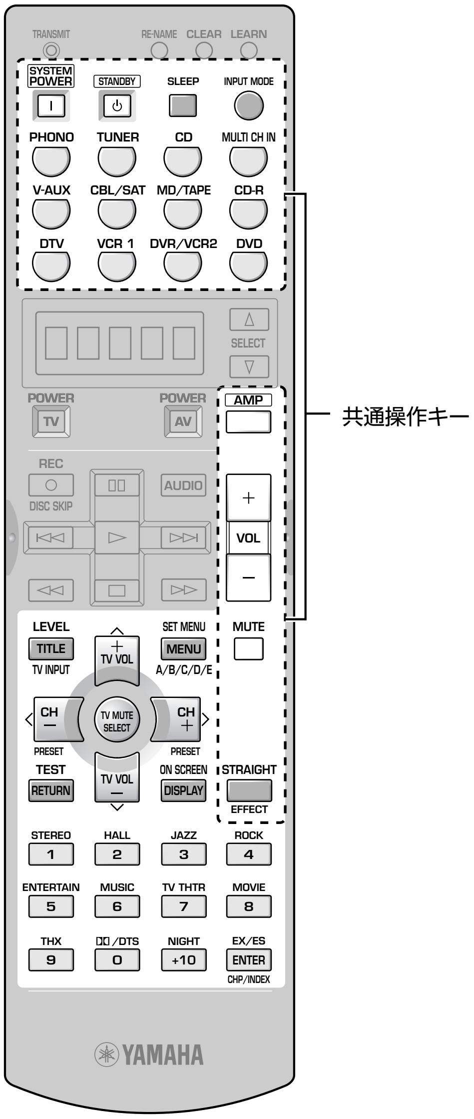
他の機器のリモコン信号を学習したり、メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンでDVDプレーヤーやCDプレーヤー、テレビなど本機以外のAV機器を操作することができます。

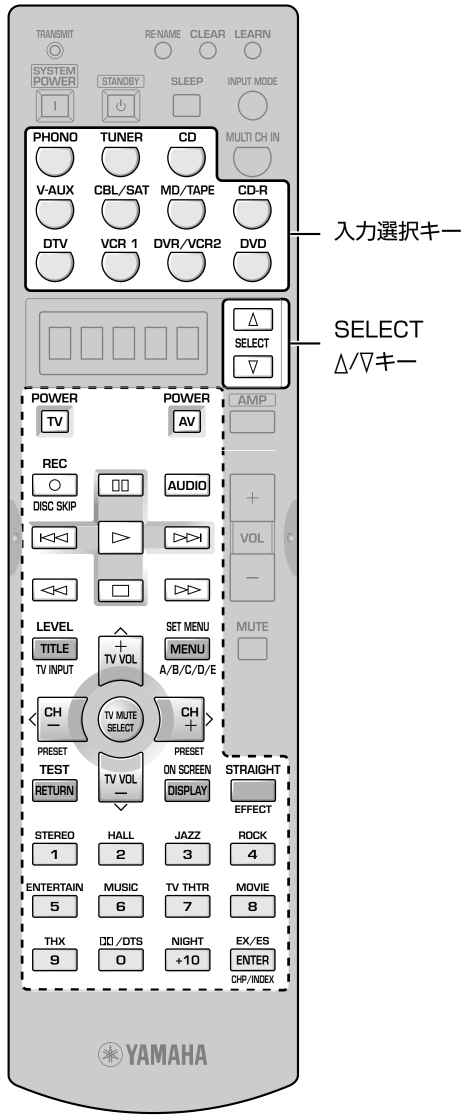
本機を操作する

本機の操作に使用するキーは下図の白色で示した部分です。点線部分内のキーはどのモードでも機能します。その他の白色部分のキーを使用するにはAMPキーを押して、AMPを選びます。リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。

他の機器を操作する

他の機器の操作に使うキーは、下図の点線で囲んだ部分です。入力選択キーまたはSELECT ∆/∇キーで選んだ機器によって、各キーの機能が変わります。リモコンディスプレイには、選んだ機器の名前が表示されます。





本機について
いろいろな再生のしかた
セットメニューで設定を変更する
オリジナルのリスニング環境をつくる
リモコンを使いこなす
便利な機能
その他の情報

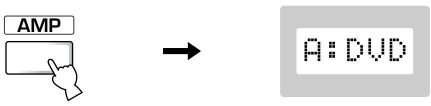
操作する機器を切り替える

SELECT∆/∇キーを押すと、入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えることができます。操作できる機器は、リモコンディスプレイに表示されます。



アンプ固定モード

AMPキーを3秒以上押し続けると、リモコンはアンプ固定モードになります。
アンプ固定モードでは、入力選択キーを押しても、リモコン機能はアンプ操作用のまま、本体の入力だけを切り替えることができます。
リモコンディスプレイには、以下のように表示されます。



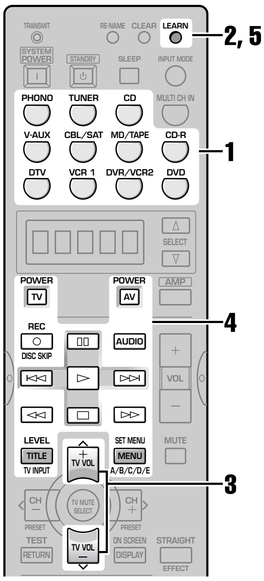
(アンプ固定モードでDVDを選んだとき)

この状態では、AMPキーを押すごとにアンプ固定モード←→機器操作モードを切り替えます。
アンプ固定モードを解除するには、AMPキーを3秒以上押し続けてください。

リモコンで操作できる機器を指定する

メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作することができます。メーカーコードは各機器操作キーに設定することができます。TUNER、CD、MD/TAPE、CD-R、DVDの機器操作キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのメーカーコードが設定されています。詳しくは本書末に記載の「メーカーコード一覧」(82ページ)を参照してください。

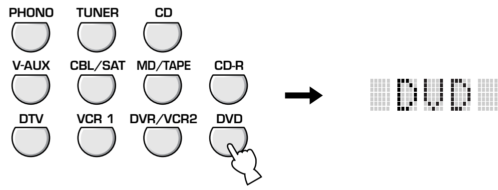
入力選択キー	ライブラリー	メーカーコード
PHONO	TV	–
TUNER	TUN	Yamaha-1
CD	CD	Yamaha-1
V-AUX	VCR	–
CBL/SAT	CAB	–
MD/TAPE	MD	Yamaha-1
CD-R	CDR	Yamaha
DTV	TV	–
VCR1	VCR	–
DVR/VCR2	VCR	–
DVD	DVD	Yamaha-1



ご注意

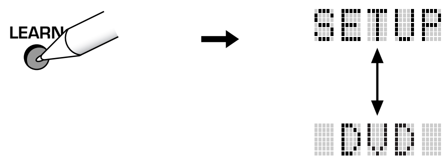
- お使いのヤマハ機器によっては、初期設定されているヤマハのメーカーコードでは、操作できない場合があります。この場合は、ヤマハの別のメーカーコードをお試しください。

1 設定を変更したい入力選択キーを押す



2 LEARNボタンを3秒以上押し続ける

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「SETUP」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

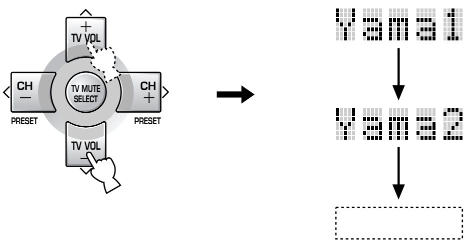


ご注意

- LEARNボタンは3秒以上押しつづけてください。短く押して離すと、ラーニングモードに切り替わります。

3 ∧/∨キーを押して、メーカーコードを選ぶ

5文字以上のメーカーコードはスクロールして表示されます。



4 動作確認をする

POWERやPLAYなどの各キーで、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。正しく動作しないときは、手順3で同じメーカーの別のメーカーコードを選んでみてください。

ヒント

- メーカーコードを続けて別の入力選択キーにも設定したい場合は、TV MUTE/SELECTキーを押してから、手順1、3、4を繰り返してください。

5 LEARNボタンを押して、メーカーコードの設定を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 手順2以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとメーカーコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。
- 付属のリモコンは、市販されているすべてのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のメーカーコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できない場合があります。いずれのメーカーコードでも操作ができない場合は、ラーニング機能(47ページ)を利用するか、お使いの機器に付属のリモコンをお使いください。
- 1つの入力選択キーに対して、1つのメーカーコードしか設定できません。
- すでにラーニングを設定している場合、ラーニングによる機能が、メーカーコードの機能より優先されます。
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

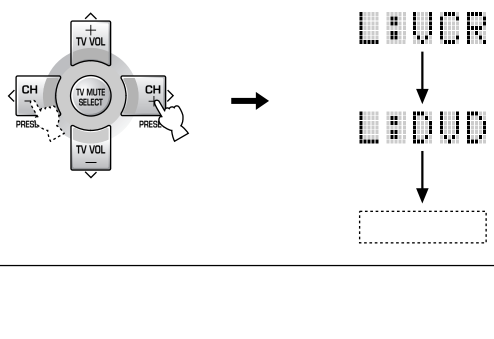
機器の種類(ライブラリー)を変更する

あらかじめ各入力選択キーに設定されている対応する機器の種類(ライブラリー)を変更することができます。例えば、V-AUXキーにはあらかじめ「VCR」が設定されていますが、「V-AUXでTVを操作したい」という場合には、ライブラリーを「TV」に変更できます。

1 「リモコンで操作できる機器を指定する」の手順1と2の操作をする

2 </>キーを押して、使いたい機器の種類(ライブラリー)を選ぶ

本機のリモコンには、ＡＭＰ、ＴＶ、ＣＡＢ(CABLE)、DBS、SAT、VCR、DVD、LD、CD、CDR(CD-R)、MD、TAP(TAPE)、TUN(TUNER)の13種類のライブラリーが用意されています。



3 「リモコンで操作できる機器を指定する」の手順3から操作する

ご注意

- 国内BSデジタルチューナー用のメーカーコードは、L：DBSのPanasonic、Sony、Toshiba－2の3種類です。

アンプライブラリー(L:AMP)

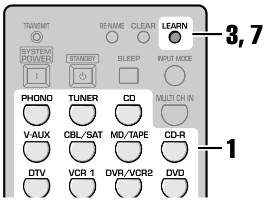
ヤマハ以外のアンプを本機のリモコンで操作する場合など、必要に応じてアンプのライブラリーを変更することができます。
なお、本機のリモコンには、あらかじめ本機の操作用コードが設定されています。

アンプのライブラリーは以下の2種類です。

YPC：　本機のコード
ZONE：　ヤマハDSPアンプのゾーン2機能を操作するコード。本機では使用しません。

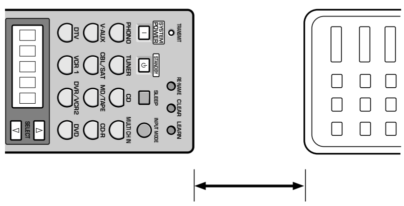
新しいリモコン機能を学習する(ラーニング)

メーカーコードに対応していない機器を使用する場合や、メーカーコードが用意されていない場合は、リモコンに機能を学習(ラーニング)させることができます。入力選択した機器ごとに別の機能をラーニングさせることができます。



1 操作したい機器の入力選択キーを押す

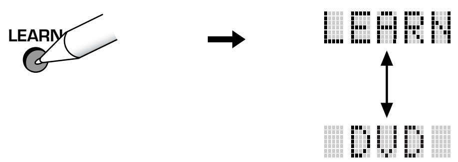
2 本機のリモコンと、外部機器のリモコンを約5～10cm離し、赤外線送受信部が互いに対向するように置く



5～10cmの間隔をあける

3 LEARNボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。



ご注意

- LEARNボタンを3秒以上押すと、メーカーコード設定モードに切り替わります。

4 新しい機能をラーニングさせたい、本機のリモコンのキーを押す

リモコンディスプレイに「LEARN」と表示されます。

5 リモコンディスプレイに「OK」と表示されるまで、外部機器のリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押し続ける

ご注意

- 「NG」と表示されたときは、ラーニングが正しく行われていません。手順5から操作をやりなおしてください。
- メモリー容量がいっぱいになっている場合は、リモコンディスプレイに「FULL」が表示され、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

6 別の機能をラーニングするには、続けて手順4～5を繰り返す

別の機器に機能をラーニングさせる場合は、手順3の状態でSELECT∆/∇キーを押して、機器を変更します。

7 LEARNボタンを押して、ラーニングを終了する

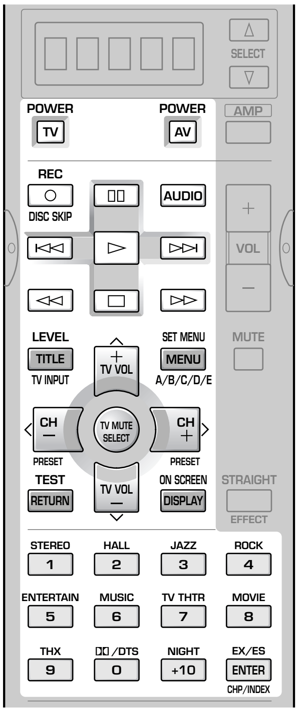
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 手順3以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとラーニングが自動的に中止されます。この場合は、手順4から操作しなおしてください。
- 以下の場合は、ラーニングできないことがあります。
  - －本機のリモコンまたは外部機器のリモコンの乾電池が消耗している場合
  - －2台のリモコンの間隔が近すぎる、または離れすぎている場合
  - －リモコンの受光部の角度が適切でない場合
  - －リモコンに直射日光が当たっている場合
  - －特殊な信号や連続した信号の場合
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

ラーニングに対応しているキー

下図の白色で示した部分のキーに、ラーニングすることができます。



ご注意

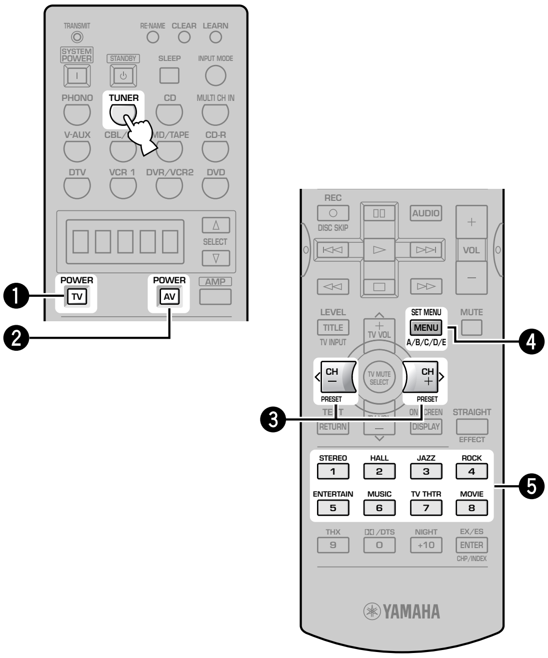
- 入力選択キー、VOLキー、+/−キー、MUTEキー、STRAIGHT/EFFECTキーにラーニングすることも可能ですが、本機の操作ができなくなります。

機器別の操作をする

操作する機器別に、基本操作に使用するキーを説明します。

- 本機のリモコンキーで、操作できない機器があります。このような場合には、ラーニングをするか、もしくはご使用の機器に付属のリモコンを使用してください。
- ご使用の機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります。
- 本機以外の機器を操作する場合には、あらかじめメーカーコードを設定しておく必要があります。TUNER、CD、MD/TAPE、CD-R、DVDには、工場出荷時にヤマハメーカーコードが設定されていますが、動作しない場合は他のメーカーコードに設定しなおしてください。

FM/AMチューナーを操作する



入力選択キーのTUNERキーを押すと、チューナーを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する

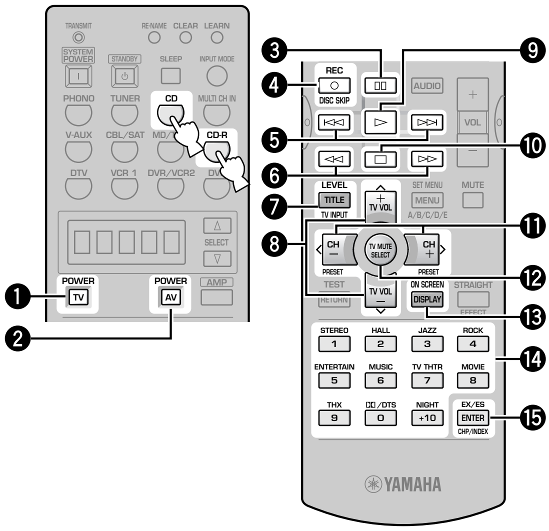
❷ 電源を入/切する

❸ プリセット局を切り替える

❹ プリセットグループ(A/B/C/D/E)や受信バンド(AM/FM)を切り替える

❺ プリセット番号を直接指定する

CDプレーヤー/CDレコーダーを操作する



入力選択キーのCDキーを押すとCDプレーヤーを、CD-Rキーを押すとCDレコーダーを操作できます。

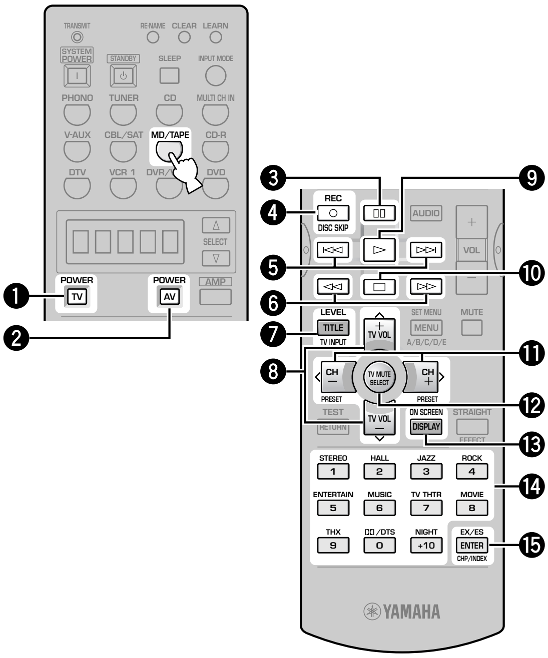
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ 再生を一時停止する
❹ (CDレコーダー)録音を開始する
❹ (CDチェンジャー)ディスクを選ぶ
❺ 次/前の曲の頭出しをする
❻ 早送り/早戻しをする
❼ (テレビ)入力を切り替える
❽ (テレビ)音量を調節する
❾ 再生を開始する
❿ 停止する
⓫ (テレビ)チャンネルを切り替える
⓬ (テレビ)消音する
⓭ ディスプレイ表示を切り替える
⓮ 数字を入力する
⓯ インデックスを表示する

ヒント

- ヤマハ製CDプレーヤーの場合、❚❚キーまたは□キーを一度押すと、一時停止になります。もう一度押すと、停止になります。

MDレコーダーを操作する

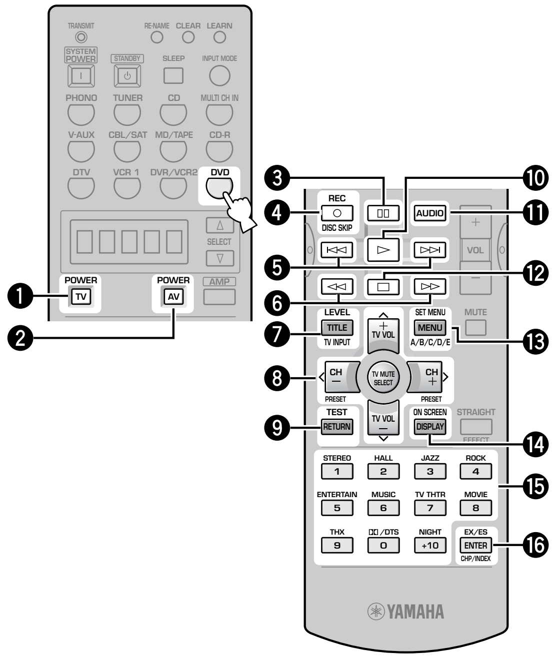


入力選択キーのMD/TAPEキーを押すと、MDレコーダーを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ 再生/録音を一時停止する
❹ 録音を開始する
❺ 次/前の曲の頭出しをする
❻ 早送り/早戻しをする
❼ (テレビ)入力を切り替える
❽ (テレビ)音量を調節する
❾ 再生を開始する
❿ 停止する
⓫ (テレビ)チャンネルを切り替える
⓬ (テレビ)消音する
⓭ ディスプレイ表示を切り替える
⓮ 数字を入力する
⓯ インデックスを表示する

DVDプレーヤーを操作する

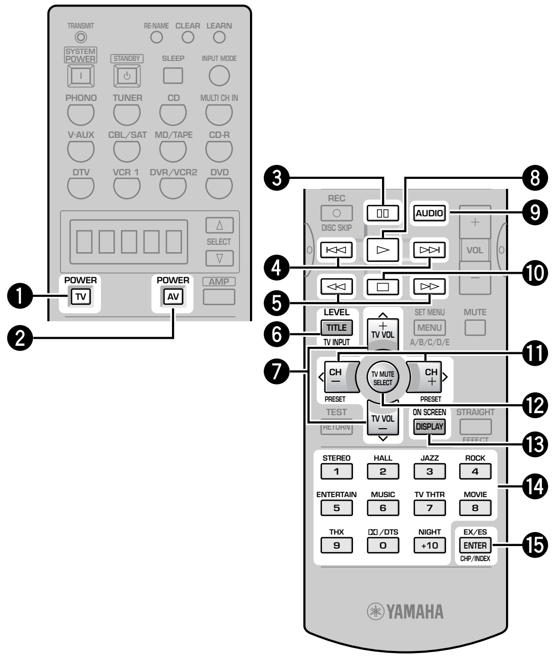


入力選択キーのDVDキーを押すと、DVDプレーヤーを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ 再生を一時停止する
❹ (DVDチェンジャー)ディスクを選ぶ
❺ 次/前のチャプターの頭出しをする
❻ 早送り/早戻しをする
❼ タイトルメニュー(トップメニュー)を表示する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ 前の画面に戻る
❿ 再生を開始する
⓫ オーディオメニューを表示する
⓬ 停止する
⓭ DVDメニューを表示する
⓮ ディスプレイ表示を切り替える
⓯ 数字を入力する
⓰ タイトル/インデックスを表示する

LDプレーヤーを操作する

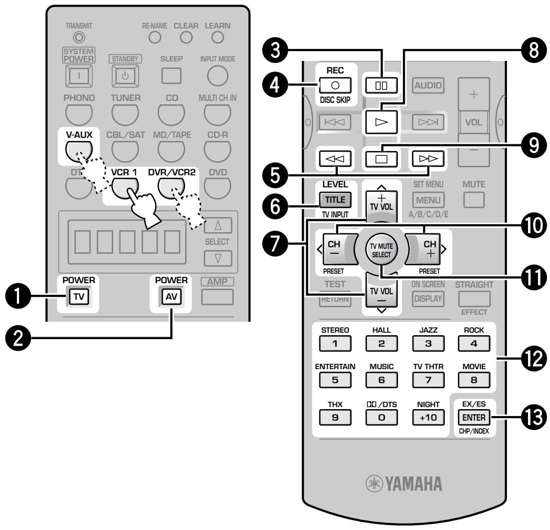


LDプレーヤーを接続した端子に対応するキーにライブラリー/メーカーコードを設定してから、そのキーを押すと、LDプレーヤーを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ 再生を一時停止する
❹ 次/前のチャプターの頭出しをする
❺ 早送り/早戻しをする
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ (テレビ)音量を調節する
❽ 再生を開始する
❾ サウンドメニューを表示する
❿ 停止する
⓫ (テレビ)チャンネルを切り替える
⓬ (テレビ)消音する
⓭ ディスプレイ表示を切り替える
⓮ 数字を入力する
⓯ チャプター/時間を表示する

ビデオデッキ/DVDレコーダーを操作する



メーカーコードを設定してから、入力選択キーのV-AUXキーまたはVCR1キー、DVR/VCR2キーを押すと、ビデオデッキを操作できます。

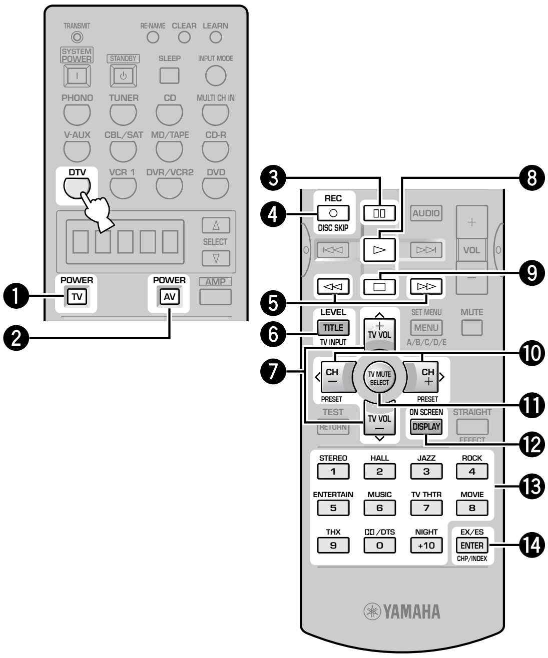
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ 再生/録画を一時停止する
❹ 録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
❺ 早送り/巻戻しをする
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ (テレビ)音量を調節する
❽ 再生を開始する
❾ 停止する
❿ チャンネルを切り替える
⓫ (テレビ)消音する
⓬ 数字を入力する
⓭ 決定する

ヒント

- VCR 1キーにビデオデッキのメーカーコードを設定している場合、テレビの操作モードで、VCR 1に切り替えることなくビデオデッキを操作できます。
- V-AUX、VCR 1、DVR/VCR2キーにそれぞれ異なるビデオデッキ/DVDレコーダーのメーカーコードを設定した場合、他の機器の操作モードでは、VCR 1キーに設定したメーカーコードが有効になります。

テレビを操作する



メーカーコードを設定してから、入力選択キーのDTVキーを押すと、テレビを操作できます。

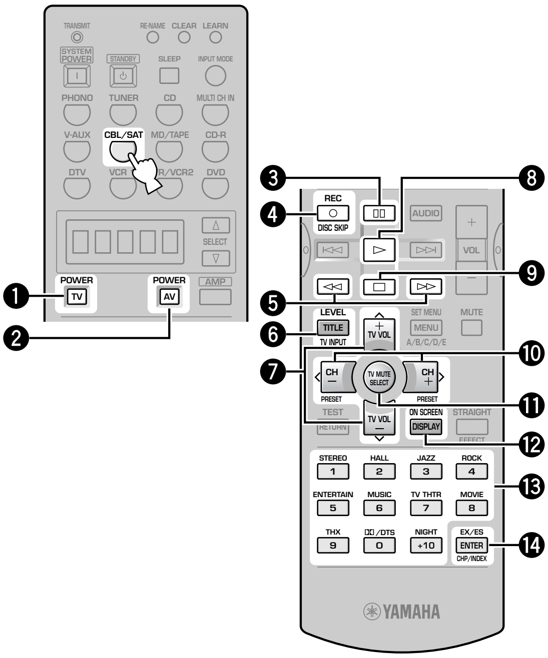
操作例

❶ 電源を入/切する
❷ (ビデオ)電源を入/切する
❸ (ビデオ)再生/録画を一時停止する
❹ (ビデオ)録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
❺ (ビデオ)早送り/巻戻しをする
❻ 入力を切り替える
❼ 音量を調節する
❽ (ビデオ)再生を開始する
❾ (ビデオ)再生/録画を停止する
❿ チャンネルを切り替える
⓫ 消音する
⓬ ディスプレイ表示を切り替える
⓭ チャンネルを直接指定する
⓮ チャンネルを決定する

ヒント

- DTVキーにテレビ以外の機器のメーカーコードを設定して操作する場合、PHONOキーにテレビのメーカーコードを設定することにより、他の機器の操作モードでもテレビを操作できます。
  DTVキーとPHONOキーの両方にメーカーコードを設定している場合、他の機器の操作モードでは、DTVキーに設定したメーカーコードが有効になります。

衛星放送チューナーを操作する



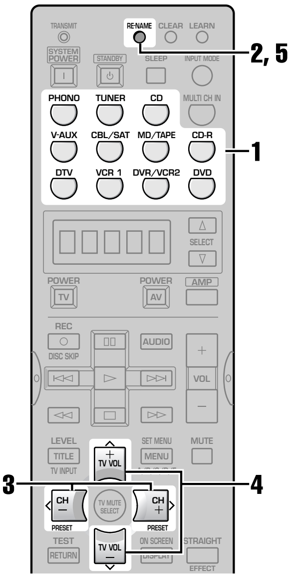
ライブラリー/メーカーコードを設定してから、入力選択キーのCBL/SATキーを押すと、衛星放送のチューナーを操作できます。

操作例

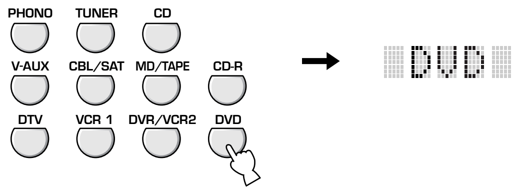
❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (ビデオ)再生/録画を一時停止する
❹ (ビデオ)録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
❺ (ビデオ)早送り/巻戻しをする
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ (テレビ)音量を調節する
❽ (ビデオ)再生を開始する
❾ (ビデオ)再生/録画を停止する
❿ チャンネルを切り替える
⓫ (テレビ)消音する
⓬ ディスプレイ表示を切り替える
⓭ チャンネルを直接指定する
⓮ リコールする/チャンネルを決定する

リモコンに表示される入力ソースの名前を変更する

入力選択キーを押してリモコンのディスプレイに表示される入力ソース名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムにあったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される入力ソース名を変更することができます。

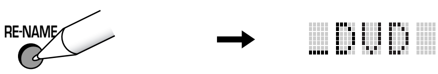


1 名前を変更したい機器の入力選択キーを押す

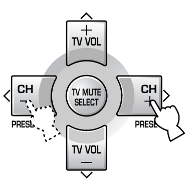


2 RE-NAMEボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。左端にカーソルが点滅します。



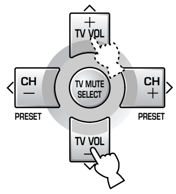
3 〈/〉キーを押して、文字を入力したい位置にカーソルを移動する



4 ∧/∨キーを押して、入力する文字を選ぶ

入力できる文字は以下のとおりです。

- アルファベット大文字：A～Z
- アルファベット小文字：a～z
- 数字：0～9
- スペース（空白）
- 記号：/、－



必要に応じて手順3と4を繰り返します。文字は最大5文字まで入力できます。
引き続き、他の機器の名前を変更する場合は、TV MUTE/SELECTキーを押してから、手順1、3～4を繰り返します

5 RE-NAMEボタンを押して、名前の変更を終了する

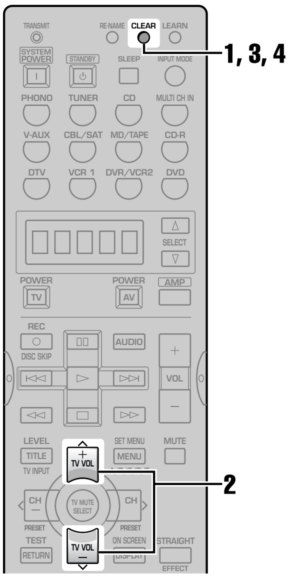
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

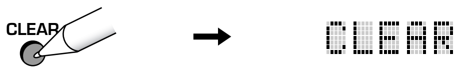
リモコンを初期化する

登録したライブラリー、メーカーコードやラーニングした操作を取り消して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

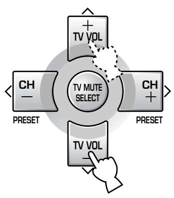


1 CLEARボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「CLEAR」と表示されます。



2 ⌃/⌄キーを押して、消去モードを選ぶ

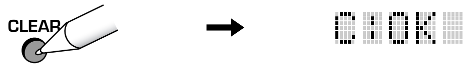


消去モードは以下の5種類です。

L：(機器名)：	表示されている入力機器の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。入力選択キー、またはSELECT∆/∇キーで消去する入力機器を選択してください。
L：AMP：	本機の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。
L：ALL：	入力機器に関わらず、ラーニングされた機能をすべて消去します。
RNAME：	変更した入力ソースの名前をすべて工場出荷時の設定に戻します。
FCTRY：	メーカーコードを含む、すべてのリモコンの設定を工場出荷時の設定に戻します。

3 CLEARボタンを3秒以上押し続ける

リモコンディスプレイに「C：OK」と表示され、手順2で選択した機能や設定が消去されます。



ご注意

- 「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。手順2から操作しなおしてください。

4 CLEARボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

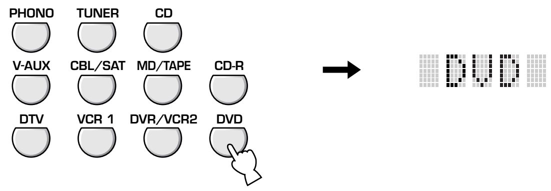
ご注意

- 手順1以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順1から操作しなおしてください。
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

ラーニングされた機能を消去する

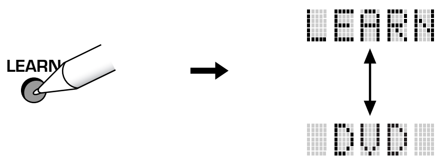
ラーニングされた機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

1 ***取り消したい機器の入力選択キーを押す***



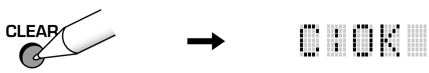
2 ***LEARNボタンを押す***

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。



3 ***CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す***

リモコンディスプレイに「C：OK」と表示されます。



引き続き消去したいキーがある場合は、「C：OK」の表示が消えてから、手順3の操作を繰り返してください。

ご注意

- 「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

4 ***LEARNボタンを押して、消去を終了する***

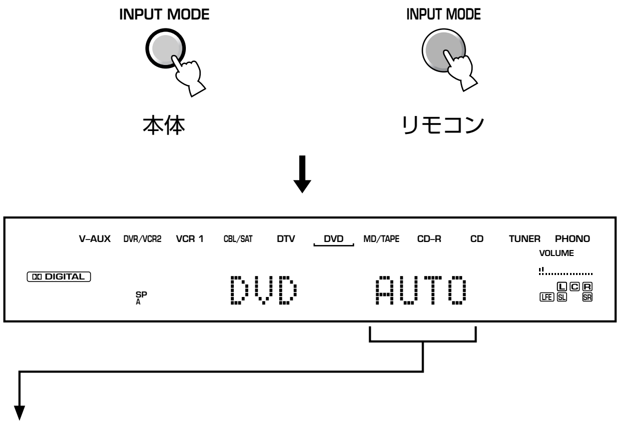
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 手順2以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

デジタル信号/アナログ信号を切り替える(入力モード切り替え)

本機は、多彩な入力端子を装備しています。入力モードを切り替えることにより、入力信号のアナログ/デジタルの優先順位を設定したり、DTSなどの特定の信号に固定したりすることができます。
INPUT MODEキーを押すと、現在の入力モードを表示します。入力モード表示中にもう一度押すと、入力モードが切り替わります。



AUTO:
以下の順序で入力信号が選ばれます。
① デジタル信号
② アナログ信号

DTS:
DTS信号に固定されます。DTS信号以外の信号が入力されても再生されません。

AAC:
AAC信号に固定されます。AAC信号以外の信号が入力されても再生されません。

ANALOG:
アナログ信号に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ご注意

- セットメニュー「INPUT－INPUT MODE」の設定で、本機の電源を入れたときに、前回使っていた入力モードをそのまま使うか、「AUTO」に戻すかを設定できます。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子へ同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子への入力信号が優先されます。

デジタル信号に関するご注意

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。48kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、以下の点にご注意ください。

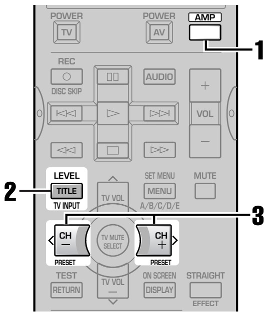
- Hi-Fi DSPおよびCINEMA DSP音場プログラムの音場効果は、サンプリング周波数を48kHz以下に変換したあと付加します。
- THXサラウンドモードについては、そのままのサンプリング周波数で再生することができます。

DTS CD/LD再生時のご注意

- AUTOに設定してDTS音声を再生すると、本機はDTS信号を検出して、自動的にDTSモードに切り替えます。DTS音声の再生が終わっても、再生終了後30秒間はDTSモードのままになっています(この間は、dtsが点滅します)。この状態を解除するには、INPUT MODEキーを押して、AUTOを選びます。
- AUTOに設定してDTS音声を再生しているときに、サーチまたはスキップ操作で30秒以上DTS信号が途切れると、DTSモードが自動的に解除されます。このような場合は、INPUT MODEキーを押して、DTSを選びます。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生されません。

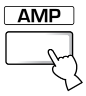
再生しながらスピーカーレベルを調節する

再生音を聴きながら、各スピーカーからの音量を調節します。



1 ***AMPキーを押して、AMPを選ぶ***

リモコンディスプレイに「AMP」が表示されることを確認してください。



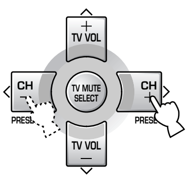
2 ***LEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ***



FRONT L	フロントLスピーカー
CENTER	センタースピーカー
FRONT R	フロントRスピーカー
SUR.R	サラウンドRスピーカー
SUR.B.R	サラウンドバックRスピーカー
SUR.B.L	サラウンドバックLスピーカー
SUR.L	サラウンドLスピーカー
SWFR	サブウーファー
PRES	プレゼンスL/Rスピーカー

3 ***</>キーを押して、スピーカーの音量を調節する***

音量の調節範囲は、－10～＋10dBです。



ヒント

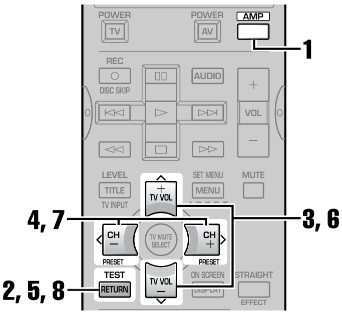
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生中は、独立して音量調節ができます。

ご注意

- セットメニュー「SOUND-SPEAKER SET」で、NONEに設定されているスピーカーの音量は調節できません。
- セットメニュー「SOUND-SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を、FRONTに設定している場合、サブウーファーの調節はできません。
- LEVELキーでスピーカーの音量を調節すると、テストトーンで調節したスピーカーの音量も変更されます。

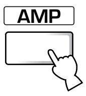
テストトーンを使ってスピーカーレベルを調節する

テストトーンを使って、リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が、全て同じになるように調節します。



1 AMPキーを押して、AMPを選ぶ

リモコンディスプレイに「AMP」が表示されることを確認してください。

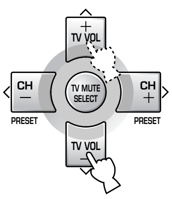


2 TESTキーを押す

テストトーンが出力されます。

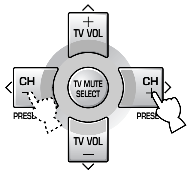


3 ∧/∨ キーを押して、調節したいスピーカーを選ぶ



TEST LEFT	フロントLスピーカー
TEST CENTER	センタースピーカー
TEST RIGHT	フロントRスピーカー
TEST SUR.R	サラウンドRスピーカー
TEST SUR.B.R	サラウンドバックRスピーカー
TEST SUR.B.L	サラウンドバックLスピーカー
TEST SUR.L	サラウンドLスピーカー
TEST SUBWOOFER	サブウーファー

4 </>キーを押して、スピーカーの音量を調節する



5 調節が終わったら、TESTキーを押す

テストトーンが止まります。

セットメニュー「SOUND-SPEAKER SET」の「PRESENCE SP」を、YESに設定している場合は、プレゼンスL/Rスピーカーの音量調節に入ります（手順6へ）。



6 ∧/∨キーを押して、テストトーンを出力するスピーカーを選ぶ

TEST FRONT	フロントL/Rスピーカー
TEST PRESENCE	プレゼンスL/Rスピーカー
TEST PRES L	プレゼンスLスピーカー
TEST PRES R	プレゼンスRスピーカー

7 </>キーを押して、プレゼンススピーカーの音量を調節する

8 調節が終わったら、TESTキーを押す

テストトーンが止まります。

ヒント

- 音圧計をお持ちの場合は、音圧計をCウェイト/スローモードに設定したうえで、各スピーカーからの音量がリスニングポジションで75dB SPLになるよう調節してください。
- 音量を0dBにして調節することをおすすめします。
- 再生するソースによっては、テストトーンで調節したスピーカーの音量が、お好みに合わない場合があります。この場合は、再生しながら調節してください。

ご注意

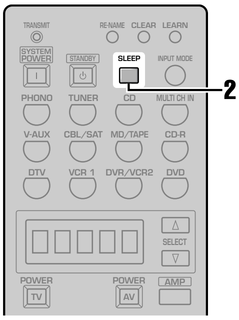
- ヘッドホンを接続していると、テストトーンを使えません。PHONES端子からヘッドホンを外してください。
- セットメニュー「SOUND-SPEAKER SET」で、NONEに設定されているスピーカーの音量は調節できません。
- セットメニュー「SOUND-SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を、FRONTに設定している場合、サブウーファーの調節はできません。

一定時間後に自動的に電源を切る(スリープタイマー)

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイ状態になるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレットに接続した機器(ソース)の電源も切れます。
スリープタイマーの設定は、リモコンで行います。

ヒント

- タイマー再生したいときは、市販のタイマーを使います。本機では再生したい入力ソースを選び、音量を調節しておきます。再生機器やタイマーの取扱説明書もあわせて参照してください。

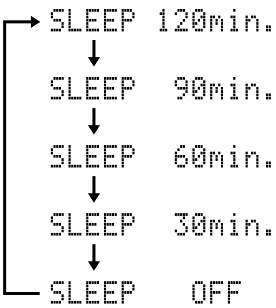


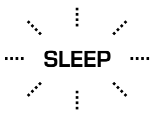
スリープタイマーを設定する

1 ソースを選んで、再生する

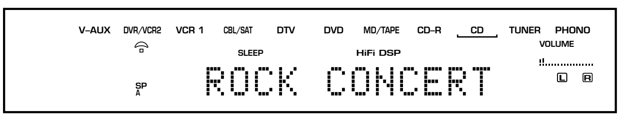
2 SLEEPタイマーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ

SLEEPキーを押すごとに、下記のように時間が切り替わります。その間はSLEEPインジケーターが点滅します。



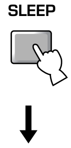


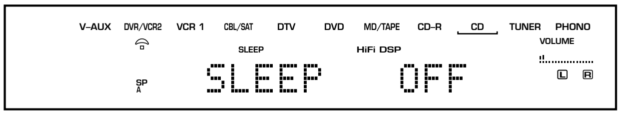
お好みの時間が表示されたら、押すのをやめます。
SLEEPインジケーターが点灯に変わり、音場プログラムの表示に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了します。



スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを押します。「SLEEP OFF」が数秒表示されたあと、音場プログラムの表示に戻り、SLEEPインジケーターも消灯します。





ヒント

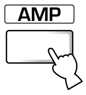
- リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すか、電源コードを抜くと、スリープタイマーは解除されます

入力信号情報を表示する

入力信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を、表示させることができます。

1 ***AMPキーを押して、AMPを選ぶ***

リモコンディスプレイに「AMP」が表示されることを確認してください。



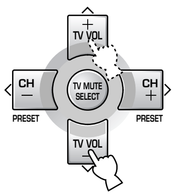
2 ***STRAIGHT/EFFECTキーを押す***

本体ディスプレイに、「STRAIGHT」と表示されます。



3 ***∧/∨キーを押す***

入力信号の情報が表示されます。



入力信号のフォーマットの情報

入力信号	表示
アナログ	Analog
PCM	PCM
ドルビーデジタル	Dolby Digital
DTS	DTS
AAC	AAC
不明なデジタル信号	Unknwn Digital

チャンネル数やサンプリング周波数などの情報

in:

入力信号の音声チャンネル数(ドルビーデジタル/DTS/AAC入力時のみ)。

例えば、「in:3/2/LFE」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/サラウンド2チャンネル/LFE」を示しています。また、二カ国語放送などの主＋副の2チャンネル音声は「1＋1」、3音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。

fs:

入力信号のサンプリング周波数(デジタル信号入力時のみ)。サンプリング周波数が不明の場合は、「unknown」と表示されます。

rate:

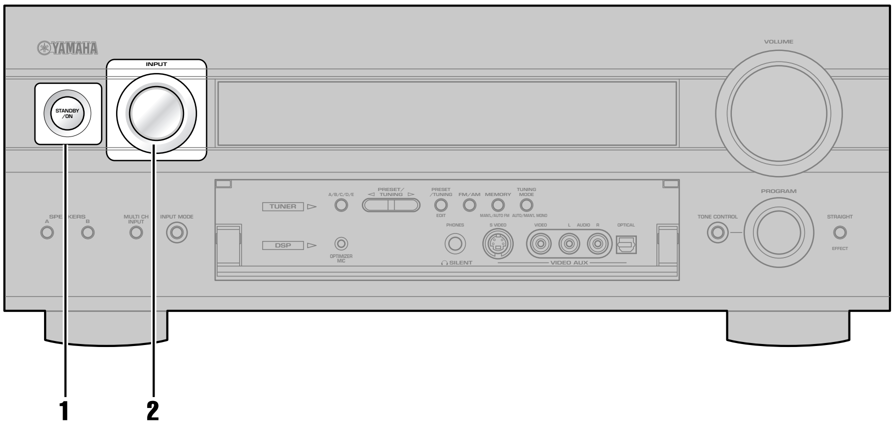
入力信号の1秒あたりのデータ量=ビットレート。ビットレートが不明の場合は、「unknown」と表示されます。

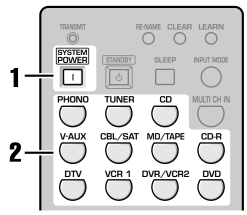
flg:

入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号=フラグ(ドルビーデジタル/DTSのみ)。フラグが認識できなかった場合は、「None」と表示されます。

外部機器で録音/録画する

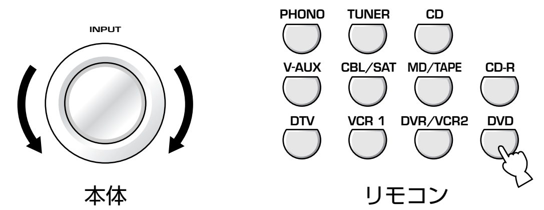
録音レベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。





1 ***本機および本機に接続されている、すべての機器の電源を入れる***

2 ***本体のINPUTセレクター、またはリモコンの入力選択キーで録音/録画したいソースを選ぶ***



3 ***ソースを再生する***

再生する機器の取扱説明書を参照してください。

4 ***録音/録画を開始する***

録音/録画する機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- 録音/録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をしてください。
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音/録画できません。
- 入力ソースのOUT(REC)端子からは、信号は出力されません(例：VCR 1 INへ入力された信号は、VCR 1 OUT端子から出力されません)。
- 本機のDSP処理による音場効果は、録音できません。
- 録音中に、音量や音質を調節したり、音場プログラムを変更しても、録音される音声には影響しません。
- MULTI CH INPUT端子に入力された信号は、録音できません。
- アナログ音声出力端子から、アナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、光デジタル出力端子から、デジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- Sビデオ入力端子に入力されたSビデオ信号は、Sビデオ出力端子からのみ録画できます。同様に、ビデオ入力端子に入力されたビデオ信号は、ビデオ出力端子からのみ録画できます。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

DTSソフトの録音に関するご注意

DTS信号は、デジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタルで録音しても、ノイズだけが録音されます。DTS対応のCD、DVD、LDから録音する場合は、お使いのプレーヤー側で、アナログ信号で出力するように設定し、2チャンネルのアナログ信号で録音してください。詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照ください。

音場プログラムについて

Hi-Fi DSP音場プログラム

プログラムと特長

- CDなどのステレオ音楽ソースに最適なプログラムです。
- フロントL/Rスピーカーの他に4本のエフェクトスピーカー（プレゼンスL/プレゼンスR/サラウンドL/サラウンドR）で音場を再現します。
- 入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

キー	プログラム	サブプログラム	特長または最適ソース
STEREO 1	STEREO	7ch Stereo	ホームパーティーでのBGMを演出する音場
HALL 2	CONCERT HALL	–	響きが豊かな古典的な中ホール
JAZZ 3	JAZZ CLUB	–	ニューヨークで話題のライブハウス“ザ ボトムライン”の音場
ROCK 4	ROCK CONCERT	–	ロサンゼルスのホットなロックライブハウス
ENTERTAIN 5	ENTERTAINMENT	–	集中したエネルギーのホットなディスコの雰囲気

STEREO

7ch Stereo
後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。セットメニューの設定により、最大7つのスピーカーから音が出力されます。

ご注意
- セットメニュー「SOUND-SPEAKER SET」で「SURR B L/R SP」と「PRESENCE SP」を共にNONE以外に設定している場合は、サラウンドバックスピーカーから音を出します。

CONCERT HALL

1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。

JAZZ CLUB

ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。

ROCK CONCERT

ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。

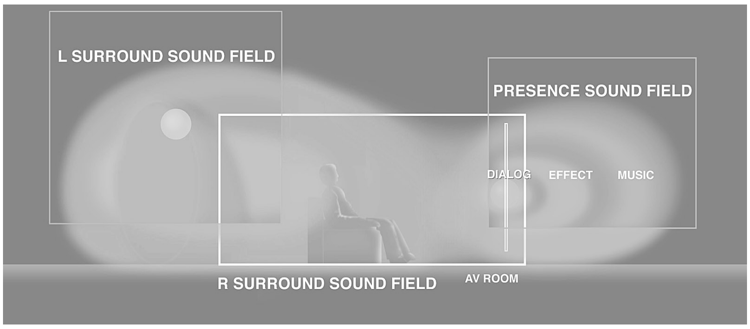
ENTERTAINMENT

Disco
ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。

CINEMA DSP音場プログラム

CINEMA DSP音場プログラムのサウンドデザイン

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。
ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBSデジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。
CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントL/センター/フロントRチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。



2音場

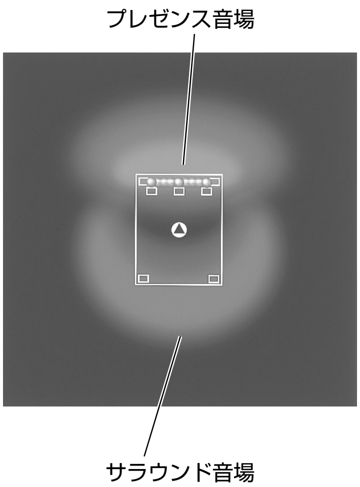
CDやビデオテープなどの、ステレオソースをマトリクス処理し、前方のプレゼンス音場、後方のサラウンド音場を付加します。

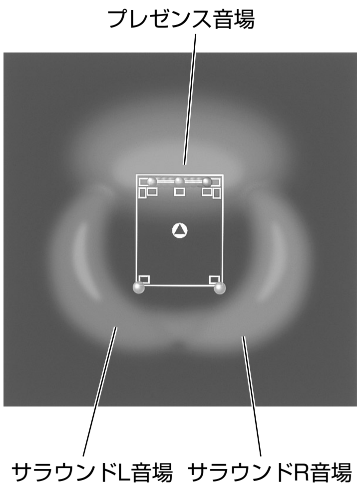
3音場

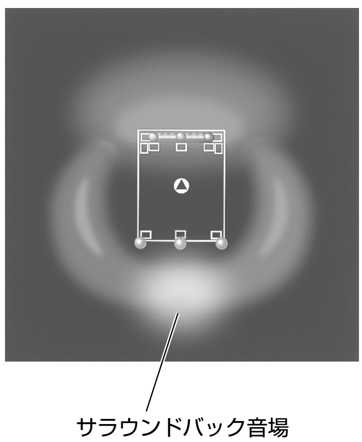
ドルビーデジタル、DTSなどの5.1チャンネルソースに対して、前方のプレゼンス音場と、後方の左右それぞれに独立したサラウンド音場を付加します。

4音場

ドルビーデジタルEX、DTS-ESなど最新の6.1チャンネルソースに対応して、3音場にサラウンドバック音場を加えた、4つの音場を付加します。







プログラムと特長

- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- フロントL/Rスピーカーも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。
- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合、MOVIE THEATERプログラムとDOLBY DIGITAL/DTS/AACプログラムでは、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

キー	プログラム	サブプログラム	特長または最適ソース
ENTERTAIN 5	ENTERTAINMENT	Game	TVゲームの軽快なノリを、さらに加速する痛快なテンポの音場
MUSIC 6	MUSIC VIDEO	–	ロック、ジャズなどのライブコンサートの雰囲気を再現
TV THTR 7	TV THEATER	Mono Movie	適度なDSP処理により往年のモノラル映画を自然に再生
		Variety Sports	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場効果
MOVIE 8	MOVIE THEATER	Spectacle	70mm大画面のスペクタクルな音場効果を再現
		Sci-Fi	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場効果
		Adventure	フィルムトラックにデザインされた演出を最良に再現アドベンチャー映画向き
		General	「アドベンチャー」より大きい映画館の音場、情緒的なソフトに向く柔らかな響きの音場
ＤＤ/DTS 0	DOLBY DIGITAL/ DTS/AAC	DOLBY DIGITAL/ SUR.ENHANCED	ドルビーデジタル、DTS、AACのサラウンド信号に、DSP音場効果を付加する
		DTS/SUR.ENHANCED	
		AAC/SUR.ENHANCED	
		PRO LOGIC/ SUR.ENHANCED	2チャンネル音声をマルチチャンネル化して、DSP音場効果を付加する

ENTERTAINMENT

Game
モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。

MUSIC VIDEO

ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。

TV THEATER

Mono Movie
古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。

Variety/Sports
プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

MOVIE THEATER

Spectacle
70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm映画初期の作品から最新のドルビーデジタルソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。

Sci-Fi
最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンス・フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。

Adventure
最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。

General
70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。

DOLBY DIGITAL/DTS/AAC

SUR.ENHANCED
ドルビーサラウンド、DTSサラウンドまたはAACサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。

ストレートデコード

本機には下記のデコーダーが搭載されています。

- マルチチャンネルソース用の、ドルビーデジタル、DTS、AACデコーダー
- サラウンドバックチャンネル音声再生用の、ドルビーデジタルEX、DTS-ES、ドルビープロロジックⅡxデコーダー
- 96kHz/24bitの高音質再生用のDTS 96/24デコーダー
- ドルビーサラウンドと、2チャンネルソース用の、ドルビープロロジック、ドルビープロロジックⅡx、ドルビープロロジックⅡ、DTS Neo：6デコーダー

音場効果をかけずに、元の音で再生したい場合は、「DOLBY DIGITAL/DTS/AAC」プログラムの、ストレートデコードモードを選んでください。

キー	プログラム	サブプログラム	特長または最適ソース
DD/DTS 0	DOLBY DIGITAL/ DTS/AAC	DOLBY DIGITAL/ SUR STANDARD	ドルビーデジタル、DTS、AACで処理されたソースの再生用。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られる
		DTS/SUR.STANDARD	
		AAC/SUR.STANDARD	
		PRO LOGIC/ SUR.STANDARD	2チャンネル音声を、それぞれの方式でマルチチャンネル化して再生
		PRO LOGIC Ⅱx/ PL Ⅱx Movie	
		PRO LOGIC Ⅱx/ PL Ⅱx Music	
		PRO LOGIC Ⅱx/ PL Ⅱx Game	
		PRO LOGIC Ⅱ/ PL Ⅱ Movie	
		PRO LOGIC Ⅱ/ PL Ⅱ Music	
		PRO LOGIC Ⅱ/ PL Ⅱ Game	
		DTS/Neo：6 Cinema	
		DTS/Neo：6 Music	

入力信号別音場プログラム名一覧

DOLBY DIGITAL/DTS/AACプログラム、またはTHXサラウンドモードで再生しているときは、本機に入力されている信号の種類と、デコーダーの動作により、下記のように音場プログラム名が表示されます。

入力信号 プログラム	アナログ、PCM、ドルビーデジタル(2ch)、DTS(2ch)、AAC(2ch)	ドルビーデジタル	DTS	AAC
DOLBY DIGITAL/ DTS/AAC	PRO LOGIC/ SUR.STANDARD PRO LOGIC IIx/Movie PRO LOGIC IIx/Music PRO LOGIC IIx/Game PRO LOGIC II/Movie PRO LOGIC II/Music PRO LOGIC II/Game DTS Neo:6/Cinema DTS Neo:6/Music	DOLBY DIGITAL/ SUR.STANDARD *1 DolbyD + PL IIx Movie/ SUR.STANDARD *2 DolbyD + PL IIx Music/ SUR.STANDARD *3 DOLBY DIGITAL EX/ SUR.STANDARD	DTS/SUR.STANDARD *1 DTS + PL IIx Movie/ SUR.STANDARD *2 DTS + PL IIx Music/ SUR.STANDARD *3 DTS + DOLBY EX/ SUR.STANDARD *4 DTS ES Mtrx 6.1/ SUR.STANDARD *5 DTS ES Dscrt 6.1/ SUR.STANDARD *6 DTS 96/24/ SUR.STANDARD	AAC/SUR.STANDARD *1 AAC + PL IIx Movie/ SUR.STANDARD *2 AAC + PL IIx Music/ SUR.STANDARD *3 AAC + DOLBY EX/ SUR.STANDARD
	PRO LOGIC/ SUR.ENHANCED	DOLBY DIGITAL/ SUR.ENHANCED *1 DolbyD + PL IIx Movie/ SUR.ENHANCED *2 DolbyD + PL IIx Music/ SUR.ENHANCED *3 DOLBY EX/ SUR.ENHANCED	DTS/SUR.ENHANCED *1 DTS + PL IIx Movie/ SUR.ENHANCED *2 DTS + PL IIx Music/ SUR.ENHANCED *3 DTS + DOLBY EX/ SUR.ENHANCED *4 DTS ES Mtrx6.1/ SUR.ENHANCED *5 DTS ES Dscrt 6.1/ SUR.ENHANCED	AAC/SUR.ENHANCED *1 AAC + PL IIx Movie/ SUR.ENHANCED *2 AAC + PL IIx Music/ SUR.ENHANCED *3 AAC + DOLBY EX/ SUR.ENHANCED
THX	THX Cinema :PRO LOGIC :PL II :Neo:6	THX Cinema *3 THX Surround EX	THX Cinema *4 *5 dts ES + THX	THX Cinema *3 THX Surround EX

*1 ドルビープロロジックIIxデコーダー(Movieモード)動作時(DD PLII 点灯時)

*2 ドルビープロロジックIIxデコーダー(Musicモード)動作時(DD PLII 点灯時)

*3 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時(DD EX 点灯時)

*4 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時(MATRIXインジケーター点灯時)

*5 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時(DISCRETEインジケーター点灯時)

*6 DTS 96/24デコーダー動作時(96/24 点灯時)

音場プログラムパラメーターについて

パラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

DSP LEVEL(ディーエスピー・レベル)

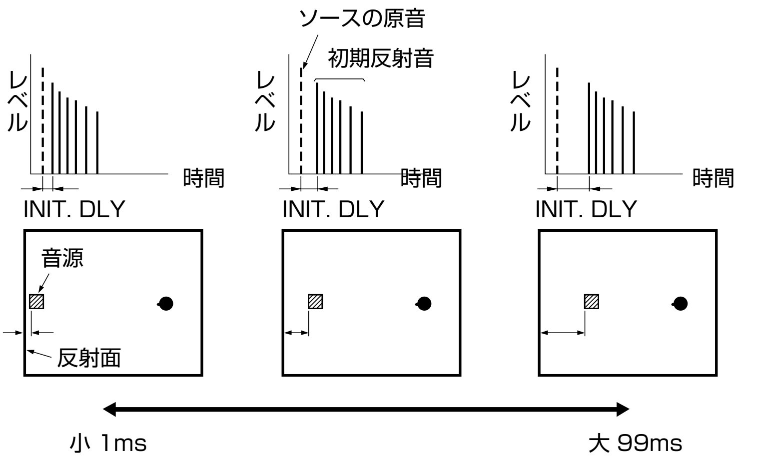
エフェクト音全体のレベルを微調節するパラメーターです。ヘッドホン再生中は調節できません。

可変範囲：−6〜+3dB

INIT. DLY(イニシャル・ディレイ)

直接音から初期反射音が始まるまでの時間(遅延時間)をコントロールするパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。INIT. DLYを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等がコントロールできます。

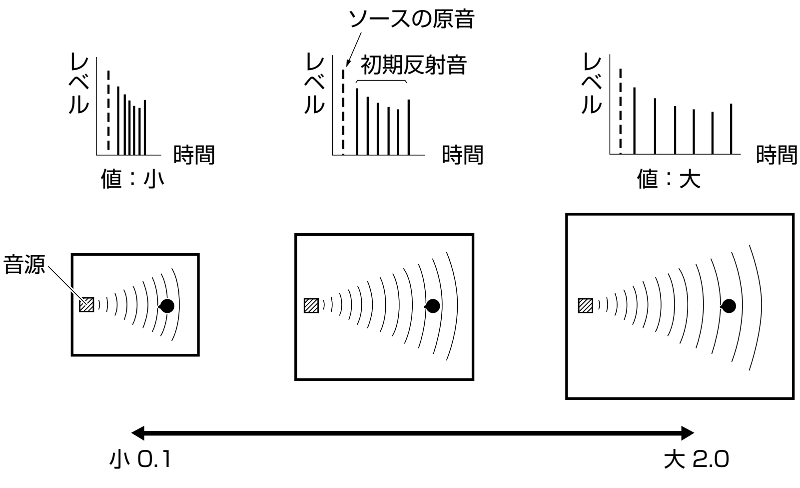
可変範囲：　1〜99ms



ROOM SIZE(ルーム・サイズ)

空間の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど広い空間(部屋)になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の時間間隔をコントロールすれば、拡がり感を変えることができるということになります。1.0で実測値そのまま、2.0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。

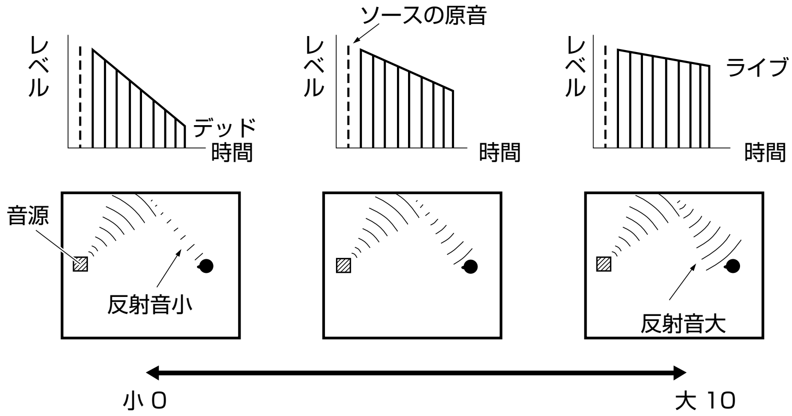
可変範囲：0.1〜2.0



LIVENESS(ライブネス)

初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

可変範囲：0〜10



P. INIT. DLY(プレゼンス・イニシャル・ディレイ)

直接音からプレゼンス音場が始まるまでの時間をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス音場が遅れて発生します。

可変範囲：1〜99ms

P. ROOM SIZE(プレゼンス・ルーム・サイズ)

プレゼンスの拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス反射音同士の時間間隔が長くなり、ソースに含まれる音楽や効果成分に拡がり感が出てきます。

可変範囲：0.1〜2.0

S. INIT. DLY(サラウンド・イニシャル・ディレイ)

直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

可変範囲：1〜49ms

S. ROOM SIZE(サラウンド・ルーム・サイズ)

サラウンド音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が拡がります。

可変範囲：0.1〜2.0

S. LIVENESS（サラウンド・ライブネス）

サラウンド音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。

可変範囲：0〜10

SB INI. DLY（サラウンド・バック・イニシャル・ディレイ）

直接音とサラウンドバック音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバック音場が遅れて発生します。

可変範囲：1〜49ms

SB ROOM SIZE（サラウンド・バック・ルーム・サイズ）

サラウンドバック音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバックの音場空間が拡がります。
EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効です。

可変範囲：0.1〜2.0

SB LIVENESS（サラウンド・バック・センター・ライブネス）

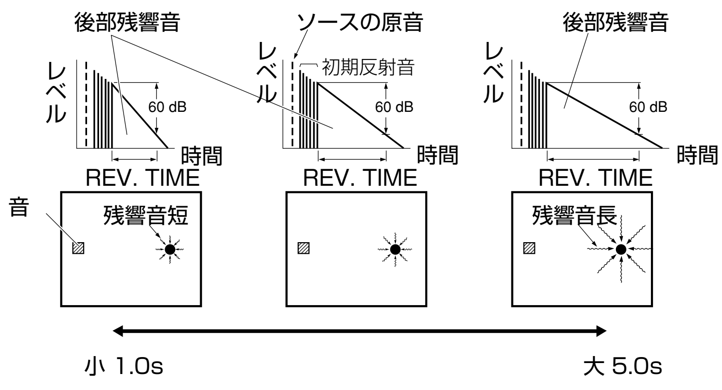
サラウンドバック音場の減衰量をコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバック音場の響きがつよくなります。
EX/ESデコーダーがオンのときのみ有効です。

可変範囲：0〜10

REV. TIME（リバーブレーション・タイム）

後部残響音が減衰していく時間をコントロールするパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。REV. TIMEを調節することにより、デッド気味のソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆にライブ気味のソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。

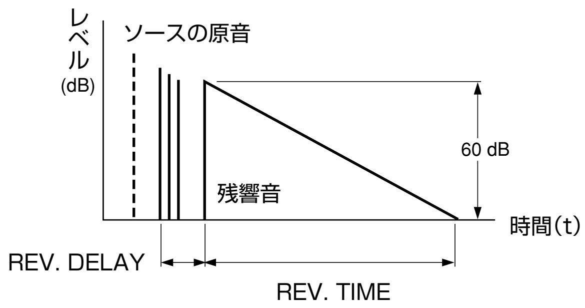
可変範囲：1.0〜5.0s



REV. DELAY（リバーブレーション・ディレイ）

残響音が発生し始めるまでの時間です。値を大きくするほど、残響音が最初の初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV. TIMEでも、REV. DELAYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。

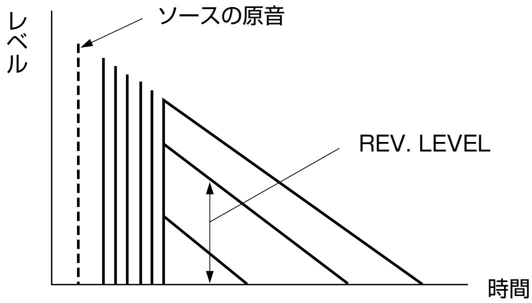
可変範囲：0〜250ms



REV. LEVEL（リバーブレーション・レベル）

後部残響音のレベルをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。

可変範囲：0〜100%



CT LEVEL（センター・レベル）

7ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルの調節をします。

可変範囲：0〜100%

SL LEVEL（サラウンド・レフト・レベル）

7ch Stereo音場でのサラウンドLチャンネルの出力レベルの調節をします。

可変範囲：0〜100%

SR LEVEL（サラウンド・ライト・レベル）

7ch Stereo音場でのサラウンドRチャンネルの出力レベルの調節をします。

可変範囲：0〜100%

SB LEVEL（サラウンド・バック・レベル）

7ch Stereo音場でのサラウンドバックチャンネルの出力レベルの調節をします。

可変範囲：0〜100%

PR LEVEL(プレゼンス・レベル)

7ch Stereo音場でのプレゼンスチャンネルの出力レベルを調節します。

可変範囲：0〜100%

PANORAMA(パノラマ)

ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのフロント音場の拡がり感を調節するパラメーターです。フロントL/Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような拡がり感を得ることができます。ドルビープロロジックⅡx/ドルビープロロジックⅡMusicモードで再生時のみ有効です。

可変範囲：ON/OFF

DIMENSION(ディメンション)

ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのフロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。−にするとサラウンド側、＋にするとフロント側が強くなります。ドルビープロロジックⅡx/ドルビープロロジックⅡMusicモードで再生時のみ有効です。

可変範囲：−3〜STD〜＋3

CENTER WIDTH(センター・ウィドゥス)

ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡのセンター音声の左右への拡がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとフロントL/Rのみからセンター音声が出力されます。ドルビープロロジックⅡx/ドルビープロロジックⅡMusicモードで再生時のみ有効です。

可変範囲：0〜7

C. IMAGE(センター・イメージ)

DTS Neo：6のフロント音場の拡がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の拡がりが大きくなり、大きくすると狭く(センターへの定位が強く)なります。DTS Neo：6 Musicモードで再生時のみ有効です。

可変範囲：0〜0.5

DIALG.LIFT(ダイアログ・リフト)

会話など、中央に定位する音の、定位位置を調節するパラメーターです。値を小さくすると音が下方に定位し、大きくすると上方に定位します。

可変範囲：0〜5

ご注意

- セットメニュー「SOUND-PR/SBch SELECT」をSBchに設定し、かつEX/ESデコーダーをオンにして再生しているときは、プレゼンス成分がフロントL/Rに振り分けられるため、DIALG. LIFTパラメーターを変えても効果はありません。

DEC(デコーダー・セレクト)

2チャンネルのソースに対して、THX Cinemaで再生するときに、2チャンネルソースをマルチチャンネル化するためのデコーダーを選びます。

可変範囲：PRO LOGIC、PL Ⅱ Movie、Neo:6 Cinema

PLⅡ/PLⅡx(PLⅡ/PLⅡxの切り替え)

2チャンネルのソースに対して、DOLBY DIGITAL/DTS/AACプログラムで再生するときに、2チャンネルソースをマルチチャンネル化するためのデコーダーを切り替えます。ドルビープロロジックⅡx Movie/Music/Gameモードで再生時のみ有効です。

可変範囲：PL Ⅱ、PL Ⅱx

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	—
	(再度電源を入れたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき)スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	準備・接続編 11
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
STANDBY/ONスイッチ(SYSTEM POWERキー)を押しても電源が入らない	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	準備・接続編 28
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	—
オンスクリーン画面が表示されない	オンスクリーン表示の設定を、表示オフに設定している。	フル表示またはショート表示に設定してください。	準備・接続編 29
	セットメニュー「OPTION-DISPLAY SET」の「GRAY BACK」を、OFFに設定している。	映像信号が入力されていないときは、表示されません。常に表示させる場合は、AUTOに設定してください。	37
音声や画像が出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。	準備・接続編14
	再生したいソースが、正しく選ばれていない。	INPUTセレクターやMULTI CH INPUTキーで、再生したいソースを正しく選んでください。	基本操作編 4〜13
	スピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。	準備・接続編11
	音を出すスピーカーが、正しく選ばれていない。	SPEAKERS A/Bスイッチで、スピーカーを正しく選んでください。	基本操作編 4〜13
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。	基本操作編7
	消音されている。	リモコンのMUTEキーまたはVOL＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	基本操作編 7
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
音声が突然出なくなる	消音した。	リモコンのMUTEキーまたはVOL＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください	基本操作編 7
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。	準備・接続編 14

症状	原因	対策	参照ページ
エフェクトスピーカー（センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）から音声が出ない	2ch StereoまたはDirect Stereoで再生している。	別の音場プログラムを選んでください。	基本操作編 4〜13
	ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号でエフェクトチャンネル信号が入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選んでください。	基本操作編 4〜13
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が絞られている。	センタースピーカーの音量を調節してください。	57・58
	セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の「CENTER SP」を、NONEに設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、LARGEまたはSMALLに設定してください。	26
	Hi-Fi DSP音場プログラムを選んでいる。	DSP処理の仕様により、入力信号のフォーマットによっては、センタースピーカーからの音声出力がない場合があります。	—
サラウンドL/Rスピーカーから音声が出ない	サラウンドL/Rスピーカーの音量が絞られている。	サラウンドL/Rスピーカーの音量を調節してください。	57・58
	セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」を、NONEに設定している。	お使いのサラウンドL/Rスピーカーに合わせて、LRGまたはSMLに設定してください。	26
	DOLBY DIGITAL/DTS/AACプログラムで、モノラルソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。	基本操作編 4〜13
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	サラウンドバックスピーカーの音量が絞られている。	サラウンドバックスピーカーの音量を調節してください。	57・58
	セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」を、NONEに設定している。	「SURR L/R SP」をNONEに設定すると、自動的に「SB SP」もNONEに設定されます。「SURR L/R SP」の設定を、LRGまたはSMLに設定してください。	26
	セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」を、NONEに設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、LRG×2、LRG×1、SML×2、SML×1のいずれかに設定してください。	26
サブウーファーから音声が出ない	セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」をFRONTに設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	SWFRまたはBOTHに設定してください。	26
	セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」をSWFRまたはFRONTに設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	BOTHに設定してください。	26
	再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		—
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
低音の再生不良	セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の「CROSS OVER」が、正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、正しく設定してください。	26
	セットメニュー「SOUND－SPEAKER SET」の設定が、実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、各スピーカーを正しく設定してください。	26
ハム音が出る	ステレオピンケーブルの接続が不完全。	ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。	準備・接続編 18〜26
	レコードプレーヤーのアースがSIGNAL GND端子に接続されていない。	アースコードを本機のSIGNAL GND端子に接続してください。	準備・接続編 21

症状	原因	対策	参照ページ
レコードの再生音が小さい	ＭＣカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	準備・接続編 21
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機のOUT（REC）端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、OUT（REC）端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。		—
録音できない	デジタル録音時にアナログで信号を入力している。	デジタルで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。	準備・接続編 18～26
	アナログ録音時にデジタルで信号を入力している。	アナログで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	準備・接続編 18～26
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。		—
DSPパラメーターやセットメニューなどを変更できない	セットメニュー「OPTION-MEMORY GUARD」をONに設定している。	OFFに設定してください。	38
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度設定しなおしてください。	—
コンポーネントビデオ信号入力時にセットメニューを表示すると、画像にノイズが出る	走査線の切り替えにより、ノイズが発生することがあります。	セットメニュー「OPTION－DISPLAY SET」の「CMPNT OSD」をOFFに設定してください。	37
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源がスタンバイ状態になっている。	本機の電源を入れてください。	基本操作編 4～13
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	—

FM/AM放送の受信

	症状	原因	対策	参照ページ
FM/AM	プリセット選曲ができない	プリセット(メモリー)が消えている。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度プリセットしてください。	19・20
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。	アンテナの接続を確認してください。	準備・接続編27
			屋外アンテナを多素子のものに変えてください。	—
			マニュアル選局をしてください。	基本操作編10
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
AM	オート選局ができない	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。	マニュアル選局をしてください。	基本操作編10
			屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。	—
	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	準備・接続編27
			マニュアル選局をしてください。	基本操作編10
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	—
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機からテレビを離してください。	—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6ｍ以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	準備・接続編9
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	準備・接続編9
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選ぶ。	43
	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	45
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	メーカーコードで操作できない機能は、機器のリモコンから本機のリモコンにラーニング(学習)してください。	47
リモコンが新しい機能をラーニング(学習)しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの電池が消耗している。	電池を交換してください。	準備・接続編9
	2台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	2台のリモコンを5～10cmの距離に配置してください。	47
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	ラーニング(学習)はできません。	—
	メモリ容量がいっぱいになっている。	ラーニングされている機能のうち、不要なものを消去して、メモリ容量に空きを作ってください。	55

音声フォーマット編

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL/Rチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のサラウンドチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル(フロントL/R、センター)と、サラウンド2チャンネル(サラウンドL/R)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています(サラウンドバックチャンネルはサラウンドLとサラウンドRチャンネルから作られます)。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックII

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

ドルビープロロジックIIx

2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

DTS(デジタル・シアター・システムズ)デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(フロントL/R、センター、サラウンドL/Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。

DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL/Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の2つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

DTS Neo：6

2チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

DTS 96/24

DTS 96/24フォーマットで収録されたソフトに記録されている、DTS信号の拡張用データを使用して「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24ビット」の高音質での5.1チャンネル再生が可能です。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BSデジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BSデジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復号)して再生できます。

音場プログラム編

シネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマDSP

サラウンドL/Rスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドL/Rスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL/Rスピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

サイレントシアター

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

THX

THXは、世界的に有名な映画制作会社であるルーカスフィルム社が開発した独自規格と技術を集約したものです。「映画館でも家庭でも、映画監督の思い描いたサウンドトラックをできる限り忠実に再現したい」という、ジョージ・ルーカス監督の情熱により開発されました。

THX Cinema

映画のサウンドトラックは、ダビングステージと呼ばれるミキシング専用の大型映画館で制作されます。これらのサウンドトラックは、同じ装置を備える映画館での上映のために制作されていますが、DVDなどに収録する際も、一切変更を加えず、そのまま収録されています。
THX Cinemaは、映画館向けのサウンドトラックを、映画館と家庭との空間的な違いによる音色の差を補正することで、一般家庭でも映画館と同等の臨場感で再生します。

THX Select

THX Selectの認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX Selectのロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Selectの要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。

THX Surround EX

THX Surround EXは、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社THX部門の共同開発です。
映画館では、ドルビーデジタルサラウンドEX技術でエンコードされたサウンドトラックにより、ミキシング時に追加されたサラウンドバックチャンネルを再現することが可能です。従来のフロントL/R、センター、サラウンドL/R、サブウーファーという5.1チャンネルに、サラウンドバックチャンネルを加えることにより、後方部の拡がり感をより緻密に再現し、音の定位感ももたらします。
THX Surround EXは、ドルビーデジタルサラウンドEX技術でエンコードされたサウンドトラックを、映画館で上映されたときの臨場感のまま、一般家庭で再生します。
ドルビーデジタルサラウンドEX技術を使って制作された映画は、DVDなどで市場で販売される際、そのパッケージに効果に関する説明を表示しているものがあります。ドルビーデジタルサラウンドEX技術を使って制作された映画の一覧、およびドルビーデジタルサラウンドEX技術を使ってエンコードされたDVDタイトルの一覧は、それぞれ下記のウェブサイトでご覧になれます。
映画一覧：http://www.dolby.com
DVDタイトル一覧：http://www.thx.com

Re-Equalization(リ・イコライゼーション)

映画のサウンドトラックは、映画館での上映用に制作されているため、家庭用の機器で再生すると、明るすぎたり、うるさく聞こえてしまいます。リ・イコライゼーションは、このような映画のサウンドトラックを小型のホームシアターで、最適な音のバランスを再現して再生します。

Timbre Matching(ティンバー・マッチング)

人間の耳は、音の来る方向によって音の感じ方が変わります。映画館では、サラウンドスピーカーが聴衆を囲むように配置されているため、音が全方向から来ますが、ホームシアターでは、リスナーの両側2本のみが使われます。ティンバー・マッチングは、サラウンドスピーカーからの音を、フロントスピーカーの音の特性に合わせることで、フロントーサラウンド間の音のつながりをスムーズにし、拡がりがあるサウンドを再現します。

Adaptive Decorrelation(アダプティブ・デコリレーション)

映画館では、多数のサラウンドスピーカーが創り出す、包み込むようなサラウンドサウンドが体験できます。しかし、ホームシアターでは通常2本のスピーカーしか使われないため、空間的な拡がりや、サラウンド感に欠けてしまったり、また近接したスピーカーにサラウンドサウンドを取り込まれてしまいます。アダプティブ・デコリレーションは、サラウンドチャンネル間の時間と位相を微妙に変化させることにより、2本のスピーカーだけを使って、映画館と同様の拡がりがあるサウンドを再現します。

音声編

PCM(リニアPCM)

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。

LFE(ロー・フリケンシー・エフェクト)0.1チャンネル

音声成分の帯域が20〜120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

映像編

コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号をひとつにまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S ビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生をお楽しみいただけます。

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すP_B/C_B信号およびP_R/C_R信号の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。

D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比、インターレース/プログレッシブの情報)を、一本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD１からD５に分けられています。本機にはD4 VIDEO端子が装備されており、D1からD4の規格に対応しています。

主な仕様

オーディオ部

定格出力(6Ω、20Hz～20kHz、0.06% THD)
- フロントL/R ..... 110W+110W
- センター 110W
- サラウンドL/R ..... 110W+110W
- サラウンドバックL/R 110W

実用最大出力(EIAJ、6Ω、1kHz、10% THD)
- フロントL/R ..... 170W+170W
- センター 170W
- サラウンドL/R ..... 170W+170W
- サラウンドバックL/R 170W

ダンピングファクター(8Ω、20Hz～20kHz)
- フロントL/R 140以上

入力感度/インピーダンス
- PHONO(MM) 3.5mV/47kΩ
- CD他 200mV/47kΩ
- MULTI CH INPUT 200mV/47kΩ

出力電圧/インピーダンス
- REC OUT 200mV/1.2kΩ
- PREOUT 1.0V/500Ω
- SUBWOOFER 2.0V/500Ω

ヘッドホン出力/インピーダンス 150mV/100Ω

周波数特性(10Hz～100kHz)
- CD他－フロントL/R ..... －3.0dB

全高調波歪率(20Hz～20kHz)
- PHONO(MM)－REC OUT 0.02%以下
- CD他－フロントSP OUT 0.04%以下

S/N比(IHF-Aネットワーク、入力ショート)
- PHONO(MM)(2.5mV入力)－SP OUT 80dB以上
- CD他(250mV入力)－SP OUT 100dB以上

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)
- フロントSP OUT 150μV以下

チャンネルセパレーション(5.1kΩターミネート、1kHz/10kHz)
- CD他 60dB以上/45dB以上

トーンコントロール
- BASS ..... ±6dB/50Hz
- TREBLE ..... ±6dB/20kHz

A/Dコンバーター
- デルタシグマ方式96kHz対応24ビットA/Dコンバーター

D/Aコンバーター
- デルタシグマ方式192kHz対応24ビットD/Aコンバーター

ビデオ部

ビデオ信号方式 ..... NTSC

コンポジットビデオ信号レベル 1Vp-p/75Ω

Sビデオ信号レベル
- Y 1Vp-p/75Ω
- C 0.286Vp-p/75Ω

コンポーネントビデオ信号レベル
- Y 1Vp-p/75Ω
- PB/CB、PR/CR 0.7Vp-p/75Ω

S/N比 50dB以上

周波数帯域(MONITOR OUT)
- VIDEO ..... 5Hz～10MHz、－3dB
- S VIDEO ..... 5Hz～10MHz、－3dB
- COMPONENT VIDEO ..... 5Hz～60MHｚ、－3dB
- D4 VIDEO ..... 5Hz～60MHｚ、－3dB

FMチューナー部

受信周波数 ..... 76.0MHz～90.0MHz

実用感度(IHF) ..... 1.0μV(11.2dBf)

S/N比(IHF)
- モノ 76dB
- ステレオ 70dB

歪率(1kHz)
- モノ 0.2%
- ステレオ 0.3%

ステレオセパレーション(1kHz) 42dB

周波数特性(20Hz～15kHz) ..... +0.5/－2dB

AMチューナー部

受信周波数 ..... 531kHz～1611kHz

実用感度 300μV/m

総合

電源電圧 ..... AC100V、50/60Hz

消費電力 400W

待機時消費電力 0.5W

ACアウトレット(電源スイッチ連動×2) 合計100W

寸法(幅×高さ×奥行き) ..... 435×171×433.5mm

質量 15.5kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

メーカーコード一覧

本機のリモコンに内蔵のライブラリーは全世界対応です。下表は主に日本で流通しているメーカーのコードを抜粋したものです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。設定方法については「リモコンで操作できる機器を指定する」(45ページ)を参照してください。

メーカー名	短縮表示	フル表示
TV		
AIWA	Aiwa	–
BEST	Bsta1～4	Best/14M01-1～4
	Bstb	Best/14M02
	Bstc	Best/14M10
	Bstd1～4	Best/20M01-1～4
	Bste1～4	Best/20M02-1～4
	Bstf	Best/20M03
	Bstg	Best/25M010
	Bsth	Best/D25AV10
DACUS	Dacu1～2	Dacus-1～2
DAEWOO	Daew1～6	Daewoo-1～6
FUNAI	Funai	–
GENERAL (FUJITSU GENERAL)	Gener	General
GOLDSTAR	Gold1～9	Goldstar-1～9
HITACHI	Hita1～9	Hitachi-1～9
INTERCONP	Intcp	Interconp
MITSUBISHI	Mits1～9	Mitsubishi-1～9
NEC	NEC-1～9	–
PANASONIC	Pana1～8	Panasonic-1～8
PHILIPS	Phip1～3	Philips-1～3
PIONEER	Pion1～4	Pioneer-1～2
SAMSUNG	Sams1～9	Samsung-1～9
	Samsu	Samsung
SANYO	Sany1～9	Sanyo-1～9
SHARP	Shar1～9	Sharp-1～9
SONY	Sony1～7	Sony-1～7
TOSHIBA	Tosh1～7	Toshiba-1～7
VICTOR	Vict1～4	Victor-1～4
YAMAHA	Yama1～3	Yamaha-1～3
ケーブルTVチューナー		
PIONEER	Pion1～Pion2	Pioneer-1～2
BSデジタルチューナー		
PANASONIC	Panas	Panasonic
SONY	Sony	–
TOSHIBA	Tosh1～2	Toshiba-1～2

メーカー名	短縮表示	フル表示
テープデッキ		
AIWA	Aiwa1～3	Aiwa-1～3
AKAI	Akai	–
DENON	DENON	–
KENWOOD	Kenw1～6	Kenwood-1～6
MARANTZ	Mara1～2	Marantz-1～2
MITSUBISHI	Mitsu	Mitsubishi
ONKYO	Onky1～2	Onkyo-1～2
PIONEER	Pion1～3	Pioneer-1～3
SANSUI	Sans1～2	Sansui-1～2
SHARP	Sharp	–
SONY	Sony1～3	Sony-1～3
TEAC	Teac1～2	Teac-1～4
TECHNICS	Tech1～2	Technics-1～2
VICTOR	JVC-1～4	–
	Victr	Victor
YAMAHA	Yama1～7	Yamaha-1～7
ビデオデッキ		
AIWA	Aiwa1～2	Aiwa-1～2
DAEWOO	Daew1～4	Daewoo-1～4
FUNAI	Funai	–
GOLDSTAR	Gold1～3	Goldstar-1～3
HITACHI	Hita1～7	Hitachi-1～7
MITSUBISHI	Mits1～5	Mitsubishi-1～5
NEC	NEC-1～7	–
PANASONIC	Pana1～9	Panasonic-1～9
SAMSUNG	Sams1～4	Samsung-1～4
SANYO	Sany1～5	Sanyo-1～5
SHARP	Shar1～2	Sharp-1～2
SONY	Sony1～7	Sony-1～7
TOSHIBA	Tosh1～7	Toshiba-1～7
VICTOR	JVC-1～5	–
	Vict1～2	Victor-1～2
YAMAHA	Yama1～4	Yamaha-1～4
DVDプレーヤー		
DENON	DENON	–
HITACHI	Hitac	Hitachi
KENWOOD	Kenwo	Kenwood
MITSUBISHI	Mitsu	Mitsubishi
ONKYO	Onky1～2	Onkyo-1～2
PANASONIC	Panas	Panasonic
PHILIPS	Phip1～2	Philips-1～2
PIONEER	Pion1～2	Pioneer-1～2
SAMSUNG	Samsu	Samsung
SHARP	Sharp	–
SONY	Sony	–
TOSHIBA	Tosh1～2	Toshiba-1～2
VICTOR	JVC-1～2	–
YAMAHA	Yama1～4	Yamaha-1～4

メーカー名	短縮表示	フル表示

LDプレーヤー

AIWA	Aiwa	–
DENON	DENON	–
FUNAI	Funai	–
HITACHI	Hitae	Hitachi (E)
KENWOOD	Kenw1～2	Kenwood-1～2
MARANTZ	Maran	Marantz
MITSUBISHI	Mitsu	Mitsubishi
PANASONIC	Pana1～2	Panasonic-1～2
PHILIPS	Phips	Philips
PIONEER	Pion1～3	Pioneer-1～3
SHARP	Sharp	–
SONY	Sony1～3	Sony-1～3
VICTOR	Victr	Victor
YAMAHA	Yama1～2	Yamaha-1～2

CDプレーヤー

AIWA	Aiwa1～4	Aiwa-1～4
DENON	DENO1～3	DENON-1～3
GOLDSTAR	Gold1～4	Goldstar-1～4
HITACHI	Hita1～4	Hitachi-1～4
KENWOOD	Kenw1～9	Kenwood-1～9
KYOCERA	Kyoce	Kyocera
LUXMAN	Luxm1～6	Luxman-1～6
MARANTZ	Mara1～6	Marantz-1～6
MITSUBISHI	Mits1～2	Mitsubishi-1～2
NAKAMICHI	Naka1～3	Nakamichi-1～3
NEC	NEC-1～3	–
ONKYO	Onky1～5	Onkyo-1～5
PANASONIC	Pana1～4	Panasonic-1～4
PHILIPS	Phip1～2	Philips-1～2
PIONEER	Pion1～3	Pioneer-1～3
SAMSUNG	Samsu	Samsung
SANSUI	Sans1～5	Sansui-1～5
SANYO	Sany1～4	Sanyo-1～4
SHARP	Shar1～5	Sharp-1～5
SONY	Sony1～4	Sony-1～4
TEAC	Teac1～7	Teac-1～7
TECHNICS	Tech1～3	Technics-1～3
VICTOR	Victr	Victor
YAMAHA	Yama1～7	Yamaha-1～7

CDレコーダー

HITACHI	Hitac	Hitachi
MARANTZ	Mara1～2	Marantz-1～2
PHILIPS	Phips	Philips
PIONEER	Pion1～2	Pioneer-1～2
VICTOR	JVC	–
YAMAHA	Yamah	Yamaha

MDレコーダー

KENWOOD	Kenwo	Kenwood
PIONEER	Pione	Pioneer
SHARP	Sharp	–
SONY	Sony	–
YAMAHA	Yama1～4	Yamaha-1～4

索引

(準):「準備・接続編」を参照ください。
(基):「基本操作編」を参照ください。
(応):「応用操作編」(本書)を参照ください。

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

A、B、C、D、E、F

G、H、I、J、K、L

M、N、O、P、Q、R

S、T、U、V、W、X、Y、Z

数字、記号

入力信号と再生スピーカー対応表

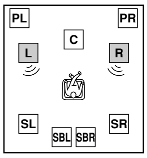
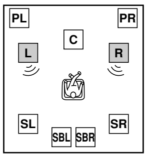
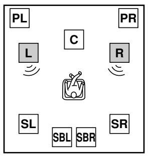
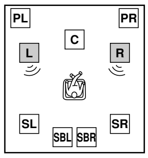
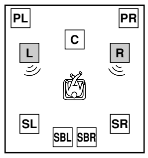
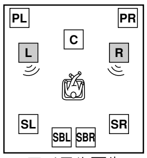
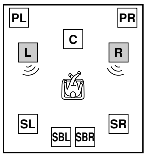
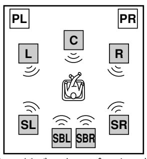
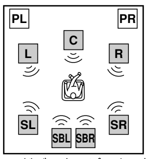
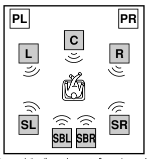
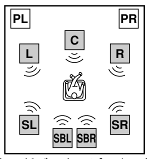
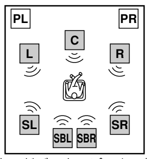
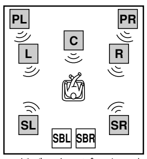
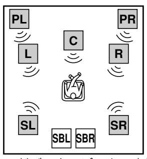
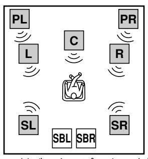
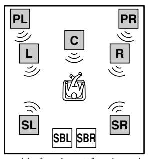
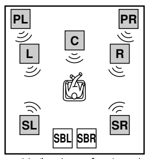
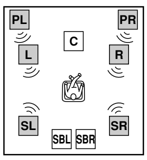
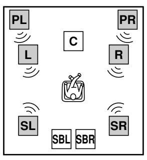
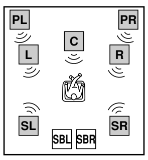
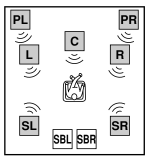
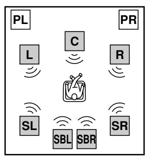
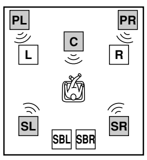
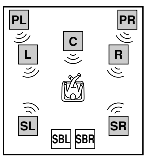
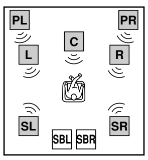
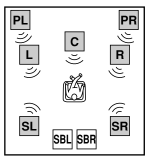
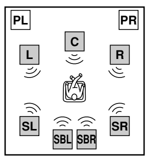
入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

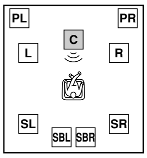
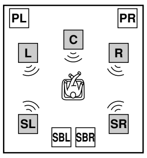
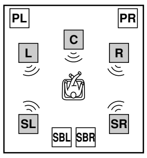
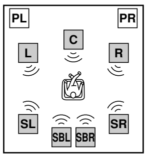
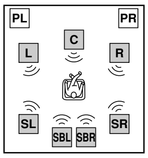
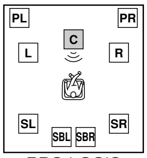
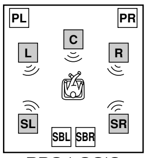
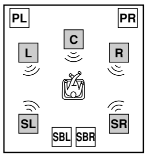
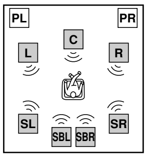
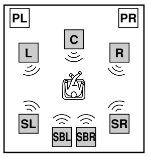
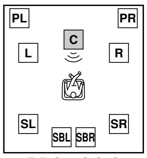
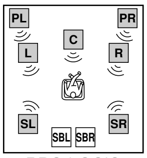
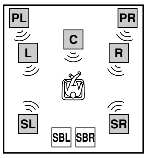
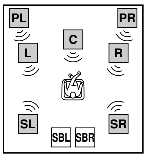
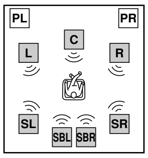
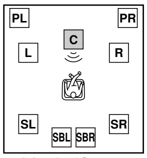
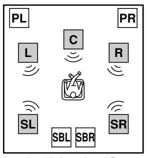
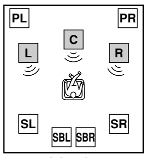
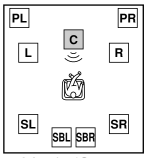
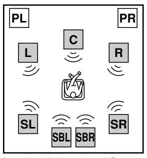
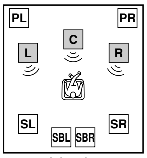
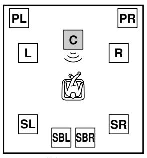
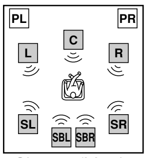
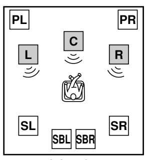
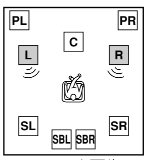
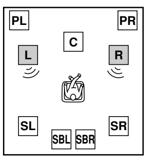
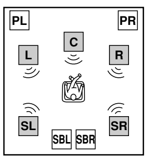
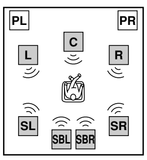
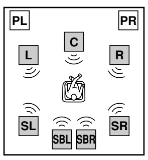
ご注意

- 再生するソースに含まれている信号成分によっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合せて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

表中のイラストは以下の内容を表しています。

L	フロントLスピーカー
C	センタースピーカー
R	フロントRスピーカー
PL	プレゼンスLスピーカー
PR	プレゼンスRスピーカー
SL	サラウンドLスピーカー
SR	サラウンドRスピーカー
SBL	サラウンドバックLスピーカー
SBR	サラウンドバックRスピーカー
	音が出ているスピーカー
	音が出ていないスピーカー

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声 (□□EX/□□PLII/ES インジケーター消灯時)	5.1/6.1 チャンネル音声 (□□EX/□□PLII/ES インジケーター点灯時) PR/SBch SELECT: PRchに設定	PR/SBch SELECT: SBchに設定
STEREO 2ch Stereo					
STEREO Direct Stereo	 モノラル再生		—	—	—
STEREO 7ch Stereo	 サラウンドバックスピーカー接続時	 サラウンドバックスピーカー接続時	 サラウンドバックスピーカー接続時	 サラウンドバックスピーカー接続時	 サラウンドバックスピーカー接続時
	 サラウンドバックスピーカー未接続時	 サラウンドバックスピーカー未接続時	 サラウンドバックスピーカー未接続時	 サラウンドバックスピーカー未接続時	 サラウンドバックスピーカー未接続時
CONCERT HALL JAZZ CLUB ROCK CONCERT ENTERTAIMENT Disco					
ENTERTAINMENT Game MUSIC VIDEO TV THEATER MOVIE THEATER					

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声(EX/PLII/ES インジケーター消灯時)	5.1/6.1 チャンネル音声(EX/PLII/ES インジケーター点灯時) PR/SBch SELECT: PRchに設定	PR/SBch SELECT: SBchに設定
THX THX Cinema THX Surround EX					
SUR.STANDARD DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	 PRO LOGIC	 PRO LOGIC			
SUR.ENHANCED DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	 PRO LOGIC	 PRO LOGIC			
PRO LOGIC II Movie Music Game	 Movie/Game	 Movie/Music/Game	—	—	—
	 Music				
PRO LOGIC IIx Movie Music Game	 Movie/Game	 Movie/Music/Game	—	—	—
	 Music				
DTS Neo:6 Cinema Music	 Cinema	 Cinema/Music	—	—	—
	 Music				
STRAIGHT	 モノラル再生				

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。
このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

● 保証期間
お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
- ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 – 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053) 460 – 3409

FAX (053) 460 – 3489
住所 〒430-8650
静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00～12:00、13:00～18:00
(日･祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは
(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜　松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

四　国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？
- ● 電源コード・プラグが異常に熱い。
- ● コゲくさい臭いがする。
- ● 電源コードに深いキズか変形がある。
- ● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- ● 電源を入れても正常に作動しない。
- ● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

YAMAHA
ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1

Printed in Malaysia WC01810-3